

『α』専用サポートサイト

製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法、使用可能なメモリーカード、アクセサリー互換情報に加えて、撮影方法など写真をもっと楽しみたいときに役立つ情報を掲載しています。

<https://www.sony.jp/support/ichigan/>



ソフトウェアのサポート情報

Imaging Edgeシリーズなどのソフトウェア・アプリケーションに関する情報を掲載しています。

<https://www.sony.jp/support/r/disoft/>

アクセサリー対応情報

本機に対応したレンズやアクセサリーなどを掲載しています。

<https://www.sony.jp/support/r/ichigan/connect/>



よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。
<https://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル **0120-333-020**
携帯電話・PHS・一部のIP電話... **050-3754-9577**

修理相談窓口

フリーダイヤル **0120-222-330**
携帯電話・PHS・一部のIP電話... **050-3754-9599**
※付属品の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX(共通) **0120-333-389**

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<https://www.sony.co.jp/>



©2021 Sony Corporation
Printed in China

SONY

5-026-814-01(1)

レンズ交換式デジタルカメラ

α7R III

α7R III

Eマウント

取扱説明書



ヘルプガイド (Web取扱説明書)

Web上のマニュアル「ヘルプガイド」も
ご覧ください。パソコンやスマートフォン
でご覧いただけます。

<https://rd1.sony.net/help/ilc/2050/ja/>

ILCE-7RM3A

⚠ 警告 安全のために

→ 239 ~ 241ページも
あわせてお読みください。

誤った使いかたをしたときに生じる感電や傷害など人への危害、また火災などの財産への損害を未然に防止するため、次のことを必ずお守りください。



「安全のために」の注意事項を守る

定期的に点検する

1年に1度は、電源プラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、電源コードに傷がないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

カメラやACアダプター、バッテリーチャージャーなどの動作がおかしくなったり、破損していることに気がついたら、すぐに相談窓口へご相談ください。

万一、異常が起きたら

変な音・
においがしたら
煙が出たら

- ① 電源を切る
➡ ② 電池をはずす
③ 相談窓口に連絡する

裏表紙に相談窓口の連絡先があります。

⚠ 危険 万一、電池の液漏れが起きたら

- ① すぐに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火、破裂のおそれがあります。
- ② 液が目に入った場合は、こすらず、すぐに水道水などきれいな水で充分に洗ったあと、医師の治療を受けてください。
- ③ 液を口に入れたり、なめた場合は、すぐに水道水で口を洗浄し、医師に相談してください。
- ④ 液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。

警告表示の意味

この取扱説明書や製品では、次のような表示をしています。

⚠ 危険

この表示のある事項を守らないと、極めて危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生します。

⚠ 警告

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

⚠ 注意

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



プラグをコンセントから抜く



指示

電池について

安全のためにの文中の「電池」とは、「バッテリーパック」も含みます。

ヘルプガイドを活用しましょう！



ヘルプガイドは、パソコンやスマートフォンでご覧いただける、Web上のマニュアルです。メニューの詳細や応用的な使いかた、最新情報などを説明しています。



ここから
アクセス

<https://rd1.sony.net/help/ilc/2050/ja/>

ILCE-7RM3A ヘルプガイド



取扱説明書(本書)



基本的な操作を説明しています。

本機をすぐに使ってみたい方は、「スタートガイド」(33ページ)をご覧ください。初めてのシャッターを切るまでに必要な準備を説明しています。

カメラ内ガイド



MENU(メニュー)の説明をカメラの画面に表示する機能です。

撮影中でもサッと調べられて便利です。

この機能を使うには、あらかじめ設定が必要です。設定方法は、ヘルプガイドにアクセスして「カメラ内ガイド」を検索してみてください。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

目次

安全のために.....	2
ヘルプガイドを活用しましょう！.....	3
お使いになる前に必ずお読みください.....	12

撮影の準備

本体と付属品を確認する	16
各部の名称	17
本体前面	17
本体後面	18
本体上面/側面	20
本体底面	24
基本的な操作	25
コントロールホイールの使いかた	25
マルチセレクターの使いかた	25
Fn (ファンクション)ボタンの使いかた	26
クイックナビの使いかた	27
画面表示を変える	29
画面表示を切り換える(撮影/再生)	29
DISPボタン(背面モニター / ファインダー)	31

スタートガイド	33
ステップ1：バッテリーを充電する	33
ステップ2：バッテリーを本機に入れる	34
ステップ3：メモリーカードを本機に入れる	35
ステップ4：レンズを取り付ける	37
ステップ5：電源を入れて日付と時刻を設定する	39
ステップ6：オートモードで撮影する	40

撮影

静止画を撮影する	42
フォーカス(ピント)を合わせる	44
フォーカスマード	44
オートフォーカス	46
フォーカスエリア	46
[AF] 縦横フォーカスエリア切換	50
AF/MFコントロール	51
AFオン	52
顔/瞳AF設定	52
[AF] ピント拡大中のAF	55
中央ボタン押しロックON AF	56
[AF] フォーカスエリア登録機能	58
[AF] AF補助光	59
AF微調整	60
[AF] AFシステム	61
マニュアルフォーカス	62
ダイレクトマニュアルフォーカス(DMF)	63
ピント拡大	64
[AF] MFアシスト	65

ドライブ機能を使う(連写/セルフタイマー)	67
連続撮影	68
セルフタイマー	70
セルフタイマー(連続)	71
連続ブラケット	72
1枚ブラケット	73
ブラケット撮影時のインジケーター	74
ホワイトバランスブラケット	74
DROブラケット	75
タッチ機能を使う	77
タッチ操作	77
タッチパネル/タッチパッド	77
タッチフォーカス	78
静止画の画像サイズ/画質を選ぶ	80
\square JPEG画像サイズ	80
\square JPEG画質	81
\square 横縦比	81
\square ファイル形式	81
APS-C/Super 35mm	83
撮影モードを変える	84
モードダイヤルの機能一覧	84
AUTO (おまかせオート)	85
P プログラムオート	86
A 紋り優先	87
S シャッタースピード優先	88
M マニュアル露出	89
M バルブ撮影	90
MR 1/ 2の呼び出し	91
\square 動画 : \square 露出モード	92
S&Q スロー & クイックモーション : S&Q 露出モード	93
露出/測光をコントロールする	94
露出補正	94
測光モード	95
マルチ測光時の顔優先	96
スポット測光位置	97
AEロック	98

明るさ/コントラストを自動補正する	99
Dレンジオプティマイザー (DRO)	99
オートHDR	99
ISO感度を選ぶ	101
ISO AUTO低速限界	102
ズームする	103
本機で使用できるズームの種類	103
全画素超解像ズーム/デジタルズーム(ズーム)	104
ズーム倍率について	105
ホワイトバランス	106
[カスタムセット]で基準の白を取り込む	107
画像の仕上がりを設定する	109
クリエイティブスタイル	109
\square 色空間	111
シャッターの設定	112
\square フリッカーレス撮影	112
\square サイレント撮影	113
電子先幕シャッター	114
手ブレを補正する	116
手ブレ補正設定	116
ノイズリダクション	118
\square 長秒時NR	118
\square 高感度NR	119
より高解像の静止画を撮影する (ピクセルシフトマルチ撮影)	120
フラッシュ (別売)を使う	122
フラッシュモード	124
調光補正	125
FELロック	126
ワイヤレスフラッシュ	127
シンクロターミナルコード付きフラッシュを使う	129

動画撮影

動画を撮影する	130
動画撮影時の設定を変える	133
■ 記録方式	133
■ 記録設定	134
S&Q スロー & クイック設定	135
音声記録	137
録音レベル	137
■ マーカー設定	138
■ 4K映像の出力先	139
プロキシー記録	140

再生

画像を見る	141
静止画を再生する	141
再生画像を拡大する(④拡大)	142
記録画像を自動的に回転させる (記録画像の回転表示)	143
動画を再生する	143
動画から静止画作成	144
一覧表示で再生する(一覧表示)	145
静止画と動画を切り換える(ビューモード)	146
再生するメモリーカードを選ぶ(再生メディア選択) ..	146
メモリーカード間で画像をコピーする(コピー)	147
スライドショーで再生する(スライドショー)	148
プロテクト(保護)する	149
レーティング(ランク分け)を設定する	150
レーティング	150
画像を削除する	152
表示中の画像を削除する	152
不要な画像を選んで削除する(削除)	152
テレビで見る	154
HDMIケーブルを使ってテレビで見る	154

カメラのカスタマイズ

よく使う設定を登録する	157
[MR] [CAM1]/[CAM2] の登録	157
カスタム撮影設定登録	158
ボタンにお好みの機能を割り当てる	160
[CAM] カスタムキー / [CAM] カスタムキー / [REC] カスタムキー	160
ファンクションメニュー設定	161
MENUをカスタマイズする(マイメニュー)	162
項目の追加	162
項目の並べ替え	162
項目の削除	163
撮影前/撮影後に画像を確認する	164
オートレビュー	164
絞りレビュー	164
撮影結果レビュー	165
モニター/ファインダーの設定	166
FINDER/MONITOR	166
[CAM] ファインダーフレームレート	167
ブライトモニタリング	168
メモリーカードの設定	169
フォーマット	169
ファイル番号	170
ファイル名設定	170
記録メディア設定	171
記録フォルダー選択	173
本体の設定	174
パワーセーブ開始時間	174
赤外線リモコン	174
HDMI設定	175
USB給電	179
PCリモート設定	179
カメラを初期設定に戻す	181
設定リセット	181

ネットワーク機能を使う

Wi-Fi/NFCワンタッチ/Bluetooth機能を使う	182
Imaging Edge Mobileをインストールする	182
FTPサーバーに画像を転送する	183
カメラとスマートフォンを接続する	184
スマートフォンをリモコンとして使う	184
スマートフォンにカメラの画像を転送する	186
カメラを無線アクセスポイントに接続する	187
画像に位置情報を記録する	188
事前準備	188
実際の操作	189

パソコンでできること

本機とパソコンを接続する	192
USB接続方法を設定する	192
パソコンと接続する	192
パソコンとの接続を切断する	193
パソコン用ソフトウェアの紹介	195
Imaging Edge Desktop	195
PlayMemories Home	195

MENU一覧／画面表示一覧

MENUの使いかた	196
MENU一覧	197
1 (撮影設定1)	197
2 (撮影設定2)	203
(ネットワーク)	206
(再生)	207
(セットアップ)	208
★(マイメニュー)	211
モニターに表示されるアイコン一覧	212
撮影画面のアイコン	212
再生画面のアイコン	216

困ったときは

困ったときのこと	218
警告表示	226

本機について／使用上のご注意

イメージセンサーをクリーニングする	230
保証書とアフターサービス	232
主な仕様	233
使用できるメモリーカード	233
主な仕様	235
安全のために	239
索引	242

お使いになる前に必ずお読みください

ヘルプガイド（Web取扱説明書）の「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

表示言語について

本機では、日本語のみに対応しています。その他の言語には変更できません。

本機の取り扱いについてのご注意

- ・本機は防じん・防滴に配慮した構造となっていますが、ほこりや水滴の浸入を完全に防ぐものではありません。
- ・レンズやファインダーを絶対に太陽や強い光源に向けたままにしないでください。レンズの集光作用により、発煙、火災、ボディやレンズ内部の故障の原因になります。やむを得ず太陽光などの光源下におく場合は、レンズキャップを取り付けてください。
- ・太陽光や強い光源がレンズからカメラに入ると、カメラ内部で焦点を結び、発煙や火災の原因となることがあります。
本機の保管時はレンズキャップを取り付けて保管してください。
また逆光での撮影時は、太陽を画角から充分にずらしてください。
光源を画角からわずかに外しても発煙や火災の原因となることがありますのでご注意ください。
- ・レンズに向けてレーザーなどの光線を直接照射しないでください。イメージセンサーが破損し、カメラが故障することがあります。

・取りはずしたレンズを通して、太陽や強い光を見ないでください。目に回復不可能なほどの障害をきたすおそれがあります。

- ・本機（付属品を含む）は磁石を使用しているため、ペースメーカー、水頭症治療用圧可変式シャントなどの医療機器に影響を与える恐れがあります。本機をこれらの医療機器をご使用の方に近づけないでください。これらの医療機器を使用されている場合、本機のご使用前に担当医師にご相談ください。
- ・本機や付属品などは乳幼児の手の届く場所に置かないでください。付属品やメモリーカードなどを飲みこむ恐れがあります。万一飲みこんだ場合は、直ちに医師に相談してください。

モニターおよびファインダーについてのご注意

- ・モニターやファインダーは、有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されません。
- ・ファインダーを使用中、目の疲労、疲れ、気分が悪くなる・乗り物酔いに似た症状が出る可能性があります。ファインダーを使用するときは、定期的に休憩をとることをおすすめします。
- ・万一モニターやファインダーが破損した場合は直ちに使用を中止してください。破損した箇所で手や顔等を切る等の怪我をする恐れがあります。

連続撮影時のご注意

連続撮影時、モニターまたはファインダーに撮影画面と黒い画面がすばやく交互に表示されることがあります。このとき、モニターやファインダーを見続けることにより、体調不良などの不快な症状が出る可能性があります。不快な症状が出たときは、本機の使用を控え、必要に応じて医師にご相談ください。

長時間撮影および4K動画撮影についてのご注意

- ご使用中に本体およびバッテリーが温かになりますが故障ではありません。
- 使用中に本機が熱いと感じなくとも皮膚の同じ場所が長時間触れたままの状態でいると、赤くなったり水ぶくれができたりなど低温やけどの原因となる場合があります。以下の場合は特にご注意いただき、三脚などをご利用ください。
 - 気温の高い環境でご使用になる場合
 - 血行の悪い方、皮膚感覚の弱い方などがご使用になる場合
 - 自動電源OFF温度を[高]に設定してご使用になる場合

ソニー製純正レンズ/アクセサリーをお使いください

本機を他社製品と組み合わせて使用した際の性能や、それによって生じた事故、故障につきましては保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

本書中のデータについて

性能、仕様に関するデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温(25°C)下でのものです。バッテリーについては、充電ランプ消灯まで充電した状態のバッテリーを使用したときのものです。

著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

位置情報についてのご注意

位置情報を付加した画像をインターネットに公開、共有すると、意図せずに撮影場所が第三者に知られる場合があります。その場合は[□ 位置情報運動設定]を[切]にして撮影してください。

本機の廃棄/譲渡についてのご注意

個人情報保護のため、本機を廃棄・譲渡するときには以下の操作を行ってください。

- [設定リセット] → [初期化]

メモリーカードを廃棄/譲渡するときのご注意

本機やパソコンの機能による
[フォーマット]や[削除]では、メモリーカード内のデータは完全には消去されないことがあります。メモリーカードを譲渡するときは、パソコンのデータ消去専用ソフトなどを使ってデータを完全に消去することをおすすめします。また、メモリーカードを廃棄するときは、メモリーカード本体を物理的に破壊することをおすすめします。

ネットワーク機能についてのご注意

ネットワーク機能を使用する際、使用環境によってはネットワーク上の意図せぬ第三者から本機にアクセスされる可能性があります。

例として、ネットワーク機器が無許可でネットワークに接続されている、あるいは接続することができるネットワーク環境では、本機に不正なアクセスをされる可能性があります。こうした環境への接続によって損害が発生しても、弊社では一切の責任を負いかねます。

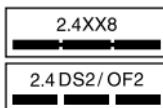
無線に関連する機能(Wi-Fiなど)を一時的に無効にする

無線に関する機能は、[飛行機モード]で一時的に無効にできます。

この機器のネットワークモードでの使用時の注意事項

本製品は2.4GHz帯を使用しています。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局(免許を要する無線局)等(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品と「他の無線局」に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、電波の発射を停止してください。
3. その他、この機器から「他の無線局」に対して有害な電波干渉の実例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、相談窓口へお問い合わせください。



2.4 : 2400 MHz帯を利用する無線設備を表します。

DS/OF/XX : 変調方式が DS-SS/OFDM/その他の方式、あることを示します。

2 : 想定される干渉距離が20 m以下であることを示します。

8 : 想定される干渉距離が80 m以下であることを示します。

■ ■ ■ ■ ■ : 2400 MHz ~
2483.5 MHzの全体域を利用し、かつ
移動体識別装置の帯域を回避不可で
あることを示します。

■ ■ ■ ■ ■ : 2400 MHz ~
2483.5 MHzの全体域を利用し、かつ
移動体識別装置の帯域を回避可能で
あることを示します。

認証マークの表示について

本機が対応している認証マークの一部
は、本機の画面上で確認することができます。

MENU →  (セットアップ) →
[認証マーク表示]を選択してください。
本機の故障などの問題により表示でき
ない場合は、相談窓口にご相談ください。

ACアダプター / チャージャーについて

ACアダプター / チャージャーは、お手近
なコンセントをお使いください。不具
合が生じたときはすぐにコンセントか
らプラグを抜き、電源を遮断してくださ
い。充電ランプがある機種は、ランプが
消えても電源からは遮断されません。

電源コードを付属するモデルにつ いて

付属の電源コードは、本機専用です。他
の電気機器では使用できません。

無線機能使用上のご注意

本機の無線機能は、国や地域によって法
規制により使用できない場合がありま
す。

お使いになる際は、その国や地域の法規
制にしたがってください。

本機が出す電波が計器や医療機器等に
影響を与える恐れがあるため、飛行機内、
病院で無線使用の際は、航空会社、病院
の指示に従ってください。

撮影の準備

本体と付属品を確認する

万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。

()内の数字は個数です。

- カメラ(1)



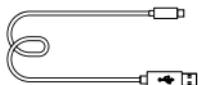
- 電源コード(1)



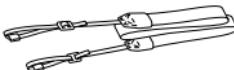
- リチャージャブルバッテリー^{パック}NP-FZ100 (1)



- USB Type-C®ケーブル(1)



- ショルダーストラップ(1)



- ボディキャップ(1)

(本機に装着)



- ケーブルプロテクター(1)



- シューキャップ(1)

(本機に装着)



- アイピースカップ(1)

(本機に装着)



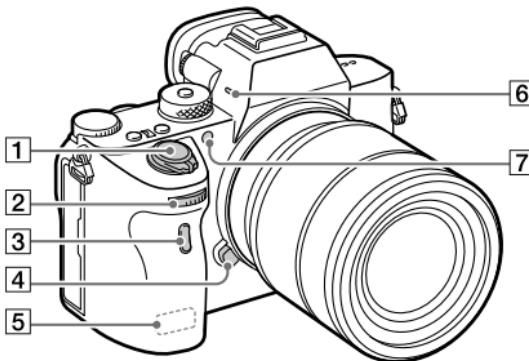
- 取扱説明書(1) (本書)

- 保証書(1)

各部の名称

()内の数字は参照ページです。

本体前面



[1] ON/OFF (電源)スイッチ
(39) /シャッター ボタン
(42)

[2] 前ダイヤル

撮影モードごとに必要な設定を即座に変更できます。

[3] リモコン受光部

[4] レンズ取りはずしボタン
(38)

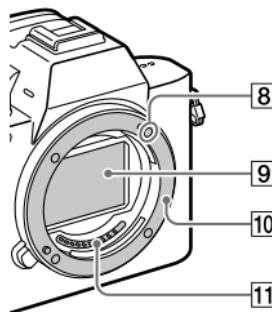
[5] Wi-Fi/Bluetoothアンテナ
(内蔵) (182)

[6] 内蔵マイク

動画撮影時は手でふさがないようにしてください。ノイズや音量低下の原因になります。

[7] AF補助光発光部(59) /
セルフタイマーランプ
(70)

レンズ取りはずし時



[8] マウント標点(37)

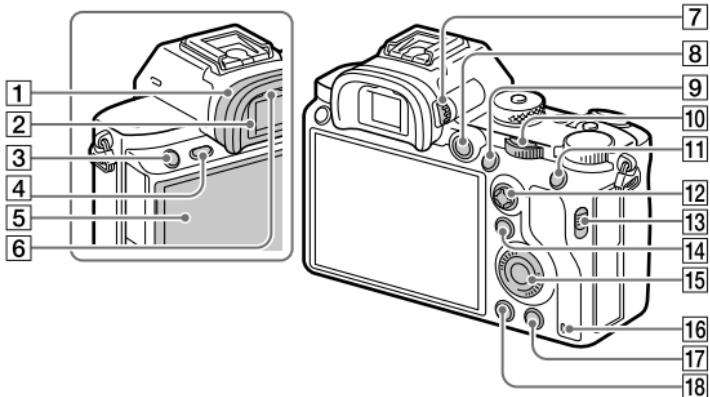
[9] イメージセンサー *

[10] マウント

[11] レンズ信号接点*

* 直接手で触れないでください。

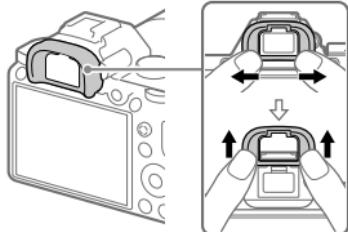
本体後面



① アイピースカップ

取りはずしかた

アイピースカップ下部のつめを左右に開いて、上に引き上げる。



別売のアングルファインダーを取り付けるときは、アイピースカップを取りはずします。また、MENU → 2(撮影設定2) → [FINDER/MONITOR]を [ファインダー (マニュアル)] か [モニター (マニュアル)] に切り換えてください。

② ファインダー

③ C3ボタン(カスタムボタン3) (160) / (プロテクト)ボタン(149)

④ MENU (メニュー)ボタン (196)

⑤ モニター

(タッチ操作時：タッチパネル/タッチパッド)(29、77)

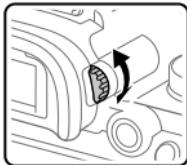
モニターを見やすい角度に調整して、自由なポジションで撮影できます。



⑥ アイセンサー (166)

[7] 視度調整ダイヤル

ファインダー内の画面表示がはっきり見えるように、ご自身の視度に合わせて調整してください。視度調整ダイヤルが回しにくいときは、アイピースカップをはずしてから操作してください。

**[8] MOVIE (動画)ボタン(130)**

- [9] 撮影時 : AF-ON (AFオン)ボタン(52)
再生時 : $\textcircled{+}$ (拡大)ボタン(142)**

[10] 後ダイヤル

撮影モードごとに必要な設定を即座に変更できます。

- [11] 撮影時 : AELボタン(98)
再生時 : \blacksquare (一覧表示)ボタン(145)**

[12] マルチセレクター (25)**[13] メディアスロットカバースイッチ**

- [14] 撮影時 : Fn (ファンクション)ボタン(26, 161)**

再生時 : \textcircled{F} (スマートフォン転送)ボタン

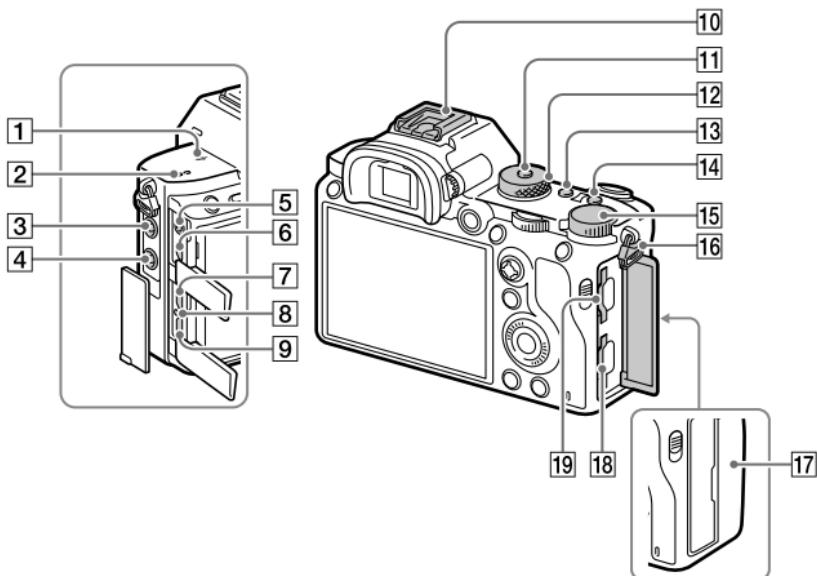
このボタンを押すとスマートフォン転送画面になります。

[15] コントロールホイール(25)**[16] アクセスランプ**

- [17] 撮影時 : C4ボタン(カスタムボタン4)(160)
再生時 : \textbar (削除)ボタン(152)**

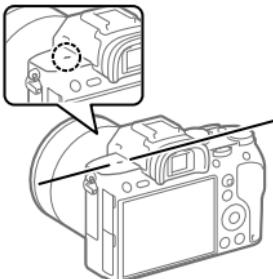
[18] ▶(再生)ボタン(141)

本体上面/側面



① イメージセンサー位置表 示

- ・イメージセンサーとは、光を電気信号に変えるためのセンサーです。マークがイメージセンサー面の位置を表しています。被写体までの距離を正確に測るには、この線の位置を参考にしてください。



- ・レンズの最短撮影距離よりも近いものにはピントが合いません。撮りたいものに近づきすぎていないか、確認してください。

② スピーカー

③ (マイク)端子

外部マイクを接続すると自動的に内蔵マイクから外部マイクに切り替わります。プラグインパワー対応の外部マイクを使うと、マイクの電源は本機から供給されます。

④ (シンクロ)ターミナル(129)**⑤** (ヘッドホン)端子**⑥** HDMIマイクロ端子(154)**⑦** USB Type-C端子(22、192)**⑧** 充電ランプ**⑨** マルチ/マイクロUSB端子*(22、192)

この端子にはマイクロUSB規格に対応した機器をつなぐことができます。

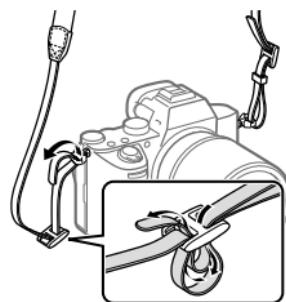
⑩ マルチインターフェース

シュー*(122)

一部のアクセサリーでは接続時にマルチインターフェースシュー後方からはみ出る場合がありますが、先端まで入っていれば取り付けできています。

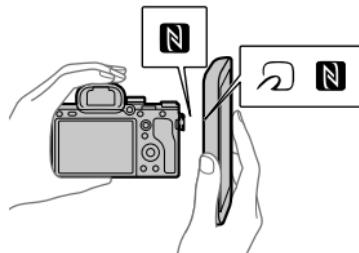
⑪ モードダイヤルロック解除ボタン**⑫** モードダイヤル(84)**⑬** C2ボタン(カスタムボタン2)(160)**⑭** C1ボタン(カスタムボタン1)(160)**⑯** 露出補正ダイヤル(94)**⑯** ショルダーストラップ取り付け部

ストラップの両方の先端をそれぞれ取り付けます。

**⑰** N(Nマーク)(182)

- NFC機能搭載のスマートフォンと本機を接続するときにタッチします。

一部のおサイフケータイ対応のスマートフォンはNFCに対応しています。詳しくはスマートフォンの取扱説明書でご確認ください。



- NFC (Near Field Communication)は近距離無線通信技術の国際標準規格です。

[18] SLOT 1 (メモリーカードスロット1) (35)

SDカード専用(UHS-I、UHS-II対応)

[19] SLOT 2 (メモリーカードスロット2) (36)

SDカード(UHS-I対応)、メモリースティックPROデュオ対応

* マルチインターフェースシュー、マルチ/マイクロUSB端子対応アクセサリーについて詳しくは、専用サポートサイトでご確認ください。

<https://www.sony.jp/support/r/ichigan/connect/>
アクセサリーシュー対応のアクセサリーも使用できます。他社のアクセサリーを取り付けた場合の動作は保証できません。



Accessory Shoe

USB端子について

給電、バッテリーの充電、USB通信は、USB Type-C端子でもマルチ/マイクロUSB端子でも可能ですが、これらの機能を両方の端子で同時に使用することはできません。

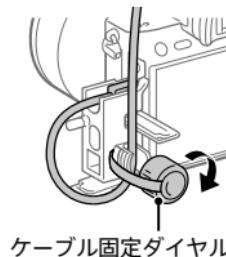
- どちらの端子を使用しても、バッテリーの充電時間は変わりません。
- USB Type-C端子での給電中またはPCリモート撮影中でも、リモートコマンダー(別売)などのマルチ/マイクロUSB端子アクセサリーは使用できます。

■ケーブルプロテクターについて

本機にケーブルを接続して撮影するときに、ケーブルの抜け防止のために使用します。

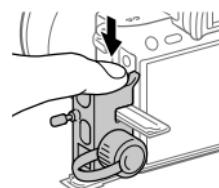
取り付けかた

- ① ケーブルプロテクターの通し穴にケーブルを通しておく。
- ② 本機のモニター側の端子カバーを2つとも開け、ケーブルを端子に差し込む。
- ③ ケーブルプロテクターのフックを、マルチ/マイクロUSB端子の下の溝に差し込む。
•上の端子カバーがケーブルプロテクターのすき間にに入るよう図の向きに取り付け、ケーブルプロテクターのツメをHDMIマイクロ端子の横の溝に差し込んでください。
- ④ 取り付けスクリューを押しながら回し、ケーブルプロテクターを固定する。
- ⑤ ケーブル固定部にケーブルを挟み、ダイヤルで固定する。

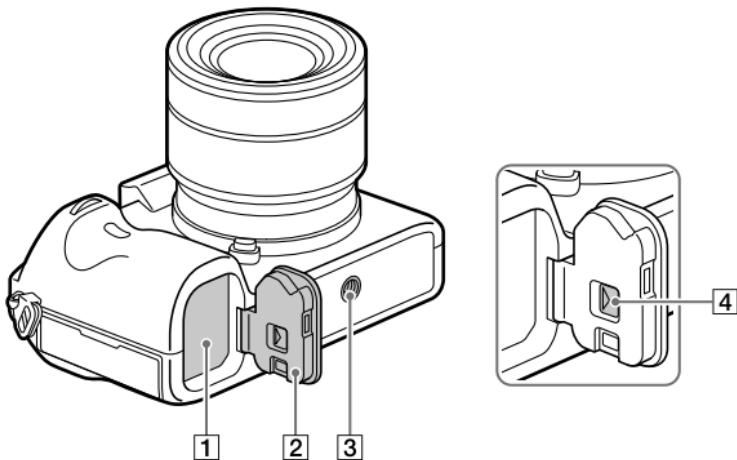


取りはずしかた

取り付けスクリューを緩めて、図の位置を押し下げて取りはずします。



本体底面



[1] バッテリー挿入口(34)

[2] バッテリーカバー (34)

[3] 三脚用ネジ穴

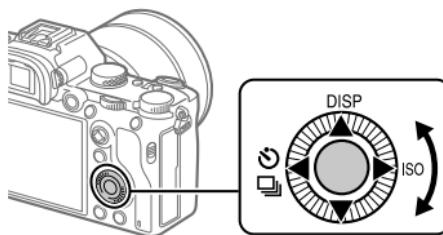
1/4-20 UNCのネジに対応

三脚を取り付けるときは、ネジの長さが5.5mm未満の三脚を使います。ネジの長さが5.5mm以上の場合、本機を三脚にしっかりと固定できず、本機を傷つけることがあります。

[4] バッテリーカバー取りはずしレバー

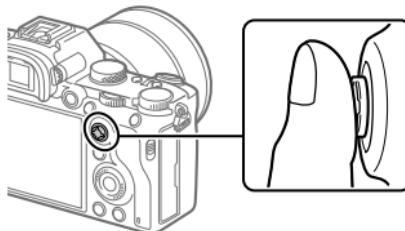
基本的な操作

コントロールホイールの使いかた



- コントロールホイールを回したり上下左右を押したりすると、選択枠を動かすことができます。選んだ項目はコントロールホイールの中央を押すと決定されます。
- コントロールホイールの上/左/右ボタンにはDISP（画面表示切換）、（再生モード）、ISO（ISO感度）が割り当てられています。また、コントロールホイールの左/右/下ボタン、中央、回転操作にはお好みの機能を割り当てることができます。
- 再生時にコントロールホイールの左/右ボタンを押す、またはコントロールホイールを回すことによって再生画面を送ることができます。

マルチセレクターの使いかた

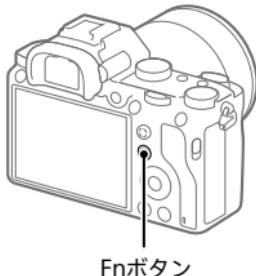


- マルチセレクターの上面に指を乗せて使用すると、より確実に操作できます。
- 「フォーカスエリア」が「ゾーン」、「フレキシブルスポット」、「拡張フレキシブルスポット」のとき、マルチセレクターを上下左右に押してフォーカスエリアを移動できます。
- お買い上げ時の設定では、マルチセレクターの中央には「フォーカススタンダード」機能が割り当てられています。

Fn (ファンクション)ボタンの使いかた

撮影時にFn (ファンクション)ボタンを押して、あらかじめ登録したよく使う機能を呼び出すことができます。呼び出す機能は12個まで登録できます。

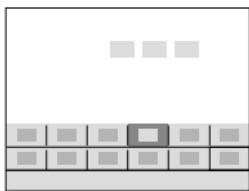
- 1 コントロールホイールの
DISPボタンを押して
[ファインダー撮影用]画面以
外にし、Fn (ファンクション)
ボタンを押す。



Fnボタン

- 2 コントロールホイールの上/下/左/右を押して、設定する機能
を選ぶ。

- 3 前ダイヤルを回して希望の設
定を選び、コントロールホ
イールの中央を押す。
•一部の機能は、後ダイヤルを回し
て微調整値の設定もできます。



専用画面で設定するには

手順2で、設定する機能を選んでコントロールホイールの中央を押すと、その項目設定の専用画面になります。操作ガイドに従って設定してください。



操作ガイド

クイックナビの使いかた

クイックナビはファインダー使用時に適した機能で、変更したい項目をダイレクトに操作できます。

1 MENU→2(撮影設定2)→[DISPボタン]→[背面モニター]を選ぶ。

2 [ファインダー撮影用]に▽マークを付け、[実行]を選ぶ。

3 コントロールホイールのDISP(画面表示切換)ボタンを押して、[ファインダー撮影用]画面にする(32ページ)。

4 Fn(ファンクション)ボタンを押して、クイックナビ画面にする。

- 表示内容や表示位置は目安であり、実際とは異なる場合があります。

オートモード時



P/A/S/M時



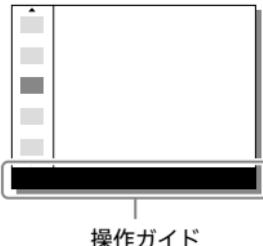
5 コントロールホイールの上/下/左/右を押して、設定する機能を選ぶ。

6 前ダイヤルを回して希望の設定にする。

- 一部の機能は、後ダイヤルを回して微調整値の設定もできます。

■専用画面で設定するには

手順5で、設定する機能を選んでコントロールホイールの中央を押すと、その項目設定の専用画面になります。操作ガイドに従って設定してください。



ご注意

- クイックナビ画面でグレーになっている項目は、変更できません。
- [クリエイティブスタイル]や[ピクチャープロファイル]などでは、専用画面に入らないと操作できない設定もあります。

画面表示を変える

画面表示を切り換える(撮影/再生)

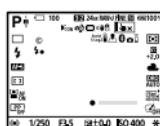
表示される画面表示を切り替えます。

DISP (画面表示)を押す。

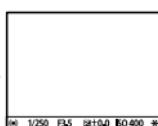
- ファインダー表示を変更する場合には、ファインダーをのぞきながらDISPボタンを押してください。
- DISPボタンを押すたびに、画面表示が切り替わります。
- 表示内容や表示位置は目安であり、実際とは異なる場合があります。

撮影時(モニター)

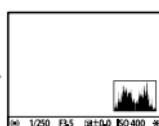
全情報表示



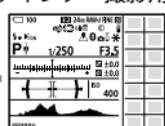
情報表示なし



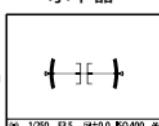
ヒストグラム



ファインダー撮影用

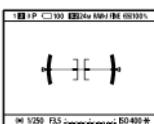


水準器



撮影時(ファインダー)

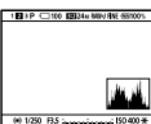
水準器



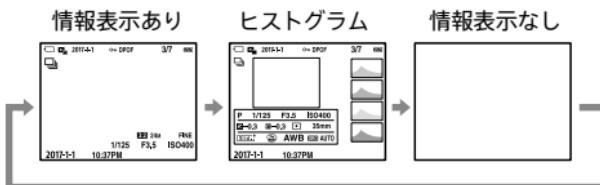
情報表示なし



ヒストグラム



再生時(モニター / ファインダー)



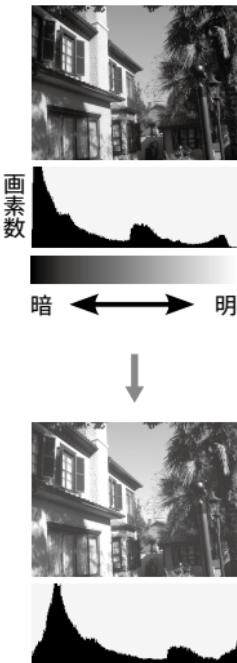
- 画像に白とびまたは黒つぶれの箇所がある場合、ヒストグラム画面の画像の該当箇所が点滅します(白とび黒つぶれ警告)。
- 再生時の設定は、[オートレビュー]でも反映されます。

■ヒストグラム

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。左に行くほど暗く、右は明るいことを表しています。

露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。

ヒストグラムの左右両端のデータは、白とび/黒つぶれした部分があることを表しています。このような部分は、撮影後、画像をパソコンで補正しても再現することはできません。必要に応じて露出補正をしてから撮影してください。



ご注意

- 撮影時のファインダー表示とモニター表示はそれぞれ独立して設定できます。ファインダーの画面表示はファインダーをのぞいた状態で設定してください。
- ヒストグラムは、撮影結果ではなく、画面で見ている画像のヒストグラムになります。絞り値などにより結果が異なります。
- 撮影時と再生時のヒストグラムは、下記のとき大きく異なります。
 - フラッシュ発光したとき
 - 夜景などの低輝度な被写体のとき
- 動画撮影時は、[ファインダー撮影用]が表示できません。

ヒント

- お買い上げ時の設定では、以下は表示されません。
 - グラフィック表示
 - モニター消灯
 - 全情報表示(ファインダー使用時)
- DISPボタンで表示できる内容を変更するときは、MENU → 2(撮影設定2) → [DISPボタン]から設定を変更してください。

DISPボタン(背面モニター / ファインダー)

撮影時に、DISP(画面表示切換)で選択できる画面表示モードを設定します。

MENU → 2(撮影設定2) → [DISPボタン] → [背面モニター]または[ファインダー] → 希望の設定を選び、[実行]を選んで決定する。

▽がついている項目が選択できるモードになる。

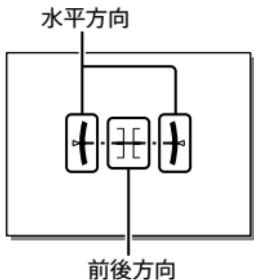
グラフィック表示：基本的な撮影情報を表示する。シャッタースピードと絞りをグラフィカルに表示する。

全情報表示：撮影情報を表示する。

情報表示なし：撮影情報を表示しない。

ヒストグラム：画像の明暗をグラフ(ヒストグラム)で表示する。

水準器: カメラの前後方向、水平方向の傾きを指標で示す。水平、平衡状態のときは、表示が緑色になる。



ファインダー撮影用*: モニターには被写体を表示せず、撮影情報のみを表示する。ファインダー撮影用の表示設定。

モニター消灯*: 撮影時は常にモニターが消灯するが、再生時やMENU操作時はモニターを使用できる。ファインダー撮影用の表示設定。

* [背面モニター]の設定時のみ選択できる画面表示モードです。

ご注意

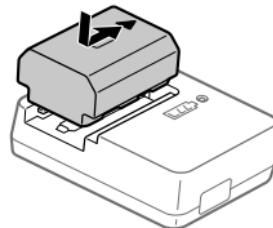
- 本機を前または後に大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなります。
- 水準器で傾きがほぼ補正された状態でも±1°程度の誤差が生じことがあります。

スタートガイド

ステップ1：バッテリーを充電する

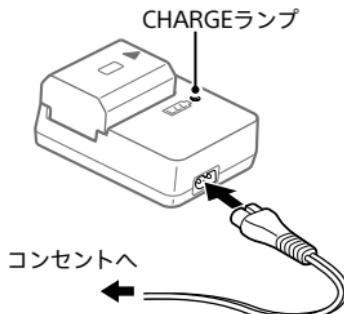
1 バッテリーをバッテリーチャージャーに入れる。

- ▲の方向を合わせて、バッテリーをバッテリーチャージャーの上に置きます。
- 矢印の方向に、バッテリーを奥までスライドさせます。



2 バッテリーチャージャーに電源コード(付属)をつなぎ、コンセントに取り付ける。

バッテリーチャージャーのCHARGEランプがオレンジ色に点灯し、充電が始まる。



CHARGEランプ(オレンジ色)

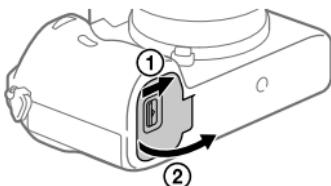
点灯：充電中

点滅：充電エラー、または温度が適切な範囲にならないための充電一時待機

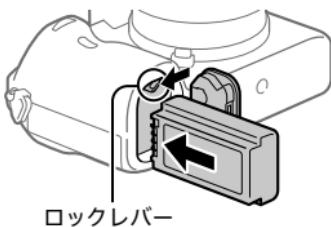
- 満充電になると、バッテリーチャージャーのCHARGEランプとすべてのインジケーターが消灯します。
- 充電時間の目安(満充電)：約150分(バッテリーを使い切ってから、温度25°Cの環境下で充電した場合)
- お買い上げ直後や長期間バッテリーを放置した場合、一度目の充電ではCHARGEランプが速い点滅になる場合があります。その場合は一度バッテリーを取りはずし、再度充電してください。
- 必ずソニー製純正のバッテリーをお使いください。

ステップ2：バッテリーを本機に入れる

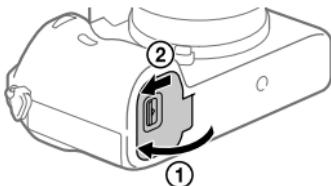
1 バッテリーカバーを開ける。



2 バッテリーの端でロックレバーを押しながら入れ、バッテリーがロックされるまで押し込む。



3 カバーを閉じる。



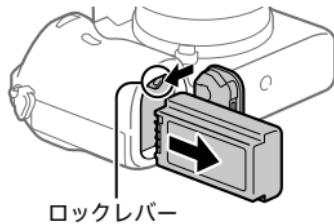
■バッテリーを本機に入れたまま充電するには

本機の電源を切り、本機とパソコンなどをUSBケーブルでつなぎます。本機の電源を入れると、パソコンなどから給電され本機を使用できますが、充電はされません。

USBケーブルは、付属のUSB Type-Cケーブル、またはUSB規格に準拠したケーブルをお使いください。

■ バッテリーを取り出すには

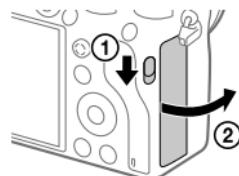
アクセスランプ(19ページ)が点灯していないことを確認してから電源を切り、ロックレバーをずらして、バッテリーを引き出します。このとき、バッテリーが落下しないよう、注意してください。



ステップ3：メモリーカードを本機に入れる

本機で使用できるメモリーカードについては、233ページをご覧ください。

1 メモリーカードカバーを開ける。



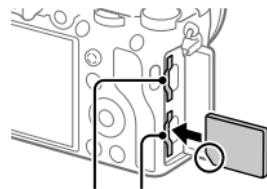
2 スロット1にSDカードを入れる。

スロット1（下側）：SDカード（UHS-I、

UHS-II対応）

スロット2（上側）：SDカード（UHS-I対応）

/メモリースティックPROデュオ



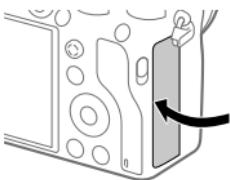
- 切り欠き部をイラストの向きに合わせ、「カチッ」と音がするまで奥に差し込んでください。

- 記録するスロットは、MENU → (セットアップ) → [記録メディア設定] → [優先記録メディア]で変更できます。
お買い上げ時はスロット1を使う設定になっています。

- SDカードを1枚のみ使用するときは、スロット1をご使用ください。

- メモリースティックを使用するときは、スロット2に入れ、
[優先記録メディア]を[スロット2]に設定してください。

3 カバーを閉じる。



ヒント

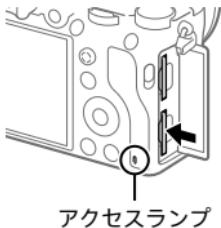
- メモリーカードの動作を安定させるために、本機ではじめてお使いになるメモリーカードは、まず、本機でフォーマット(初期化)することをおすすめします(169ページ)。

ご注意

- スロット1にはメモリースティックを入れないでください。故障するおそれがあります。

メモリーカードを取り出すには

メモリーカードカバーを開けて、アクセスランプ(19ページ)が点灯していないことを確認し、メモリーカードを一度押します。



アクセスランプ

2つのスロットのメモリーカードに記録するには

お買い上げ時は、スロット1のメモリーカードに記録される設定になっています。設定を変えずに1枚だけ使用する場合は、スロット1を使用してください。

スロット2にもメモリーカードを入れることで、同じ画像を同時に2つのメモリーカードに記録したり、静止画/動画の種類によって記録先を変えることもできます([記録メディア設定]の[記録モード])(172ページ)。

ステップ4：レンズを取り付ける

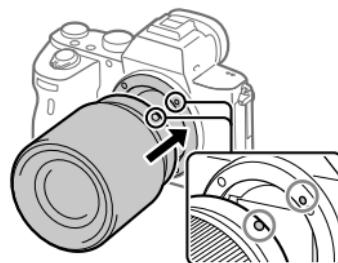
1 本機のボディキャップとレンズの後ろのレンズリヤキャップをはずす。

- カメラ内部にゴミやほこりが入らないように、ほこりの少ない場所ですばやく行ってください。
- 撮影後は、レンズフロントキャップを装着しておくことをおすすめします。



2 レンズと本機の2つの白色の点(マウント標点)を合わせてはめ込む。

- ゴミやほこりが入らないよう、マウントを下向きにして取り付けてください。



3 レンズを軽く本機に押し付けながら、「カチッ」と音がするまで矢印の方向にゆっくり回す。

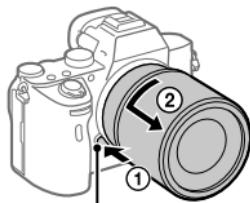


ご注意

- レンズを斜めに差し込んだり、無理な力を加えたりしないでください。
- レンズを取り付けるときは、レンズ取りはずしボタンを押さないでください。
- Aマウントレンズ(別売)をご使用の場合は、別売のマウントアダプターが必要です。マウントアダプターを使用する場合は、マウントアダプターの取扱説明書もご覧ください。
- フルサイズでの撮影は、フルサイズ対応のレンズを使用してください。
- レンズを取り付けてカメラを持ち運ぶときは、カメラとレンズの両方をしっかり持ってください。
- ズームやピント合わせなどで繰り出たレンズ部分を持って、カメラを保持しないでください。

レンズを取りはずすには

レンズ取りはずしボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取りはずします。



レンズ取りはずしボタン

対応レンズについて

本機で使用できるレンズは、以下のとおりです。

レンズ		本機での使用
Aマウント用レンズ	35mmフルサイズ対応レンズ	(フルサイズ対応マウントアダプター(別売)使用)
	APS-Cフォーマット専用レンズ	○* (マウントアダプター(別売)使用)
Eマウント用レンズ	35mmフルサイズ対応レンズ	○
	APS-Cフォーマット専用レンズ	○*

* APS-Cサイズで記録されます。撮影画角はレンズ記載の焦点距離の約1.5倍相当の画角になります。(例: 50 mmレンズ装着時は75 mm相当の画角になります。)

ステップ5：電源を入れて日付と時刻を設定する

1 ON/OFF（電源）スイッチを「ON」にして、本機の電源を入れる。

ON/OFF（電源）スイッチ



2 モニターの表示で[実行]が選ばれていることを確認し、コントロールホイールの中央を押す。



コントロールホイール

3 [東京/ソウル]が選ばれていることを確認し、中央を押す。

4 コントロールホイールの上/下を押す、またはホイールを回して[日時]を選び、中央を押す。

サマータイム：日本では、サマータイムは[切]にする。

表示形式：日付表示順を選ぶ。

5 コントロールホイールの上/下/左/右を押す、またはホイールを回して希望の設定を選び、中央を押す。

- 真夜中は12:00AM、正午は12:00PMです。

- [日時]を設定する場合は、上/下を押して数値を変更してください。

6 手順5ですべて設定し、[実行]を選んで中央を押す。

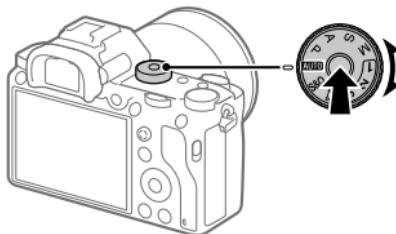
ヒント

- 日時を設定し直したい場合は、メニューで設定できます(210ページ)。

ご注意

- 本機には、画像に日付を挿入する機能はありません。PlayMemories Homeを使用すると、日付を入れて保存/印刷できます(Windows版のみ)。

ステップ6：オートモードで撮影する



1 モードダイヤル中央のモードダイヤルロック解除ボタンを押しながらモードダイヤルを回して**AUTO**にする。

撮影モードが*i*  (おまかせオート) になる。

2 ファインダーまたはモニターを見て、本機を構える。

3 ズームレンズを取り付けている場合は、ズームリングを回して被写体の大きさを決める。

4 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる。

- ピントが合うとフォーカス表示(●など)が点灯します。

5 シャッターボタンを深く押し込む。

■動画を撮影するには

MOVIE (動画) ボタンを押すと、撮影を開始/終了できます。

■画像を再生するには

►(再生) ボタンを押すと再生モードになります。コントロールホイールで画像を選べます。

■表示中の画像を削除するには

削除したい画像を表示中に、 (削除) ボタンを押します。確認のメッセージが出たら、コントロールホイールで [削除] を選び、中央を押すと削除できます。

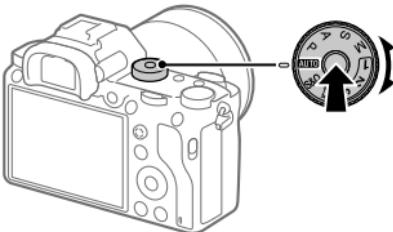
■撮影モードを変えて撮影するには

撮りたい被写体や、操作したい機能に合わせて、モードダイヤルを合わせます(84ページ)。

静止画を撮影する

1 モードダイヤルを回して、好みの撮影モードを選ぶ。

- モードダイヤル中央のモードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、モードダイヤルを回してください。

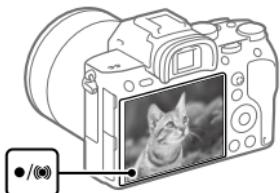


2 モニターを見やすい角度に調節して、本機を構える。または、ファインダーをのぞいて、本機を構える。

3 ズームレンズを取り付けている場合は、ズームリングを回して被写体の大きさを決める。

4 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる。

ピントが合うと「ピピッ」という音がして、フォーカス表示(●など)が点灯する。



5 シャッターボタンを深く押し込む。

■ フォーカスを固定して好みの構図で撮影するには(フォーカスロック)

オートフォーカス時に、希望の被写体にピントを固定して撮影します。

① MENU → **[撮影設定1]** → [フォーカスマード] → [シングルAF]または[AF制御自動切り換え]を選ぶ。

② ピントを合わせたい被写体に
フォーカスエリアを合わせ、
シャッターボタンを半押しする。

ピントが固定される。

- ピントが合いにくい場合は、
[フォーカスエリア]を[中央]または
[フレキシブルスポット]にし
ます。



③ シャッターボタンを半押しした
まま、撮りたい構図に戻す。



④ シャッターボタンを押し込んで撮影する。

ヒント

- 自動でピントを合わせられない場合は、フォーカス表示が点滅し、「ピピッ」と電子音が鳴りません。構図を変えたり、フォーカス設定を変えるなどしてください。
なお、[コンティニュアスAF]に設定している場合は、(○)が点灯し、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

ご注意

- [フォーカスマード]を[AF制御自動切り換え]に設定していても、被写体が動いているとカメラが判断した場合は、フォーカスロックできません。

フォーカス(ピント)を合わせる

フォーカスマード

被写体の動きに応じてピント合わせの方法を選べます。

MENU → □1 (撮影設定1) → [フォーカスマード] → 希望の設定を選ぶ。

AF-S (シングルAF)：ピントが合った時点でピントを固定する。動きのない被写体で使う。

AF-A (AF制御自動切り換え)：被写体の動きに応じて、シングルAFとコンティニュアスAFが切り替わる。シャッターボタンを半押しすると、被写体が静止していると判断したときはピント位置を固定し、被写体が動いているときはピントを合わせ続ける。連続撮影時は、2枚目以降自動的にコンティニュアスAFに切り替わります。

AF-C (コンティニュアスAF)：シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続ける。動いている被写体にピントを合わせるときに使う。
[コンティニュアスAF]では、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

DMF (ダイレクトマニュアルフォーカス)：オートフォーカスでピントを合せたあと、手動で微調整できる。最初からマニュアルフォーカスでピントを合わせるよりもすばやくピント合わせができ、マクロ撮影などに便利です。

MF (マニュアルフォーカス)：ピント合わせを手動で行う。オートフォーカスで意図した被写体にピントが合わないときには、マニュアルフォーカスで操作してください。

■ フォーカス表示

- 点灯**：ピントが合って固定されている。
- 点滅**：ピントが合っていない。
- (○)**点灯**：ピントが合っている。被写体の動きに合わせてピント位置が変わる。
- (○)**点灯**：ピント合わせの途中。

■ ピントが合いにくい被写体

- 被写体が遠くて暗い
- 被写体のコントラストが弱い
- ガラス越しの被写体
- 高速で移動する被写体
- 鏡や発光物など反射、光沢のある被写体
- 点滅する被写体
- 逆光になっている被写体
- ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの
- フォーカスエリアの中に距離の異なるものが混じっているとき

ヒント

- [コンティニュアスAF]に設定しているとき、[フォーカスホールド]機能を割り当てるキーを押すと、押している間ピントを固定することができます(160ページ)。
- マニュアルフォーカスやダイレクトマニュアルフォーカスで無限遠にピントを合わせるときは、充分遠くにある被写体にピントが合っていることをモニターやファインダー上で確認してください。

ご注意

- 位相差AFに対応しているレンズを装着しているときのみ、[AF制御自動切り換え]が使えます(48ページ)。
- [コンティニュアスAF]または[AF制御自動切り換え]に設定しているときは、画角が小刻みに変化することがありますが、撮影画像に影響ありません。
- 動画撮影時またはモードダイヤルがS&Qのときは、フォーカスマードは[コンティニュアスAF]または[マニュアルフォーカス]になります。

オートフォーカス

フォーカスエリア

ピント合わせの位置を変更します。ピントが合いにくいときなどに使います。

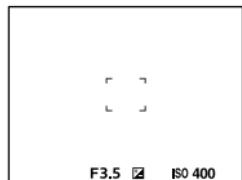
MENU →  (撮影設定1) → [フォーカスエリア] → 希望の設定を選ぶ。

- **ワイド**：モニター全体を基準に、自動ピント合わせをする。静止画撮影でシャッターボタンを半押ししたときには、ピントが合ったエリアに緑色の枠が表示される。
- **ゾーン**：モニター上でピントを合わせたいゾーンの位置を選ぶと、その中で自動でピントを合わせる。
- **中央**：モニター中央付近の被写体に自動ピント合わせをする。フォーカスロックと併用して好きな構図で撮影が可能。
- **フレキシブルスポット**：モニター上の好きなところにフォーカス枠を移動し、非常に小さな被写体や狭いエリアを狙ってピントを合わせる。
- **拡張フレキシブルスポット**：フレキシブルスポットの周囲のフォーカスエリアをピント合わせの第2優先エリアとして、選んだ1点でピントが合わせられない場合に、この周辺のフォーカスエリアを使ってピントを合わせる。
-  **ロックオンAF**：シャッターボタンを半押しすると、選択されたAFエリアから被写体を追尾する。[フォーカスマード]が[コンティニュアスAF]のときのみ選択可能。[フォーカスエリア]設定画面で[ロックオンAF]にカーソルを合わせて、コントロールホイールの左/右でロックオンAFの開始エリアを変更できる。追尾開始エリアをゾーン、フレキシブルスポットまたは拡張フレキシブルスポットにすると、好きなところに追尾開始エリアを移動することもできる。

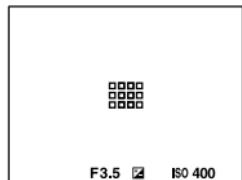
■ フォーカス枠表示例

フォーカス枠表示には下記の種類があります。

広いエリアでピントが合ったとき

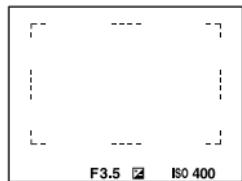


狭いエリアでピントが合ったとき



- [フォーカスエリア]が[ワイド]または[ゾーン]のときは、被写体やシーンによって「広いエリアでピントが合ったとき」または「狭いエリアでピントが合ったとき」の表示になります。
- Aマウント用のレンズとマウントアダプター (LA-EA1、LA-EA3) (別売)を装着し、[AFシステム]が[位相差AF]のときは、「狭いエリアでピントが合ったとき」の表示になります。

モニター全体を基準に自動でピントが合ったとき



- 光学ズーム以外のズーム使用時は、[フォーカスエリア]の設定は無効になり、フォーカス枠は点線で表示されます。中央付近を優先したAF動作になります。

■ フォーカスエリアの移動方法

- ・[フレキシブルスポット]、[拡張フレキシブルスポット]、[ゾーン]のエリアはマルチセレクターで移動させることができます。マルチセレクターの中央にあらかじめ[フォーカススタンダード]を割り当てておくと、中央を押してフォーカス枠を画面の中央に戻すことができます。
- ・タッチ操作で、モニターのフォーカス枠をドラッグすればやすく移動させることができます。あらかじめ、[タッチ操作]を[入]に設定してください(77ページ)。

ヒント

- ・お買い上げ時の設定では、C2ボタンに[フォーカスエリア]が割り当てられています。

ご注意

- ・以下の場合、[フォーカスエリア]は[ワイド]に固定されます。
- [おまかせオート]
- ・連続撮影時やシャッターボタンを一気に押し込んだときなどには、フォーカスエリアが点灯しないことがあります。
- ・モードダイヤルが~~REC~~(動画)またはS&Qになっているときや動画撮影中は、[フォーカスエリア]の[ロックオンAF]は選択できません。

■ 位相差AFについて

使用するオートフォーカスエリア内に位相差AF測距点があると、位相差AFとコントラストAFをかけ合わせたオートフォーカスになります。

ご注意

- ・位相差AFは、対応レンズでのみ使用できます。位相差AFに対応していないレンズを使用すると[AF制御自動切り替え]、[~~AF被写体追従感度】]、
[~~AF被写体追従感度】]、[~~AF駆動速度】]が使用できません。また、過去にご購入されたレンズなどでは、対応レンズであっても、レンズをアップデートしないと位相差AFが動作しない場合があります。対応レンズは、専用サポートサイトでご確認ください。~~~~~~

<https://www.sony.jp/support/ichigan/>

■ フォーカススタンダード

希望のカスタムキーに[フォーカススタンダード]を割り当てると、画面中央でオートフォーカスするなど、フォーカスエリア設定に応じて便利な機能を呼び出せます。

① MENU → [撮影設定2] → [カスタムキー] → 希望のキーに[フォーカススタンダード]の機能を設定する。

- 動画撮影時に[フォーカススタンダード]を使うときは、MENU →  [撮影設定2] → [カスタムキー]で希望のキーに[フォーカススタンダード]を設定してください。

② [フォーカススタンダード]を割り当てたキーを押す。

- [フォーカスエリア]と[中央ボタン押しロックオンAF]の設定によってキーを押したときにできることが変わります。

[フォーカスエリア]が[ゾーン]、[フレキシブルスポット]、
[拡張フレキシブルスポット]のとき

キーを押すと、フォーカス枠が中央に戻る。

[フォーカスエリア]が[ワイド]または[中央]のとき

- [中央ボタン押しロックオンAF]が[入]のときは、キーを押すと[中央ボタン押しロックオンAF]が起動する。[中央ボタン押しロックオンAF]中にコントロールホイールの中央を押すと、画面中央の被写体を検出して追尾が開始される。
- [中央ボタン押しロックオンAF]が[切]のときは、中央でピントを合わせる。

ご注意

- [左ボタン]、[右ボタン]、[下ボタン]には[フォーカススタンダード]を設定できません。

■ 縦横フォーカスエリア切換

カメラのポジション(横位置/縦位置)ごとに、[フォーカスエリア]とフォーカス枠の位置を使い分けるかどうかを設定することができます。人物のポートレートやスポーツシーンの撮影時など、カメラのポジションを頻繁に変えながら撮影したい場合に便利です。

MENU → 1 (撮影設定1) → [■ 縦横フォーカスエリア切換]
→ 希望の設定を選ぶ。

しない：横位置撮影時と縦位置撮影時で、[フォーカスエリア]の設定とフォーカス枠の位置を使い分けない。

フォーカス位置のみ：横位置撮影時と縦位置撮影時で、フォーカス枠の位置を使い分ける。[フォーカスエリア]の設定は使い分けない。

フォーカス位置+フォーカスエリア：横位置撮影時と縦位置撮影時で、[フォーカスエリア]の設定とフォーカス枠の位置を使い分ける。

[フォーカス位置+フォーカスエリア]の例



- カメラのポジションは、横位置、縦位置(シャッターボタン側が上)、縦位置(シャッターボタン側が下)の3通りで区別されます。

ご注意

- ・[縦横フォーカスエリア切換]の設定を変えると、ポジションごとの設定は引き継がれません。
- ・[縦横フォーカスエリア切換]を[フォーカス位置+フォーカスエリア]または[フォーカス位置のみ]に設定していても、下記の場合は、[フォーカスエリア]とフォーカス枠の位置はポジションごとに変更されません。
 - 撮影モードが[おまかせオート]、[動画]、[スロー & クイックモーション]
 - シャッターボタン半押し中
 - 動画撮影中
 - デジタルズーム使用中
 - オートフォーカス動作中
 - [フォーカスセット]実行中
 - 連続撮影中
 - セルフタイマーのカウントダウン中
 - ピント拡大中
- ・カメラを縦位置に構えたまま電源を入れ、直後に撮影すると、最初の1枚のみ横位置のフォーカス設定、または前回のフォーカス設定で撮影されます。
- ・レンズが上や下を向いている状態では、カメラは縦横を判別しません。

AF/MFコントロール

撮影中にカメラのホールディングを崩すことなく、オートフォーカスとマニュアルフォーカスを簡単に切り換えることができます。

MENU → 2 (撮影設定2) → [カスタムキー]または[カスタムキー] → 希望のボタン → [押す間AF/MFコントロール]または[再押しAF/MFコントロール]を選ぶ。

押す間AF/MFコントロール：ボタンを押し続けている間、フォーカスが切り替わる。

再押しAF/MFコントロール：ボタンを再度押すまで、フォーカスが切り替わる。

ご注意

- ・コントロールホイールの[左ボタン]、[右ボタン]、[下ボタン]には、[押す間AF/MFコントロール]を設定できません。

AFオン

シャッターボタンを半押ししなくてもピント合わせができます。オートフォーカスの設定は[フォーカスマード]で設定しているモードになります。

オートフォーカスでの撮影中にAF-ON (AFオン)ボタンを押す。

ヒント

- シャッターボタンでピント合わせをしたくない場合は、[シャッター半押しAF]を[切]に設定してください。
- 被写体の位置をあらかじめ想定して特定の撮影距離にピントを合わせておく場合(置きピン)は、[シャッター半押しAF]と[プリAF]、[アイスタートAF]を[切]に設定してください。

顔/瞳AF設定

顔や瞳を優先してピントを合わせるかどうかなどを設定するときに使用する機能です。

MENU →  (撮影設定1) → [顔/瞳AF設定] → 希望の設定項目を選ぶ。

AF時の顔/瞳優先 : オートフォーカスのときに、フォーカスエリア内にある顔や瞳を検出して瞳にピントを合わせる(瞳AF)かどうかを設定する。([入] / [切])

検出対象 : 検出する対象を選択する。

[人物] : 人の顔/瞳を検出する。

[動物] : 動物の瞳を検出する。動物の顔は検出されません。

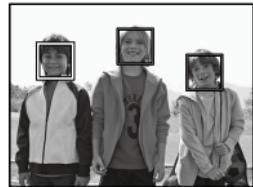
顔検出枠表示 : 人の顔を検出したときに顔検出枠を表示するかどうかを設定する。([入] / [切])

動物瞳検出枠表示 : 動物の瞳を検出したときに瞳検出枠を表示するかどうかを設定する。([入] / [切])

■顔検出枠について

顔を検出すると、灰色の顔検出枠が表示され、オートフォーカス可能と判断されると枠が白色になります。

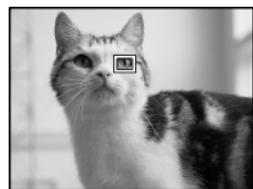
[個人顔登録]で優先順位を設定している場合、被写体の中で一番優先順位が高い顔が自動で選択され顔検出枠が白色になります。それ以外の登録されている顔の検出枠は赤紫色になります。



■瞳検出枠について

瞳を検出し、オートフォーカス可能と判断されると、設定によっては白色の瞳検出枠が表示されます。

[検出対象]が[動物]の場合は、図のように瞳検出枠が表示されます。



■カスタムキーの[瞳AF]

カスタムキーに[瞳AF]を割り当てて使用することもできます。キーを押している間だけ瞳にピントを合わせることができます。

[フォーカスエリア]の設定にかかわらず、一時的に画面全体で瞳AFを使用したいときに便利です。

例えば[フォーカスエリア]が[フレキシブルスポット]で、フォーカス枠外の瞳にピントを合わせたいとき、カスタムキーの瞳AFを使えば、[フォーカスエリア]を変更することなく瞳AFを使用できます。

- ① MENU → 2 (撮影設定2) → [カスタムキー] → 希望のキーに[瞳AF]の機能を設定する。
- ② MENU → 1 (撮影設定1) → [顔/瞳AF設定] → [検出対象] → 希望の設定を選ぶ。

③ 人または動物の顔に本機を向け、[瞳AF]の機能を割り当てたキーを押す。

④ キーを押したままシャッターボタンを押す。

ヒント

- ・顔や瞳にピントが合ったあと、一定時間で顔検出枠や瞳検出枠を非表示にしたいときは、[フォーカスエリア自動消灯]を[入]に設定します。
- ・動物の瞳を検出させるときは、動物の両目と鼻が画角に入るようにしてください。

ご注意

- ・[検出対象]を[人物]に設定しているときは、動物の瞳は検出されません。また、[検出対象]を[動物]に設定しているときは、人の顔は検出されません。
- ・[検出対象]が[動物]のときは、以下の機能は使用できません。
 - ロックオンAF
 - 中央ボタン押しロックオンAF
 - マルチ測光時の顔優先
 - 登録顔優先
- ・以下のときは、[瞳AF]がうまく働かないことがあります。
 - メガネ(サングラス)をかけた状態
 - 前髪がかかった状態
 - 低照度、逆光時
 - 目を閉じた状態
 - 影がかかった状態
 - ピントが大きくずれた状態
 - 被写体の動きが大きいとき
- ・被写体の動きが大きいときは、瞳検出枠の表示がずれことがあります。
- ・状況によっては、瞳にピントを合わせられない場合があります。
- ・人の瞳にピントを合わせられないときは、顔を検出して顔にピントを合わせます。人の顔を検出できない場合、瞳AFは使用できません。
- ・状況によっては、顔が検出できなかったり、顔以外を誤検出することがあります。
- ・モードダイヤルが~~Q~~(動画)またはS&Qのときや動画撮影中は、瞳AFは使用できません。
- ・瞳AFが使用できないときは、瞳検出枠は表示されません。

- 以下のときは、顔検出/瞳検出機能は使えません。
 - 光学ズーム以外のズーム
 - [ピクチャーエフェクト]が[ポスタリゼーション]
 - ピント拡大時
 - スロー＆クイックモーション撮影時で[S&Qフレームレート]が[120fps]のとき
- 以下のときは、顔検出機能は使えません。
 - 動画撮影時で[記録設定]が[120p]のとき
- 最大8人の顔を検出できます。
- [顔検出枠表示]を[切]に設定していても、ピントが合った顔には緑色のフォーカス枠が表示されます。
- 撮影モードが[おまかせオート]の場合、[AF時の顔/瞳優先]は[入]になります。
- [検出対象]を[動物]に設定していても、すべての動物の瞳を検出できるわけではありません。
- [動物瞳検出枠表示]を[切]に設定していても、ピントが合った瞳には緑色のフォーカス枠が表示されます。

▣ ピント拡大中のAF

ピントを合わせたいエリアを拡大表示することで、より正確にオートフォーカスでピントを合わせることができます。拡大表示中は、フレキシブルスポットより狭いエリアでピントを合わせることができます。

1 MENU →  (撮影設定1) → [▣ ピント拡大中のAF] → [入]を選ぶ。

2 MENU →  (撮影設定1) → [ピント拡大]を選ぶ。

3 マルチセレクターの中央を押して画像を拡大し、マルチセレクターの上/下/左/右で拡大位置を調整する。

- 中央を押すたびに、拡大倍率は切り替わります。
-

4 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる。

- 画面中央の+にピントが合います。

5 シャッターボタンを押し込んで撮影する。

- 撮影後、拡大表示は解除されます。

ヒント

- 拡大表示位置を正確に捉えるために、三脚の使用をおすすめします。
- オートフォーカスでピントが合った状態で拡大表示すると、ピントの状態を確認することができます。ピントを合わせ直したい場合は、拡大表示画面でフォーカスエリアの位置を調整して、シャッターボタンを半押ししてください。

ご注意

- 画面の端を拡大表示すると、ピントが合わない場合があります。
- 拡大表示中は、露出やホワイトバランスの調整はできません。
- 以下の場合、[ピント拡大中のAF]は使用できません。
 - 動画撮影中
 - [フォーカスマード]が[コンティニュアスAF]のとき
 - [フォーカスマード]が[AF制御自動切り換え]で撮影モードがP/A/S/M以外のとき
 - [フォーカスマード]が[AF制御自動切り換え]で[ドライブモード]が[連続撮影]のとき
 - マウントアダプター（別売）を使用時
- 拡大表示中は、以下の機能は使用できません。
 - [瞳AF]
 - [中央ボタン押しロックオンAF]
 - [アイスタートAF]
 - [プリAF]
 - [AF時の顔優先]

中央ボタン押しロックオンAF

コントロールホイールの中央を押すことで画面中央にある被写体を検出し、その被写体を追尾し続けます。

- 1 MENU → 1(撮影設定1) →
[中央ボタン押しロックオンAF] → [入]を選ぶ。

2 ターゲット枠を被写体に合わせて、コントロールホイールの中央を押す。

- 追尾を解除する場合は、もう一度中央を押します。



ターゲット枠

3 シャッターボタンを押し込み撮影する。

ヒント

- 好みのキーに[フォーカススタンダード]の機能を割り当てておくと、[フォーカスエリア]が[ワイド]または[中央]のときにそのキーを押すことでも、[中央ボタン押しロックオンAF]を起動したり被写体の検出をやり直したりできます(49ページ)。
- モニター撮影時は、タッチ操作で追尾する被写体を選べます。[タッチ操作]を[入]に設定し、[タッチパネル/タッチパッド]で[タッチパネル+タッチパッド]または[タッチパネル操作のみ]を選んでください。

ご注意

- 以下のときは、[中央ボタン押しロックオンAF]機能がうまく働かないことがあります。
 - 動きが速すぎる被写体
 - 小さすぎる、または大きすぎる被写体
 - 被写体と背景のコントラストが弱い場合
 - 暗いシーン
 - 明るさが変わるシーン
- 以下のときは、ロックオンAF機能は働きません。
 - マニュアルフォーカス
 - デジタルズーム中
 - 動画撮影時で、[記録設定]が[120p]のとき
 - スロー＆クイックモーション撮影時で、[S&Q フレームレート]が[120fps]のとき

▣ フォーカスエリア登録機能

カスタムキーを使って、フォーカス枠をあらかじめ登録した位置に一時的に移動させることができます。動きの予想が可能なスポーツシーンなどの撮影時に、状況に応じてフォーカスエリアをすばやく移動させることができて便利です。

■ フォーカスエリアを登録するには

- ① MENU →  → [▣ フォーカスエリア登録機能]を[入]にする。
- ② フォーカスエリアを希望の位置に設定して、Fn (ファンクション)ボタンを長押しする。

■ 登録したフォーカスエリアを呼び出すには

- ① MENU →  → [▣ カスタムキー] → 希望のキーを選び、[押す間登録フォーカスエリア]を選ぶ。
- ② 撮影画面で[押す間登録フォーカスエリア]機能を割り当てたボタンを押しながら、シャッターボタンを押して撮影する。

ヒント

- [▣ フォーカスエリア登録機能]でフォーカス枠を登録すると、登録したフォーカス枠が画面上で点滅します。
- [再押し登録フォーカスエリア]を割り当てるとき、ボタンを押し続けなくても登録したフォーカス枠が維持されます。
- [登録フォーカスエリア+AFオン]を割り当てるとき、ボタンを押したときに登録されたフォーカス枠でオートフォーカスが行われます。

ご注意

- 以下のときは、フォーカスエリアの登録はできません。
 - モードダイヤルが~~■~~ (動画)またはS&Q
 - [タッチフォーカス]実行中
 - デジタルズーム使用中
 - [ロックオンAF]実行中
 - ピント合わせ中
 - フォーカスロック中
- [左ボタン]、[右ボタン]、[下ボタン]には[押す間登録フォーカスエリア]を設定できません。
- 以下のときは、登録したフォーカスエリアの呼び出しはできません。
 - モードダイヤルが **AUTO** (オートモード)、~~■~~ (動画)またはS&Q
- [~~■~~ フォーカスエリア登録機能]を[入]に設定すると、[操作部のロック]は[切]に固定されます。

AF補助光

AF補助光とは、暗所でフォーカスを合わせるための補助光です。シャッターボタンを半押ししてフォーカスがロックされるまでの間、自動的に赤い補助光が発光して、フォーカスを合わせやすくします。

MENU → 1 (撮影設定1) → [ AF補助光] → 希望の設定を選ぶ。

オート：暗所でAF補助光が自動発光する。

切：AF補助光を使用しない。

ご注意

- 以下のときは、[AF補助光]は発光されません。
 - 撮影モードが[動画]または[スロー & クイックモーション]
 - [フォーカスマード]が[コンティニュアスAF]のとき、または[AF制御自動切り替え]で被写体が動いているとき(フォーカス表示(C)または(C)が点灯しているとき)
 - ピント拡大中(64ページ)
 - マウントアダプター装着時
- マルチインターフェースキーにAF補助光機能を搭載したフラッシュを装着している場合、フラッシュの電源が入っていると、フラッシュのAF補助光が発光します。
- AF補助光は明るい光です。安全上問題ありませんが、至近距離で直接人の目に当たらないようにお使いください。

AF微調整

マウントアダプター LA-EA2、LA-EA4（別売）を使用してAマウントレンズを装着時、レンズごとにピント合わせの位置を調整し、登録できます。

この操作は必要な場合のみ行ってください。調整によって適切なピント位置での撮影が行えなくなることがありますのでご注意ください。

1 MENU → 1 (撮影設定1) → [AF微調整]を選ぶ。

2 [AF微調整設定] → [入]を選ぶ。

3 [調整値] → 希望の数値を選ぶ。

- 値を大きくするとピントが合う位置がカメラから遠ざかり、値を小さくするとピントが合う位置がカメラに近づきます。

ヒント

- 調整は実際に撮影する距離で行うことをおすすめします。[フォーカスエリア]は[フレキシブルスポット]に設定し、明るいコントラストのある被写体で行ってください。

ご注意

- すでに登録されたレンズを装着しているときは、登録された調整値が表示されます。未登録レンズの場合は[±0]が表示されます。
- 調整値が[−]と表示される場合は、すでに登録したレンズが30種になっており、これ以上登録できません。新たに登録するには、登録を削除するレンズを装着して調整値を[±0]にするか、[調整値クリア]ですべての登録された調整値を削除してください。
- [AF微調整]はソニー、ミノルタ、コニカミノルタ製レンズに対応しています。非対応のレンズで[AF微調整]を行うと、対応レンズの調整値に影響が出る場合があります。非対応レンズでは調整を行わないでください。
- ソニー、ミノルタ、コニカミノルタで同じ仕様のレンズをお使いの場合、個々にAF微調整の設定はできません。

▣ AFシステム

マウントアダプター LA-EA1 (別売) またはマウントアダプター LA-EA3 (別売) を使って、本機にAマウントレンズを装着するときのフォーカス方式(位相差AF/コントラストAF)を選びます。

MENU → 1 (撮影設定1) → [▣ AFシステム] → 希望の設定を選ぶ。

位相差AF：位相差AFでピントを合わせる。ピント合わせの速度は上がるが、ピントが合うのは位相差AFのフォーカスエリア内のみとなる。

コントラストAF：常にコントラストAFでピントを合わせる。画面全体でピント合わせができるが、ピント合わせの速度は遅くなる。

ご注意

- [▣ AFシステム]が[コントラストAF]のとき、[フォーカスマード]の[コンティニュアスAF]は使えません。
- [▣ AFシステム]が[位相差AF]のとき、以下の機能は使用できません。
 - [フォーカスエリア]の[ゾーン]、[拡張フレキシブルスポット]、[ロックオンAF]
 - [中央ボタン押しロックオンAF]
- [▣ AFシステム]が[位相差AF]のとき、[AF-S時の優先設定]が[バランス重視]になっていても、一時的に[フォーカス優先]に切り替わります。

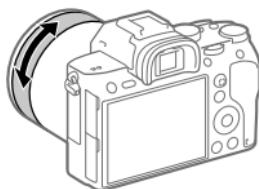
マニュアルフォーカス

オートフォーカスが効きにくいときは、手動でピントを合わせると便利です。

1 MENU →  (撮影設定1) → [フォーカスマード] → [マニュアルフォーカス] を選ぶ。

2 フォーカスリングを左右に回して、被写体が最もはっきり見えるようにする。

- フォーカスリングを回すと、画面にフォーカス距離が表示されます。マウントアダプター（別売）使用時は、表示されません。



3 シャッターボタンを押し込んで撮影する。

ご注意

- ファインダー使用時は、視度調整が正しくないと、ファインダー上の正確なピントが得られません（19ページ）。

ダイレクトマニュアルフォーカス(DMF)

オートフォーカスでピントを合わせたあと、手動で微調整できます。最初からマニュアルフォーカスでピントを合わせるよりもすばやくピント合わせができ、マクロ撮影などに便利です。

1 MENU →  (撮影設定1) → [フォーカスマード] → [DMF]を選ぶ。

2 シャッター ボタンを半押ししてピントを合わせる。

**3 シャッター ボタンを半押しし
たまま、フォーカスリングを
回してピントを調整する。**

- フォーカスリングを回すと、画面にフォーカス距離が表示されます。
マウントアダプター（別売）使用
時は、表示されません。



4 シャッター ボタンを押し込んで撮影する。

ピント拡大

撮影前の画像を拡大してピントの確認ができます。[MFアシスト]とは違い、フォーカスリングを回さずに画像を拡大できます。

1 MENU → 1 (撮影設定1) → [ピント拡大]を選ぶ。

2 マルチセレクターの中央を押して画像を拡大し、マルチセレクターの上/下/左/右で拡大位置を調整する。

- ・中央を押すたびに、拡大倍率は切り替わります。
 - ・拡大表示する初期倍率は、MENU → 1 (撮影設定1) → [ピント拡大初期倍率]で設定できます。
-

3 ピントの確認をする。

- ・ (削除)ボタンを押すと拡大位置が中央に戻ります。
 - ・フォーカスマードが[マニュアルフォーカス]の場合は、拡大表示中にピントの調整を行えます。[ピント拡大中のAF]が[切]の場合、シャッターボタンを半押しすると拡大表示は解除されます。
 - ・オートフォーカス時は、[ピント拡大中のAF]の設定により、拡大表示中にシャッターボタンを半押ししたときの動作が異なります。
 - [ピント拡大中のAF]が[入]の場合：再度オートフォーカスが行われます。
 - [ピント拡大中のAF]が[切]の場合：拡大表示が解除されます。
 - ・拡大表示する時間は、MENU → 1 (撮影設定1) → [ピント拡大時間]で設定できます。
-

4 シャッターボタンを押し込み撮影する。

■ タッチ操作でピント拡大を行うには

モニターをタッチして被写体を拡大表示し、ピントの調整を行うことができます。あらかじめ、[タッチ操作]を[入]に設定してください(77ページ)。

モニター撮影時は、フォーカスマードが[マニュアルフォーカス]のときに、ピントを合わせたい場所をダブルタップして[ピント拡大]ができます。ファインダー撮影時は、モニターをダブルタップすると画面中央に枠が表示され、ドラッグで枠の位置を移動できます。コントロールホイールの中央を押すと、画像を拡大表示します。

ヒント

- ・ピント拡大時、タッチパネルをドラッグして拡大位置を動かすことができます。
- ・ピント拡大を終了したい場合は、もう一度モニターをダブルタップしてください。[ピント拡大中のAF]が[切]のときは、シャッターボタンを半押ししても終了できます。

MFアシスト

マニュアルフォーカス撮影やダイレクトマニュアルフォーカス撮影でピント合わせをするときに、画像を自動で拡大表示してピントを合わせやすくします。

1 MENU → 1 (撮影設定1) → [MFアシスト] → [入]を選ぶ。

2 フォカスリングを回してピントを合わせる。

- ・画像が拡大される。コントロールホイールの中央を押して、さらに拡大することもできる。
-

ヒント

- ・拡大表示する時間は、MENU → 1 (撮影設定1) → [ピント拡大時間]で設定できます。

ご注意

- 動画撮影のとき、[MFアシスト]機能は使用できません。[ピント拡大]機能を用いてください。
- マウントアダプター使用時は、[MFアシスト]機能は使用できません。
[ピント拡大]機能を使用してください。

ドライブ機能を使う(連写/セルフタイマー)

1枚撮影、連写、ブラケット撮影など、撮影の目的に合わせて使用してください。

1 コントロールホイールの○/□(ドライブモード) → 希望の設定を選ぶ。

- MENU → □1(撮影設定1) → [ドライブモード]でも設定できます。

□ 1枚撮影：通常の撮影方法。

□ 連続撮影：シャッターボタンを押している間、連続撮影する。

○ セルフトайマー：シャッターボタンを押してから指定した秒数が経過した後にセルフトайマーで撮影する。

○c セルフトайマー(連続)：シャッターボタンを押してから指定した秒数が経過した後にセルフトайマーで指定枚数を連続撮影する。

BRK C 連続ブラケット：シャッターボタンを押し続けることで、露出を段階的にずらして画像を撮影する。

BRK S 1枚ブラケット：露出を段階的にずらして、指定した枚数の画像を1枚ずつ撮影する。

BRK WB ホワイトバランスブラケット：選択されているホワイトバランス・色温度/カラーフィルターの値を基準に、段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。

BRK DRO DROブラケット：Dレンジオプティマイザーの値を段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。

2 コントロールホイールの左/右で希望のモードを選ぶ。

連続撮影

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。

1 コントロールホイールの \square/\square (ドライブモード) →

[連続撮影]を選ぶ。

- MENU →  [撮影設定1] → [ドライブモード]でも設定できます。

2 コントロールホイールの左/右で希望のモードを選ぶ。

 **連続撮影 : Hi+** : シャッターボタンを押している間、最高速で連続撮影する。

 **Hi 連続撮影 : Hi** /  **連続撮影 : Mid** /  **連続撮影 : Lo** : 連続撮影中もモニターまたはファインダーに被写体をリアルタイムに映し続けるため、被写体を追従しやすくなる。

ヒント

- 連続撮影中にピントと露出を合わせ続けるには、以下の設定に変更してください。
 - [フォーカスマード]を[コンティニュアスAF]にする。
 - [シャッター半押しAEL]を[切]または[オート]にする。

ご注意

- [RAW記録方式]が[非圧縮]の場合、連続撮影の速度が遅くなります。
- [電子先幕シャッター]が[切]の場合、[連続撮影 : Hi]、[連続撮影 : Mid]、[連続撮影 : Lo]時の連続撮影の速度が遅くなります。
- 紋り値がF8より大きいときは、[連続撮影 : Hi+]、[連続撮影 : Hi]、[連続撮影 : Mid]での連続撮影中はフォーカスが1枚目の撮影時の位置に固定されます。
- [連続撮影 : Hi+]で連続撮影中はモニター、ファインダーに映る被写体はリアルタイムのものではありません。
- 以下のときは、連続撮影ができません。
 - [ピクチャーエフェクト]が[リッチトーンモノクロ]
 - [DRO/オートHDR]が[オートHDR]

■連写残量表示

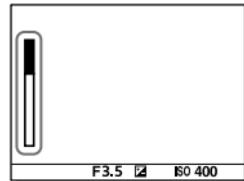
連続撮影時に、速度が低下せずに撮影できる枚数の目安を表示するかどうかを設定します。

MENU → 2 (撮影設定2) → [連写残量表示] → 希望の設定を選ぶ。

常に表示する：ライブモードが[連続撮影]に設定されている間は常に表示する。

撮影中のみ表示する：連続撮影中のみ表示する。

表示しない：表示しない。



撮
影

ヒント

- カメラ内部のバッファ用メモリーが一杯になると、「SLOW」と表示され、連続撮影速度が低下します。

セルフタイマー

シャッターボタンを押してから指定した秒数が経過した後にセルフトタイマーで撮影します。5秒/10秒セルフトタイマーは撮影者も一緒に写真に写るとき、2秒セルフトタイマーはシャッターボタンを押したときのブレを軽減するときに使います。

1 コントロールホイールの \bigcirc/\square (ドライブモード) →

[セルフトタイマー]を選ぶ。

- MENU → (撮影設定1) → [ドライブモード]でも設定できます。
-

2 コントロールホイールの左/右で希望のモードを選ぶ。

シャッターボタンを押してから撮影されるまでの秒数を設定する。

$\bigcirc 10$ セルフトタイマー：10秒

$\bigcirc 5$ セルフトタイマー：5秒

$\bigcirc 2$ セルフトタイマー：2秒

3 ピントを合わせてシャッターボタンを押す。

セルフトタイマーランプが点滅して電子音が鳴り、指定の秒数後に撮影が始される。

ヒント

- セルフトタイマーのカウントを中止するには、もう一度シャッターボタンを押すか、コントロールホイールの \bigcirc/\square を押します。
- セルフトタイマーを解除するには、コントロールホイールの \bigcirc/\square を押して \square (1枚撮影) を選びます。
- セルフトタイマー作動中の電子音を消すには、[電子音]を[切]にしてください。
- ブラケットモードでセルフトタイマー撮影するには、ドライブモードでブラケットを選択したうえで、MENU → (撮影設定1) → [ブラケット設定] → [ブラケット時のセルフトタイマー]を選んでください。

セルフタイマー（連続）

シャッターボタンを押してから指定した秒数が経過した後にセルフトайマーで指定枚数を連続撮影します。設定した枚数の中からお気に入りの1枚を選べます。

1 コントロールホイールの○/□（ドライブモード）→

[セルフトタイマー（連続）]を選ぶ。

- MENU → 1（撮影設定1）→ [ドライブモード]でも設定できます。

撮影

2 コントロールホイールの左/右で希望のモードを選ぶ。

例えば、[セルフトタイマー（連続）：10秒後 3枚]を選択すると、シャッターボタンを押して10秒後に、3枚連写する。

3 セルフトタイマー（連続）：10秒後 3枚

5 セルフトタイマー（連続）：10秒後 5枚

3 セルフトタイマー（連続）：5秒後 3枚

5 セルフトタイマー（連続）：5秒後 5枚

2 セルフトタイマー（連続）：2秒後 3枚

2 セルフトタイマー（連続）：2秒後 5枚

3 ピントを合わせてシャッターボタンを押す。

セルフトタイマーランプが点滅して電子音が鳴り、指定の秒数後に撮影が開始される。指定した枚数が連続撮影される。

ヒント

- セルフトタイマーのカウントを中止するには、もう一度シャッターボタンを押すか、コントロールホイールの○/□を押します。
- セルフトタイマーを解除するには、コントロールホイールの○/□を押して□（1枚撮影）を選びます。

連続プラケット

露出を自動的に標準/暗い/明るいの順でずらして撮影します(プラケット撮影)。撮影した後に、イメージに合った明るさの画像を選ぶことができます。

1 コントロールホイールの心/口(ドライブモード) →

[連続プラケット]を選ぶ。

- MENU → 1(撮影設定1) → [ドライブモード]でも設定できます。

2 コントロールホイールの左/右で希望のモードを選ぶ。

例えば、[連続プラケット : 0.3EV 3枚]を選択すると、0.3EVずつ、+側と-側にそれぞれ露出値をずらして3枚プラケット撮影する。

3 ピントを合わせて撮影する。

- 基準の露出は1枚目で設定されます。
- 撮影が終わるまでシャッターボタンを押し続けます。

ご注意

- オートレビューには最後の1枚が表示されます。
- [マニュアル露出]で[ISO AUTO]のときはISO感度を変えて露出値をずらします。
[ISO AUTO]以外の設定ではシャッタースピードを変えて露出値をずらします。
- 露出値を補正しているときは、補正された露出値を基準に露出をずらします。
- 撮影モードが以下の場合は、プラケット撮影できません。
-[おまかせオート]
- フラッシュ発光時は[連続プラケット]を選んでいても、調光量をずらして撮影する
フラッシュプラケットになります。1枚ずつシャッターボタンを押して撮影してください。

1枚プラケット

露出を自動的に標準/暗い/明るいの順でずらして撮影します(プラケット撮影)。撮影した後に、イメージに合った明るさの画像を選ぶことができます。

1枚ずつシャッターボタンを押して撮影するので、撮影ごとにピントや構図を合わせたいときなどに便利です。

1 コントロールホイールの \circlearrowleft / \circlearrowright (ドライブモード) →

[1枚プラケット]を選ぶ。

- MENU →  (撮影設定1) → [ドライブモード]でも設定できます。

2 コントロールホイールの左/右で希望のモードを選ぶ。

例えば、[1枚プラケット : 0.3EV 3枚]を選択すると、0.3EVずつ、+側と-側にそれぞれ露出値をずらして1枚ずつ3枚プラケット撮影する。

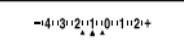
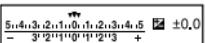
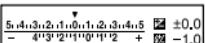
3 ピントを合わせて撮影する。

- 1枚ずつシャッターボタンを押して撮影します。

ご注意

- [マニュアル露出]で[ISO AUTO]のときはISO感度を変えて露出値をずらします。
[ISO AUTO]以外の設定ではシャッタースピードを変えて露出値をずらします。
- 露出値を補正しているときは、補正された露出値を基準に露出をずらします。
- 撮影モードが以下の場合は、プラケット撮影できません。
 - [おまかせオート]

プラケット撮影時のインジケーター

	定常光*プラケット 段数0.3段 3枚 露出補正 ±0.0段	フラッシュプラケット 段数0.7段 3枚 調光補正 -1.0段
ファインダー		表示されません
モニター (全情報表示/ヒストグラムのとき)		
モニター (ファインダー撮影用のとき)	 (上段に表示)	 (下段に表示)

* 定常光：自然光や電球・蛍光灯など、フラッシュ光以外の総称。フラッシュ光が一瞬だけ光るのに対し、常に一定して存在する光なのでこう呼ばれます。

ご注意

- プラケット撮影時には、プラケット撮影枚数分の指標がプラケットインジケーターに表示されます。
- 1枚プラケットの場合、撮影を開始すると、撮影済みの指標が順に消えていきます。

ホワイトバランスブラケット

選択されているホワイトバランス・色温度/カラーフィルターの値を基準に、段階的にずらして、合計3枚の画像を記録します。

1 コントロールホイールの $\text{心}/\text{口}$ (ドライブモード) →

[ホワイトバランスブラケット]を選ぶ。

- MENU →  1 (撮影設定1) → [ドライブモード]でも設定できます。

2 コントロールホイールの左/右で希望のモードを選ぶ。

BRK_{Lo} WB ホワイトバランスブラケット : Lo : ホワイトバランスの変化が小さい(10MK⁻¹*の幅で) 3枚の画像を記録する。

BRK_{Hi} WB ホワイトバランスブラケット : Hi : ホワイトバランスの変化が大きい(20MK⁻¹*の幅で) 3枚の画像を記録する。

* MK⁻¹ : 色温度変換フィルターの色温度変換能力を示すために用いられる単位(ミレッドと同じ値)。

3 ピントを合わせて撮影する。

ご注意

- オートレビューには最後の1枚が表示されます。

DROブラケット

Dレンジオプティマイザーの値を段階的にずらして、合計3枚の画像を記録します。

1 コントロールホイールの心/□(ドライブモード) → [DROブラケット]を選ぶ。

- MENU → □1 (撮影設定1) → [ドライブモード]でも設定できます。

2 コントロールホイールの左/右で希望のモードを選ぶ。

BRK_{Lo} DRO DROブラケット : Lo : Dレンジオプティマイザーの値の変化が小さい3枚(Lv1、Lv2、Lv3)の画像を記録する。

BRK_{Hi} DRO DROブラケット : Hi : Dレンジオプティマイザーの値の変化が大きい3枚(Lv1、Lv3、Lv5)の画像を記録する。

3 ピントを合わせて撮影する。

ご注意

- オートレビューには最後の1枚が表示されます。

■ ブラケット設定

ブラケットモード時のセルフタイマー撮影や、露出ブラケット/ホワイトバランスブラケットの撮影順序を設定します。

① コントロールホイールの○/□(ドライブモード) → ブラケットを選ぶ。

- MENU → 1 (撮影設定1) → [ドライブモード] でも設定できます。

② MENU → 1 (撮影設定1) → [ブラケット設定] → 希望の設定を選ぶ。

ブラケット時のセルフタイマー：ブラケット撮影時にセルフタイマー撮影を行うかどうか設定する。セルフタイマー撮影を行う場合、撮影までの秒数を設定する。

(OFF/2秒/5秒/10秒)

ブラケット順序：露出ブラケット、ホワイトバランスブラケットの撮影順序を設定する。

(0→--→+/-→0→+)

タッチ機能を使う

タッチ操作

モニターのタッチ操作を有効にするかどうかを設定します。

モニター撮影時のタッチ操作をタッチパネル操作と呼び、ファインダー撮影時のタッチ操作をタッチパッド操作と呼びます。

MENU →  (セットアップ) → [タッチ操作] → 希望の設定を選ぶ。

入：タッチ操作を有効にする。

切：タッチ操作を無効にする。

タッチパネル/タッチパッド

モニター撮影時のタッチパネル操作、ファインダー撮影時のタッチパッド操作のどちらを有効にするかを設定します。

MENU →  (セットアップ) → [タッチパネル/タッチパッド] → 希望の設定を選ぶ。

タッチパネル+タッチパッド：モニター撮影時のタッチパネル操作と、ファインダー撮影時のタッチパッド操作を有効にする。

タッチパネル操作のみ：モニター撮影時のタッチパネル操作のみを有効にする。

タッチパッド操作のみ：ファインダー撮影時のタッチパッド操作のみを有効にする。

タッチフォーカス

静止画または動画撮影時、ピントを合わせる被写体をタッチ操作で選択できます。

MENU →  (セットアップ) → [タッチ操作] → [入]を選ぶ。

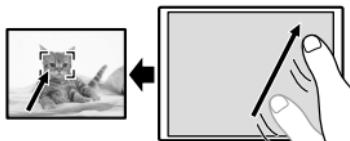
■ 静止画撮影時にピントを合わせたい位置を指定する

モニターにタッチして希望の場所にピントを合わせます。

- ① [フォーカスエリア]を[フレキシブルスポット]または[拡張フレキシブルスポット]以外にする。
- ② MENU → 1 (撮影設定1) → [中央ボタン押しロックオンAF] → [切]を選ぶ。

③ モニターにタッチする。

- ・モニター撮影時は、ピントを合わせたい被写体にタッチします。
- ・ファインダー撮影時は、ファインダーをのぞきながらモニターをタッチしてドラッグすると、ピント合わせの位置を移動できます。



- ・シャッターボタンを半押しすると枠内にピントが合います。撮影するにはそのままシャッターボタンを押し込んでください。
- ・タッチ操作によるピント合わせを解除するには、モニター撮影時は、をタッチするか、またはコントロールホイールの中央を押してください。
ファインダー撮影時は、コントロールホイールの中央を押してください。

■動画撮影時にピントを合わせたい位置を指定する(スポットフォーカス)

タッチした被写体にピントを合わせます。ファインダー撮影時は、スポットフォーカスは使用できません。

- ① [フォーカスエリア]を[フレキシブルスポット]または[拡張フレキシブルスポット]以外にする。
- ② MENU →  → [中央ボタン押しロックオンAF] → [切]を選ぶ。
- ③ 録画開始前もしくは録画中にピントを合わせたい被写体をタッチする。
 - タッチすると一時的にマニュアルフォーカスになり、フォーカスリングでピントを調整できます。
 - スポットフォーカスを解除したい場合は、をタッチするか、またはコントロールホイールの中央を押してください。

ヒント

- タッチフォーカス機能のほかに、以下のようなタッチ操作が可能です。
 - [フォーカスエリア]が[フレキシブルスポット]または[拡張フレキシブルスポット]のときは、タッチ操作でフォーカス枠を移動できます。
 - [フォーカスマード]が[マニュアルフォーカス]のときは、モニターをダブルタップするとピント拡大の操作が行えます。

ご注意

- 以下のとき、タッチフォーカス機能は使えません。
 - [フォーカスマード]が[マニュアルフォーカス]
 - デジタルズーム中
 - LA-EA2、LA-EA4装着時
 - LA-EA1、LA-EA3装着時の動画モード

静止画の画像サイズ/画質を選ぶ

[JPEG]画像サイズ

画像サイズが大きいほど、大きな用紙にも精細にプリントできます。
小さくすると、たくさん撮影できます。

MENU → 1 (撮影設定1) → [JPEG]画像サイズ] → 希望の設定を選ぶ。

[横縦比]が3:2のとき	
L : 42M	7952×5304画素
M : 18M	5168×3448画素
S : 11M	3984×2656画素

[横縦比]が16:9のとき	
L : 36M	7952×4472画素
M : 15M	5168×2912画素
S : 8.9M	3984×2240画素

APS-Cサイズ相当での撮影時

[横縦比]が3:2のとき	
L : 18M	5168×3448画素
M : 11M	3984×2656画素
S : 4.5M	2592×1728画素

[横縦比]が16:9のとき	
L : 15M	5168×2912画素
M : 8.9M	3984×2240画素
S : 3.8M	2592×1456画素

ご注意

- [ファイル形式]で[RAW]、[RAW+JPEG]を選ぶと、RAW画像の画像サイズはL相当となります。

■JPEG画質

[ファイル形式]で[RAW+JPEG]または[JPEG]を選んだときの、JPEG画像の画質を設定します。

MENU → 1 (撮影設定1) → [■ JPEG画質] → 希望の設定を選ぶ。

エクストラファイン/ファイン/スタンダード：[エクストラファイン]、[ファイン]、[スタンダード]の順に圧縮率が高くなるため、データ量が小さくなる。1枚のメモリーカードに記録できる枚数は増えるが、画質は劣化する。

■横縦比

MENU → 1 (撮影設定1) → [■ 横縦比] → 希望の設定を選ぶ。

3 : 2：35mm判フィルムと同じ横縦比。

16 : 9：ハイビジョンテレビでの鑑賞に適したサイズ。

■ファイル形式

静止画を記録するときのファイル形式を設定します。

MENU → 1 (撮影設定1) → [■ ファイル形式] → 希望の設定を選ぶ。

RAW：デジタル処理などの加工をしていないファイル形式。専門的な用途に合わせて、パソコンで加工するときに選ぶ。

RAW+JPEG：RAW画像とJPEG画像が同時に記録される。閲覧用にはJPEG画像、編集用にはRAW画像を使うなど、両方の画像を記録したい場合に便利。

JPEG：画像がJPEG形式で記録される。

■RAWについて

- 本機で撮影したRAW画像を開くには専用ソフトウェア(195ページ)が必要です。このソフトウェアを使えば、RAW画像を開いたあと、JPEGやTIFFのような一般的なフォーマットに変換したり、ホワイトバランス、彩度、contresasteなどを再調整することができます。
- RAW形式の画像には、[オートHDR]、[ピクチャーエフェクト]を設定できません。
- 本機で撮影したRAW画像は、1ピクセルに対して14ビットの分解能を持っています。ただし、以下の撮影時は、12ビットの分解能に制限されることがあります。
 - [RAW 長秒時NR]
 - [BULB]
 - [RAW記録方式]を[圧縮]に設定して[連続撮影]を行う場合
- [RAW記録方式]で、RAWデータの圧縮/非圧縮の設定を変更できます。

ご注意

- パソコンでの加工を予定していない場合は、JPEG形式で記録することをおすすめします。
- RAW画像には、DPOF（プリント予約）指定できません。

APS-C/Super 35mm

静止画撮影時はAPS-Cサイズ相当、動画撮影時はSuper35mm相当のサイズで記録するかどうかを設定します。APS-Cサイズ/Super35mm相当のサイズで記録することで、APS-Cサイズ専用レンズも本機で使用できます。

MENU → 1(撮影設定1) → [APS-C/Super 35mm] → 希望の設定を選ぶ。

APS-C S35撮影：レンズに応じてカメラが自動的に記録範囲を決定するかどうかを設定する。(オート/ マニュアル)

マニュアル時のAPS-C S35撮影：[APS-C S35撮影]を[マニュアル]に設定しているときに、APS-C/Super35mm撮影するかどうかを設定する。(切/入)

ご注意

- APS-C用レンズを装着してフルサイズで撮影すると、撮影がうまくいかないことがあります。
- APS-C/Super35mmサイズに設定した場合、イメージセンサーの中央部分が使用され、APS-Cサイズと同等の画角で記録されます。

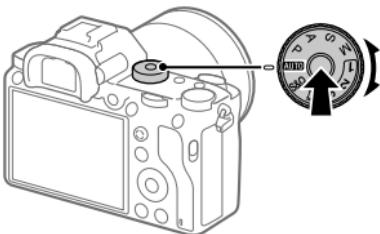
撮影モードを変える

モードダイヤルの機能一覧

被写体や撮影の目的に合わせて、撮影モードを変えることができます。

モードダイヤルを回して、希望の撮影モードを選ぶ。

- モードダイヤル中央のモードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、モードダイヤルを回してください。



設定できる機能

iA (おまかせオート)	カメラまかせでシーンを認識して撮影する。
P (プログラムオート)	露出(シャッタースピードと絞り)は本機が自動設定するが、その他の設定は自分で調整できる。
A (絞り優先)	背景をぼかしたいときなど、絞り値を設定して撮影する。
S (シャッタースピード優先)	動きの速いものを撮るときなど、シャッタースピードを設定して撮影する。
M (マニュアル露出)	露出(シャッタースピードと絞り)を調節して、好みの露出で撮影する。
1/2/3 (登録呼び出し)	あらかじめ登録しておいた、よく使うモードや数値の設定を呼び出して撮影できる。
自撮 (動画)	動画の露出モードを設定して撮影する。
S&Q (スロー&クイックモーション)	スローモーション動画、クイックモーション動画を撮影できる。

AUTO (i[■] おまかせオート)

カメラまかせでシーン認識をして撮影します。

1 モードダイヤルをAUTOにする。

撮影モードがi[■] (おまかせオート)になる。

2 被写体にカメラを向ける。

シーンを認識すると、シーン認識マークが表示される。



撮影

3 ピントを合わせて撮影する。

ご注意

- ・光学ズーム以外でのズーム撮影時は、シーン認識は働きません。
- ・状況により、シーンはうまく認識されない場合があります。
- ・[おまかせオート]の場合、多くの機能が自動設定となり、自分で変更できません。

■ シーン認識について

[おまかせオート]では、シーン認識が働きます。これは、本機が自動的に撮影状況を認識して撮影する機能です。

シーン認識

シーンを認識すると上段に下記のマークとガイドが表示されます。

人物(人物)、赤ちゃん(赤ちゃん)、夜景&人物(夜景&人物)、夜景(夜景)、逆光&人物(逆光&人物)、逆光(逆光)、風景(風景)、マクロ(マクロ)、スポットライト(スポットライト)、低照度(低照度)、三脚夜景(三脚夜景)

P プログラムオート

露出(シャッタースピードと絞り)は本機が自動設定します。
[ISO感度]などの撮影機能を好みの設定に変更できます。

1 モードダイヤルをP(プログラムオート)にする。

2 撮影機能を希望の設定にする。

3 ピントを合わせて撮影する。

■ プログラムシフト

フラッシュを使用していないときに、カメラが設定した適正露出のままシャッタースピードと絞り(F値)の組み合わせを変更できます。

前/後ダイヤルを回し、絞り値とシャッタースピードの組合せを選んでください。

- 前/後ダイヤルを回すと、モニターの表示が「P」から「P*」に変わります。
- 解除するには、撮影モードを[プログラムオート]以外にするか、本機の電源を切ってください。

ご注意

- 撮影する環境の明るさによって、プログラムシフトができない場合があります。
- 撮影モードを「P」以外にするか、電源を切ると設定は解除されます。
- 明るさが変わるとシャッタースピードと絞り(F値)はプログラムシフトの組み合せを保持したまま変化します。

A 紋り優先

ピントの合う範囲や背景のぼかし具合を変えて撮影できます。

1 モードダイヤルをA(紋り優先)にする。

2 前/後ダイヤルで希望の数値を選ぶ。

- 紋り値を小さくする：被写体の前後がぼける。
- 紋り値を大きくする：被写体の前後までくっきりとピントが合う。
- 設定した紋り値で適正露出にならないと本機が判断した場合は、シャッタースピードが点滅します。この場合は、紋り値を変更してください。

3 ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、シャッタースピードが自動的に設定される。

ご注意

- モニターの画像の明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。

S シャッタースピード優先

シャッタースピードを調整し、動きを止めて写したり、軌跡を写したりするなど動くものの表現を変えた撮影ができます。

1 モードダイヤルをS(シャッタースピード優先)にする。

2 前/後ダイヤルで希望の数値を選ぶ。

- 設定したシャッタースピードで適正露出にならないと本機が判断した場合は、絞り値が点滅します。この場合は、シャッタースピードを変更してください。

3 ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、絞り値が自動的に設定される。

ヒント

- シャッタースピードを遅くするときは手ブレを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。
- 室内スポーツを撮影するときは、ISO感度を高くしてください。

ご注意

- シャッタースピード優先モードでは、手ブレ警告アイコンは表示されません。
- [長秒時NR]を[入]にしているときは、シャッタースピードを1秒または1秒より遅くして撮影(長時間露光)すると、シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をします。処理中は撮影できません。
- モニターの画像の明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。

M マニュアル露出

絞り値とシャッタースピードの両方を調節して、自分の好みの露出で撮影できます。

1 モードダイヤルをM(マニュアル露出)にする。

2 前ダイヤルを回して、絞り値を選ぶ。

後ダイヤルを回して、シャッタースピードを選ぶ。

- MENU →  (撮影設定2) → [ダイヤルの設定]で前/後ダイヤルの設定を変更できます。
 - マニュアル露出モードでも[ISO感度]を[ISO AUTO]に設定できます。調整した絞り値とシャッタースピードで適正露出になるように、ISO感度が変化します。
 - [ISO感度]を[ISO AUTO]に設定したとき、設定した値で適正露出にならないと本機が判断した場合は、ISO感度の表示が点滅します。この場合はシャッタースピードまたは絞り値を変更してください。
 - [ISO感度]が[ISO AUTO]以外の場合、「MM」(メータードマニュアル) *で露出値を確認できます。
- 十側：明るく写る。
一側：暗めに写る。
0：本機が判断した適正露出。
- * 適正露出に対するアンダー / オーバーを示します。モニターでは数値で、ファインダーでは測光インジケーターで表示されます。

3 ピントを合わせて撮影する。

ヒント

- AELボタンを押しながら前/後ダイヤルを回すと、設定した露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変更できます。(マニュアルシフト)

ご注意

- [ISO感度]を[ISO AUTO]にしたときは、メータードマニュアルは表示されません。
- メータードマニュアルの測光範囲を超えている場合は、メータードマニュアルの値が点滅します。
- マニュアル露出モードでは、手ブレ警告アイコンは表示されません。
- モニターの画像の明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。

M バルブ撮影

長時間露光で、動きの軌跡を撮影できます。

星の軌跡や、花火の光が尾を引くような写真を撮る場合に適しています。

1 モードダイヤルをM(マニュアル露出)にする。

2 [BULB]が出るまで後ダイヤルを左に回す。

3 前ダイヤルで絞り値(F値)を選ぶ。

4 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる。

5 必要な時間、シャッターボタンを押し続けて撮影する。

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになる。

ヒント

- 打ち上げ花火などのときは、マニュアルフォーカスにしてピントを無限遠にしてください。無限遠の位置がわからないレンズの場合は、同じような場所に上がる花火であらかじめピントを決めて撮影します。
- 画質を低下させずにバルブ撮影を行うためには、本機の温度が下がった状態で撮影を開始することをおすすめします。
- 画像がブレやすくなるため、三脚やシャッターボタンのロック機能を持つ対応リモートコマンダー（別売）のご使用をおすすめします。リモートコマンダーはマルチ/マイクロUSB端子での接続に対応したものをお使いください。

ご注意

- 露光時間が長いほど、画面内のノイズは目立ちやすくなります。
- 撮影後はシャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理が行われます。処理中は撮影できません。
- 以下の場合はシャッタースピードを[BULB]に設定できません。
 - [オートHDR]
 - [ピクチャーエフェクト]が[リッチトーンモノクロ]
 - [ドライブモード]が以下のとき
 - [連続撮影]
 - [セルフタイマー (連続)]
 - [連続ブラケット]
 - [サイレント撮影]
- シャッタースピードを[BULB]に設定しているときに上記機能を使用すると、シャッタースピードは一時的に30秒になります。

[MR] 1/2の呼び出し

よく使うモードやカメラの設定の組み合わせを【**[MR] 1/2の登録**】(157ページ)であらかじめ登録しておき、呼び出して使うことができます。

1 モードダイヤルを1、2、3（登録呼び出し）にする。**2 コントロールホイールの中央を押して決定する。**

- MENU → 1（撮影設定1）→ 【**[MR] 1/2の呼び出し**】で呼び出すこともできます。

ヒント

- メモリーカードに登録された設定を呼び出すには、モードダイヤルを1、2、3（登録呼び出し）にして、コントロールホイールの左/右で好みの番号を選択してください。
- メモリーカードに登録された設定を呼び出す場合、【**[MR] メディア選択**】で選択されているメモリーカードスロットのメモリーカードから呼び出されます。MENU → 1（撮影設定1）→ 【**[MR] メディア選択**】でスロットを確認できます。
- 他の同型名の機種でメモリーカードに登録された設定を、本機で呼び出すこともできます。

ご注意

- 撮影に関する設定を行ったあとで[MR 1/2の呼び出し]を行うと、呼び出された[MR 1/2の登録]の値が優先され、最初に行った設定が無効になる場合があります。モニターで設定値を確認してから撮影してください。

動画：露出モード

動画撮影時の露出モードを設定できます。

1 モードダイヤルを (動画) にする。

2 MENU → 2 (撮影設定2) → 露出モード] → 希望の設定を選ぶ。

P プログラムオート：露出(シャッタースピードと絞り)は本機が自動設定する。

A 絞り優先：絞りを手動設定する。

S シャッタースピード優先：シャッタースピードを手動設定する。

M マニュアル露出：露出(シャッタースピードと絞り)を手動設定する。

3 MOVIE (動画)ボタンを押して撮影を開始する。

- 撮影を終了するには、もう一度MOVIEボタンを押します。

S&Q スロー & クイックモーション：S&Q 露出モード

スロー & クイックモーション撮影時の露出モードを設定できます。撮影時の設定や再生速度は [S&Q スロー & クイック設定] で変更できます (135ページ)。

1 モードダイヤルをS&Q (スロー & クイックモーション)にする。

2 MENU →  (撮影設定2) → [S&Q 露出モード] → 希望の設定を選ぶ。

S&Q P プログラムオート：露出(シャッタースピードと絞り)は本機が自動設定する。

S&Q A 絞り優先：絞りを手動設定する。

S&Q S シャッタースピード優先：シャッタースピードを手動設定する。

S&Q M マニュアル露出：露出(シャッタースピードと絞り)を手動設定する。

3 MOVIE (動画)ボタンを押して撮影を開始する。

- 撮影を終了するには、もう一度MOVIEボタンを押します。
-

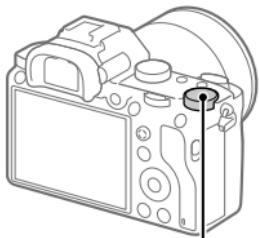
露出/測光をコントロールする

露出補正

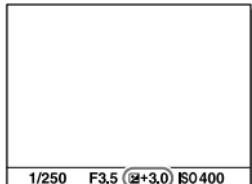
通常は、露出が自動的に設定されます(自動露出)。自動露出で設定された露出値を基準に、+側に補正すると画像全体を明るく、-側に補正すると画像全体を暗くできます(露出補正)。

露出補正ダイヤルを回す。

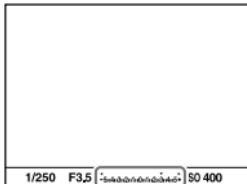
- + (オーバー) 側：画像が明るくなる。
- (アンダー) 側：画像が暗くなる。
- $-3.0 \text{ EV} \sim +3.0 \text{ EV}$ の範囲で値を設定できます。
- 設定した露出補正值は撮影画面で確認できます。



露出補正ダイヤル



モニター表示



ファインダー表示

■ MENUで設定するには

露出補正ダイヤルが0のときに、 $-5.0 \text{ EV} \sim +5.0 \text{ EV}$ の範囲で値を設定できます。

MENU → 1 (撮影設定1) → [露出補正] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- ・撮影モードが以下のときは、露出補正できません。
 - [おまかせオート]
- ・[マニュアル露出]時は、[ISO感度]が[ISO AUTO]のときのみ露出補正できます。
- ・露出補正ダイヤルとメニューの[露出補正]、[ダイヤル露出補正]では、露出補正ダイヤルの設定が優先されます。
- ・撮影時に画面で確認できる数値は-3.0EVから+3.0EVまでです。その範囲外に設定した場合は、撮影時の画面では明るさは変わりませんが、記録した画像には反映されます。
- ・動画撮影時は-2.0EVから+2.0EVの範囲で調整できます。
- ・被写体が極端に明るいときや暗いとき、またはフラッシュ撮影時は、充分な効果が得られないことがあります。
- ・露出補正ダイヤルを0以外から0に合わせた場合、[露出補正]の設定にかかわらず、露出補正值は0になります。

測光モード

本機が自動で露出を決めるとき、モニターのどの部分で光を測るか(測光)を設定します。

MENU → 1(撮影設定1) → [測光モード] → 希望の設定を選ぶ。

- **マルチ**: 複数に分割したモニターを各エリアごとに測光し、画面全体の最適な露出を決定する(マルチパターン測光)。
- **中央重点**: モニターの中央部に重点をおきながら、全体の明るさを測光する(中央重点測光)。
- **スポット**: スポット測光サークル内のみで測光する。画面内の特定の場所を部分的に測光したいときに適している。測光サークルの大きさを[スポット:標準]と[スポット:大]から選択できる。測光サークルの位置は[スポット測光位置]の設定によって異なる。
- **画面全体平均**: 画面全体を平均的に測光する。構図や被写体の位置によって露出が変化しにくい。
- **ハイライト重点**: 画面内のハイライト部分を重点的に測光する。被写体の白とびを抑えて撮影したいときに適している。

ヒント

- [スポット]を選んでいる場合、[フォーカスエリア]を[フレキシブルスポット]または[拡張フレキシブルスポット]にして、[スポット測光位置]を[フォーカス位置運動]にすると、スポット測光位置をフォーカスエリアに運動させることができます。
- [マルチ]を選んでいる場合、[マルチ測光時の顔優先]を[入]にすると、カメラが検出した人物の顔の情報を基準に測光を行います。
- [測光モード]を[ハイライト重点]に設定して[Dレンジオプティマイザー]や[オートHDR]を使用すると、明暗の差を細かな領域に分けて分析し、明るさやコンラストが自動補正されます。撮影状況に合わせてご使用ください。

ご注意

- 以下の撮影モードのときは、[測光モード]は[マルチ]に固定されます。
 - [おまかせオート]
 - 光学ズーム以外のズーム
- [ハイライト重点]を選択しているとき、撮りたい被写体よりも明るい物が画面内にあると、被写体が暗く写ることがあります。

マルチ測光時の顔優先

[測光モード]を[マルチ]に設定しているときに、カメラが検出した人物の顔を基準に測光するかどうかを設定します。

MENU →  (撮影設定1) → [マルチ測光時の顔優先] → 希望の設定を選ぶ。

入：カメラが検出した顔情報を基準に測光を行う。

切：顔検出は行わずに[マルチ]で測光を行う。

ご注意

- 撮影モードが[おまかせオート]の場合、[マルチ測光時の顔優先]は[入]になります。

スポット測光位置

[フォーカスエリア]が[フレキシブルスポット]または
[拡張フレキシブルスポット]のときに、スポット測光位置をフォーカスエリアに連動させるかどうかを設定します。

MENU → 1 (撮影設定1) → [スポット測光位置] → 希望の設定を選ぶ。

中央：スポット測光位置がフォーカスエリアに連動せず、常に中央で測光する。
フォーカス位置連動：スポット測光位置がフォーカスエリアに連動する。

ご注意

- [フォーカスエリア]が[フレキシブルスポット]または
[拡張フレキシブルスポット]以外の場合は、スポット測光位置は中央に固定されます。
- [フォーカスエリア]が[ロックオンAF : フレキシブルスポット]または
[ロックオンAF : 拡張フレキシブルスポット]の場合は、スポット測光位置がロックオンAF開始位置に連動しますが、被写体の追尾には連動しません。

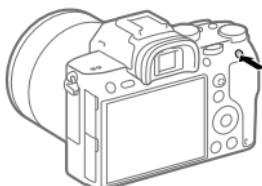
AEロック

逆光や窓際などでの撮影で、背景と被写体に大きな明暗の差がある場合は、被写体が適正な明るさになる箇所で測光し、露出を固定して撮影します。被写体の明るさを抑えたいときは被写体よりも明るい箇所で測光し、被写体をより明るく写したいときは被写体よりも暗い箇所で測光し、画面全体の露出を固定します。

1 露出を合わせる箇所に、ピントを合わせる。

2 AELボタンを押す。

露出が固定され、*****(AEロックマーク)が表示される。



3 AELボタンを押したまま、撮影したい被写体にピントを合わせ直し、撮影する。

- 露出値を一定に保ったまま連続で撮影するときは、撮影後もAELボタンを押したままにする。指を離すと露出固定は解除される。

ヒント

- MENU → 2 (撮影設定2) → [カスタムキー]または[自拍カスタムキー] → [AELボタン] → [再押しAEL]を選ぶと、ボタンを押し続けなくても露出を固定できます。

ご注意

- 光学ズーム以外のズームを使用しているときは、[押す間スポットAEL]または[再押しスポットAEL]は使えません。

明るさ/コントラストを自動補正する

Dレンジオプティマイザー (DRO)

被写体や背景の明暗の差を細かな領域に分けて分析し、最適な明るさと階調の画像にします。

-
- 1 MENU → [撮影設定1] → [DRO/オートHDR] → [Dレンジオプティマイザー]を選ぶ。

撮影

- 2 コントロールホイールの左/右を押して、希望の設定を選ぶ。

Dレンジオプティマイザー：オート：本機が自動で調整する。

Dレンジオプティマイザー：Lv1 ~ Dレンジオプティマイザー：Lv5：撮影画像の階調を画像の領域ごとに最適化する。Lv1（弱）～Lv5（強）で最適化レベルを選ぶ。

ご注意

- 以下の場合、[Dレンジオプティマイザー]は[切]に固定されます。
 - [ピクチャーエフェクト]が[切]以外のとき
 - [ピクチャープロファイル]が[切]以外のとき
- [記録設定]が[120p 100M]、[120p 60M]のとき、または[S&Qフレームレート]が[120fps]のときは、[DRO/オートHDR]は[切]に設定されます。
- [Dレンジオプティマイザー]動作時は、ノイズが目立つ場合があります。特に補正効果を強めるときは、撮影後の画像を確認しながらレベルを選んでください。

オートHDR

露出の異なる3枚の画像を撮影し、適正露出の画像とアンダー画像の明るい部分、オーバー画像の暗い部分を合成することにより階調豊かな画像にします(HDR : High Dynamic Range)。適正露出画像と合成された画像の2枚が記録されます。

1 MENU → 1 (撮影設定1) → [DRO/オートHDR] → [オートHDR]を選ぶ。

2 コントロールホイールの左/右を押して、希望の設定を選ぶ。

オートHDR : 露出差オート : 本機が自動で調整する。

オートHDR : 露出差1.0EV ~ **オートHDR : 露出差6.0EV** : 被写体の明暗差に応じて露出差を設定する。1.0EV (弱) ~ 6.0EV (強)で最適化レベルを選ぶ。

例 : 2.0EVでは、-1.0EVの画像、適正露出の画像、+1.0EVの画像の3枚が合成される。

ヒント

- 一度の撮影で3回シャッターが切られるため、以下に注意してください。
 - 動きや点滅発光などがない被写体のときに設定する。
 - 構図が変わらないように撮影する。

ご注意

- [ファイル形式]が、[RAW]または[RAW+JPEG]のときは設定できません。
- 撮影モードが以下のときは、[オートHDR]を設定できません。
 - [おまかせオート]
- 以下の場合は、[オートHDR]を設定できません。
 - [ピクチャーエフェクト]が[切]以外のとき
 - [ピクチャープロファイル]が[切]以外のとき
- 撮影後、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 被写体の輝度差の状況や撮影環境によっては思い通りの効果を得られないことがあります。
- フラッシュ発光時は、効果がほとんど得られません。
- コントラストが低いシーンや、大きな手ブレ、被写体ブレが発生した場合は、良好なHDR画像が撮影できていないことがあります。カメラがブレを検出した場合は、再生画像に !を表示してお知らせします。必要に応じて、構図を変えたり、ブレに注意して撮影し直してください。

ISO感度を選ぶ

光に対する感度は、ISO感度(推奨露光指数)で表します。数値が大きいほど高感度になります。

コントロールホイールのISO (ISO感度) → 希望の設定を選ぶ。

- MENU →  [撮影設定1] → [ISO感度]でも設定できます。
- 前ダイヤルを回すとコントロールホイールで選ぶとの同様に1/3段ずつ数値を変更できます。後ダイヤルを回すと1段ずつ数値を変更できます。

ISO AUTO : カメラが明るさに応じた感度を自動で設定する。

ISO 50 ~ ISO 102400 : お好みの感度をマニュアルで設定する。数値が大きいほど高感度になる。

ヒント

- [ISO AUTO]時に自動設定されるISO感度の範囲を変更できます。[ISO AUTO]を選択したときに、コントロールホイールの右を押して、[ISO AUTO 上限] / [ISO AUTO 下限]を選んで希望の数値を設定してください。

ご注意

- 以下のときは、[ISO AUTO]に設定されます。
 - [おまかせオート]
- ISO100未満の領域では、記録できる被写体輝度の範囲(ダイナミックレンジ)が少し狭くなります。
- ISO感度が高くなるほど、ノイズが増えます。
- 静止画撮影時、動画撮影時、またはスロー＆クイックモーション撮影時で、選べる設定が異なります。
- 動画撮影時はISO100～ISO32000の範囲で選べます。ISO32000よりも大きい値の状態で動画撮影を始めると、ISO32000に切り替わります。動画撮影を終えると元のISO値に戻ります。
- 動画撮影時はISO100～ISO32000の範囲で選べます。ISO100よりも小さい設定値の状態で動画撮影を始めると、ISO100に切り替わります。動画撮影を終えると元の設定値に戻ります。
- 撮影モードが「P」、「A」、「S」、「M」のとき、ISO感度を[ISO AUTO]にすると、設定された範囲内で自動設定されます。

ISO AUTO低速限界

撮影モードがP(プログラムオート)またはA(絞り優先)で[ISO AUTO]を選択したときに、ISO感度が変わり始めるシャッタースピードを設定できます。

この機能は、動いている被写体を撮影するときに効果的です。手ブレを抑えながら、被写体ブレも軽減することができます。

MENU → □1 (撮影設定1) → [ISO AUTO低速限界] → 希望の設定を選ぶ。

FASTER (より高速) /FAST (高速) : [標準]よりも速いシャッタースピードでISO感度が変わり始めるため、手ブレや被写体ブレを抑えることができる。

STD (標準) : レンズの焦点距離に応じてカメラが自動で設定する。

SLOW (低速) /SLOWER (より低速) : [標準]よりも遅いシャッタースピードでISO感度が変わり始めるため、ノイズの少ない写真を撮影できる。

1/8000 ~ 30" : 設定したシャッタースピードでISO感度が変わり始める。

ヒント

- ・[より高速]、[高速]、[標準]、[低速]、[より低速]でISO感度が変わり始めるシャッタースピードの差は、それぞれ1段分です。

ご注意

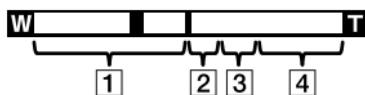
- ・ISO感度を、[ISO AUTO]時に設定した[ISO AUTO 上限]まで上げても露出不足になる場合は、適正露出で撮影するために[ISO AUTO低速限界]で設定したシャッタースピードよりも低速になります。
- ・以下の場合、設定されたシャッタースピードのとおりに動作しないことがあります。
 - 明るいシーンをフラッシュ撮影するとき(高速側のシャッタースピードがフラッシュ同調速度1/250秒で制限されるため)
 - [フラッシュモード]が[強制発光]で、暗いシーンをフラッシュ撮影するとき(低速側のシャッタースピードが、カメラが自動で判断したシャッタースピードで制限されるため)

ズームする

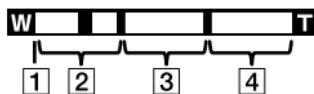
本機で使用できるズームの種類

本機では、いくつかのズームを組み合わせることで、高倍率のズームができます。ズームの種類によってモニターに表示されるアイコンが変わります。

電動ズームレンズの場合：



電動ズームレンズ以外の場合：



① 光学ズーム範囲

レンズのズーム範囲でズームします。電動ズームレンズ使用時は、光学ズーム範囲のズームバーが表示されます。電動ズームレンズ以外を使用時、光学ズーム範囲内ではスライダーは左端に固定されます。
($\times 1.0$ と表示されます)

② スマートズーム範囲(s Θ)

画像を部分的に切り出して、画質を劣化させずに拡大する。(画像サイズがM、Sのときのみ。)

③ 全画素超解像ズーム範囲(c Θ)

画質劣化の少ない画像処理により拡大する。[ズーム設定]を
[入：全画素超解像ズーム]または[入：デジタルズーム]にすると使用
できます。

④ デジタルズーム範囲(d Θ)

画像処理により拡大する。[ズーム設定]を[入：デジタルズーム]にす
ると使用できます。

ご注意

- お買い上げ時の設定では、[ズーム設定]は[光学ズームのみ]に設定されています。
- お買い上げ時の設定では、[JPEG画像サイズ]は[L]に設定されています。スマートズームを使用したい場合は、[JPEG画像サイズ]をMまたはSに変更してください。
- 以下の場合、光学ズーム以外のズームは使えません。
 - [ファイル形式]が[RAW]または[RAW+JPEG]
 - [記録設定]が[120p]
 - [S&Q フレームレート]が[120fps]でスロー＆クイックモーション撮影時
- 動画撮影中は、スマートズームは使用できません。
- 電動ズームレンズ装着時は、MENUから[ズーム]を使用できません。光学ズームの倍率を超えてズームすると、そのままの操作で光学ズーム以外の[ズーム]に移行します。
- 光学ズーム以外のズーム使用時は、[測光モード]は[マルチ]になります。
- 光学ズーム以外のズームを使用中は、下記の機能は使用できません。
 - [AF時の顔優先]
 - [マルチ測光時の顔優先]
 - ロックオンAF
- 動画撮影中に光学ズーム以外のズームをする場合、[カスタムキー]で希望のキーに[ズーム]を設定してください(160ページ)。

全画素超解像ズーム/デジタルズーム(ズーム)

光学ズーム以外のズームを使って、ズームレンズによる光学ズームの倍率以上に拡大できます。

-
- 1 MENU → □2 (撮影設定2) → [ズーム設定]で
[入：全画素超解像ズーム]または[入：デジタルズーム]を選
ぶ。**
-

- 2 電動ズームレンズ装着時は、ズームレンズのズームレバーまたはズームリングで、被写体を拡大する。**

- 光学ズームの倍率を超えると、そのままの操作で光学ズーム以外のズームに移行します。

3 電動ズームレンズ以外のレンズを装着時は、MENU →

■2(撮影設定2) → [ズーム] → 希望の数値を選ぶ。

終了するときは、コントロールホイールの中央を押す。

- MENU → ■2(撮影設定2) → [■カスタムキー]または[■カスタムキー]で希望のキーに[ズーム]の機能を設定することもできます。

ズーム倍率について

画像サイズによって、レンズのズーム倍率に組み合わされる倍率は変わります。

[■横縦比]が[3:2]の場合

ズーム設定	■ JPEG画像サイズ	フルサイズ/ APS-C	ズーム倍率
光学ズームのみ(スマートズーム含む)	L	—	—
	M	フルサイズ	約1.5倍
		APS-C	約1.3倍
	S	フルサイズ	約2倍
		APS-C	約2倍
	L	フルサイズ	約2倍
		APS-C	約2倍
	M	フルサイズ	約3.1倍
		APS-C	約2.6倍
		フルサイズ	約4倍
		APS-C	約4倍
入:全画素超解像ズーム	L	フルサイズ	約4倍
		APS-C	約4倍
	M	フルサイズ	約6.2倍
		APS-C	約5.2倍
	S	フルサイズ	約8倍
		APS-C	約8倍

ホワイトバランス

撮影環境での光の色の影響を補正して、白いものを白く写すための機能です。画像の色合いが思った通りにならないときや、色合いを変化させて雰囲気を表現したいときに使います。

MENU → 1 (撮影設定1) → [ホワイトバランス] → 希望の設定を選ぶ。

AWB AWB_A AWB_B オート / **太陽光** / **日陰** / **曇天** / **電球** /
-1 蛍光灯：温白色 / **0 蛍光灯：白色** / **+1 蛍光灯：昼白色** /
+2 蛍光灯：昼光色 / **WB フラッシュ** / **AWB 水中オート**：被写体を照らしている光源を選ぶと、選んだ光源に適した色あいになる(プリセットホワイトバランス)。[オート]を選ぶと本機が光源を自動判別し、適した色合いに調整する。

K 色温度・カラーフィルター：光源の色に合わせて設定する(色温度)。写真用のCC(色補正)フィルターと同等の効果が得られる(カラーフィルター)。

カスタム1/カスタム2/カスタム3：[カスタムセット]で取得した設定を使用する。

SET カスタムセット：撮影する光源下で基準になる白色を取得する。登録先の番号を選び決定する。

ヒント

- コントロールホイールの右で、微調整画面が表示され、必要に応じて色合いを微調整できます。
- 選んだ設定で思い通りの色にならないときは、ホワイトバランスブラケット撮影を行います。
- AWB_A, AWB_B**は[AWB時の優先設定]を[雰囲気優先]または[ホワイト優先]に設定したときのみ表示されます。

ご注意

- 以下のときは、[ホワイトバランス]は[オート]に固定されます。
- [おまかせオート]
- 水銀灯やナトリウムランプのみが光源の場合、光の特性上、正確なホワイトバランスが得られません。フラッシュを発光して撮影するか、[カスタムセット]のご使用をおすすめします。

[カスタムセット]で基準の白を取り込む

複数の種類の光源で被写体が照らされている場合などに、より正確な色合いを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。3つの設定を登録できます。

1 MENU →  (撮影設定1) → [ホワイトバランス] → [カスタムセット]を選ぶ。

2 白く写したいものが画面中央のサークルを覆うようにカメラを構えて、コントロールホイールの中央を押す。

シャッター音がして、取り込んだ値(色温度とカラーフィルター)が表示される。

3 コントロールホイールの左/右で登録番号を選び、中央を押す。

登録したカスタムホワイトバランス値が設定された状態で、撮影情報画面に戻る。

- この操作で登録したカスタムホワイトバランス値は、次に別の値が登録されるまで保持されます。

ご注意

- [カスタムWB設定エラー]というメッセージが表示されたときは、値が想定外であることを表しています(鮮やかな色の被写体に向けた場合など)。そのまま登録することは可能ですが、設定し直すことをおすすめします。カスタムWB設定エラーとなっている場合、撮影情報画面の  表示がオレンジ色になります(正しく登録された場合は白色になります)。
- シャッターを切るときにフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが登録されます。呼び出したあとの撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。

画像の仕上がりを設定する

クリエイティブスタイル

画像の仕上がりを設定でき、各画像スタイルごとにコントラスト、彩度、シャープネスを微調整できます。

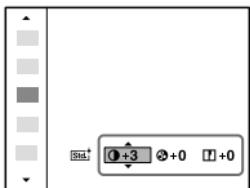
- 1 MENU →  (撮影設定1) → [クリエイティブスタイル] を選ぶ。**
 - 2 コントロールホイールの上/下で希望のクリエイティブスタイルまたはスタイルボックスを選ぶ。**
- Std.**  **スタンダード**：さまざまなシーンを豊かな階調と美しい色彩で表現する。
- Vivid**  **ビビッド**：彩度とコントラストが高めになり、花、新緑、青空、海など色彩豊かなシーンをより印象的に表現する。
- Ntr.**  **ニュートラル**：彩度・シャープネスが低くなり、落ち着いた雰囲気に表現する。パソコンでの画像加工を目的とした撮影にも適している。
- Clear**  **クリア**：ハイライト部分の抜けがよく、透明感のある雰囲気に表現する。光の煌めき感などの表現に適している。
- Deep**  **ディープ**：濃く深みのある色再現にする。重厚感、存在感など、重みのある表現に適している。
- Light**  **ライト**：明るく、すっきりとした色再現にする。爽快感、軽快感など明るい雰囲気の表現に適している。
- Port.**  **ポートレート**：肌をより柔らかに再現する。人物の撮影に適している。
- Land.**  **風景**：彩度、コントラスト、シャープネスがより高くなり、鮮やかでメリハリのある風景に再現する。遠くの風景もよりくっきりする。
- Sunset**  **夕景**：夕焼けの赤さを美しく表現する。
- Night**  **夜景**：コントラストがやや低くなり、見た目の印象により近い夜景に再現する。

Autm[†] **紅葉**：紅葉の赤、黄をより鮮やかに表現する。

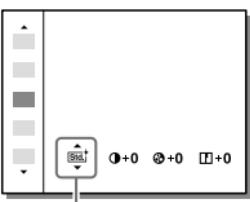
B/W[†] **白黒**：白黒のモノトーンで表現する。

Sepia[†] **セピア**：セピア色のモノトーンで表現する。

Std.[†] **お好みの設定を登録する(スタイルボックス)**：任意の内容を登録できる6つのスタイルボックス(**Std.[†]**のように左側に数字が入っているもの)を選んで、右ボタンで、希望の設定を選んで登録できる。
スタイルボックスを使えば、同じスタイルでも微妙に設定を変えて呼び出せる。



3 ○ (コントラスト)、⊕ (彩度)、□ (シャープネス)を調整したいときは、左/右で希望の項目を選び、上/下で値を選ぶ。



4 スタイルボックスを選んだときは、コントロールホイールの右で右側に移動し、希望のクリエイティブスタイルを選ぶ。

- スタイルボックスを使えば、同じスタイルでも微妙に設定を変えて呼び出すことができます。

スタイルボックスを選んでいるときのみ表示

■ [コントラスト]、[彩度]、[シャープネス]の設定

[コントラスト]、[彩度]、[シャープネス]は、[スタンダード]や[風景]などのプリセットの画像スタイルや、好みの設定を登録できる
[スタイルボックス]ごとに調整できます。

コントロールホイールの左/右を押して項目を選び、上/下で値を設定します。

○ コントラスト：+側に設定するほど明暗差が強調され、インパクトのある仕上がりになる。

④ **彩度**: +側にするほど色が鮮やかになる。一側に設定すれば控えめで落ち着いた色に再現される。

□ **シャープネス**: 解像感を調整できる。+側に設定すれば輪郭がよりくっきりし、一側に設定すれば柔らかな表現になる。

ご注意

- 以下のときは、[クリエイティブスタイル]は[スタンダード]に固定されます。
 - [おまかせオート]
 - [ピクチャーエフェクト] が[切]以外
 - [ピクチャープロファイル] が[切]以外
 - [白黒]、[セピア]を選択しているときは、[彩度]の調整はできません。

▣ 色空間

色を数値の組み合わせによって表現するための方法、または表現できる色の範囲のことを色空間といいます。画像の用途によって色空間を変更できます。

MENU → ◎1(撮影設定1) → [▣ 色空間] → 希望の設定を選ぶ。

sRGB : デジタルカメラの標準となっている色空間。画像調整を行わずに印刷する場合など、一般的な撮影では[sRGB]を使う。

AdobeRGB : より広い色再現範囲を持っている色空間。鮮やかな緑色や赤色の多い被写体をプリントする場合に効果がある。撮影した画像のファイル名は、“_”（アンダーバー）で始まる。

ご注意

- [AdobeRGB]は、カラーマネジメントおよびDCF2.0オプション色空間に対応したアプリケーションソフトやプリンター用です。非対応のソフトやプリンターでは、正しい色での表示、印刷ができないことがあります。
- [AdobeRGB]で撮影した画像は、Adobe RGB非対応機器で表示すると、低彩度になります。

シャッターの設定

■ フリッカーレス撮影

蛍光灯などの人工光源の点滅によるちらつき(フリッカー)を検知し、フリッカーによる影響が少ないタイミングで静止画を撮影します。速いシャッター速度で撮影したときに、画像の上下で生じる露出や色合いの差、連続撮影時の露出や色合いのばらつきを低減できます。

1 MENU → (撮影設定1) → [■ フリッカーレス撮影] → [入]を選ぶ。

切：フリッカーによる影響を低減しない。

入：フリッckerによる影響を低減して撮影する。シャッターボタン半押し時にフリッckerを検知すると、**Flicker**(フリッckerアイコン)が表示される。

2 シャッターボタンを半押ししてから撮影する。

- ・シャッターボタンを半押しすることでフリッckerが検知されます。
-

ヒント

- ・同一シーンを異なるシャッター速度で撮影したときに、撮影画像の色合いが異なることがあります。その場合には、撮影モードを[シャッタースピード優先]または[マニュアル露出]にし、シャッタースピードを一定にして撮影することをおすすめします。
- ・マニュアルフォーカス時も、シャッターボタンを半押しすることでフリッカーレス撮影を行うことができます。

ご注意

- ・レリーズタイムラグがわずかに長くなることがあります。また、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じたりすることがあります。
- ・光源の点滅周期が100Hzか120Hzの場合のみフリッckerを検知できます。
- ・背景が暗いときなど、光源や被写体によってはフリッckerを検知できないことがあります。

- ・フリッカーを検知しても、光源や撮影条件によってはフリッカーの影響を低減できないことがあります。事前に試し撮りすることをおすすめします。
- ・以下の場合、[フリッカーレス撮影]は使えません。
 - バルブ撮影中
 - [サイレント撮影]
 - 動画撮影時
 - マニュアルフォーカス時に、シャッターボタンを半押しせずに撮影したとき
- ・[フリッカーレス撮影]を[入]にした場合と[切]にした場合で、撮影画像の色合いが異なることがあります。

[サイレント撮影

シャッター音を消して撮影することができます。

MENU → 2 (撮影設定2) → [サイレント撮影] → 希望の設定を選ぶ。

入：シャッター音を消して撮影する。

切：サイレント撮影しない。

ご注意

- ・サイレント撮影機能は、被写体のプライバシーや肖像権に充分ご配慮のうえ、お客様自身の責任においてお使いください。
- ・[サイレント撮影]を[入]に設定しても、完全に無音にはなりません。
- ・[サイレント撮影]を[入]に設定しても、絞りやフォーカスの駆動音は発生します。
- ・低感度のサイレント撮影時、極端に強い光源にカメラを向けると、画面内の高輝度部分が黒っぽく撮影されることがあります。
- ・電源オフ時、まれにシャッター音が鳴る場合がありますが、故障ではありません。

- 被写体の動きやカメラ本体の動きによって画像に歪みが起こることがあります。また、[RAW記録方式]が[非圧縮]の場合、歪みがより強くなることがあります。歪みを軽減するには、[RAWファイル形式]を[JPEG]に設定してください。RAW形式で撮影したいときは、[ドライブモード]を[連続撮影]にし、[RAW記録方式]を[圧縮]に設定すると、歪みが軽減されます。
- 瞬間的な光(他のカメラのフラッシュ発光など)や蛍光灯などのちらつきのある照明下で撮影した場合、帯状の明暗が撮影される場合があります。
- ピントが合ったときや、セルフタイマー作動時などの電子音を消したいときは[電子音]の設定を[切]にしてください。
- 以下の場合、[サイレント撮影]を[入]にしていてもシャッター音が鳴ります。
 - [ホワイトバランス]の[カスタムセット]で基準の白を取り込むとき
 - [個人顔登録]で顔を登録するとき
- モードダイヤルがP/A/S/M以外のときは[サイレント撮影]は選択できません。
- [サイレント撮影]が[入]の場合、以下の機能は使用できません。
 - フラッシュ撮影
 - オートHDR
 - ピクチャーエフェクト
 - ピクチャープロファイル
 - 長秒時NR
 - 電子先幕シャッター
 - バルブ撮影
- 起動してから撮影可能までの時間が通常よりも約0.5秒延びます。
- [RAWファイル形式]が[RAW]または[RAW+JPEG]で[RAW記録方式]が[非圧縮]に設定されているとき、サイレント撮影時はブラケット撮影ができません。

電子先幕シャッター

電子先幕シャッター機能を使うと、短いリリースタイムラグで撮影できます。

MENU →  (撮影設定2) → [電子先幕シャッター] → 希望の設定を選ぶ。

入：電子先幕シャッター機能を使う。

切：電子先幕シャッター機能を使わない。

ご注意

- ・大口径レンズを装着して高速のシャッタースピードで撮影する場合、玉ボケなどにシャッターによる欠けが生じることがあります。その場合は、[切]に設定してください。
- ・他社製レンズ(ミノルタ/コニカミノルタ製レンズを含む)を使用するときは、[切]に設定してください。[入]に設定すると、適正露出にならなかったり、画像の明るさにムラが出たりします。
- ・高速のシャッタースピードで撮影する場合、撮影条件によっては画面の明るさにムラが出ることがあります。その場合は[切]に設定してお使いください。

撮影

手ブレを補正する

手ブレ補正機能を使うかどうかを設定します。

MENU →  (撮影設定2) → [手ブレ補正] → 希望の設定を選ぶ。

入：[手ブレ補正]を行う。

切：[手ブレ補正]を行わない。三脚などの使用時は[切]にすることをおすすめします。

手ブレ補正設定

装着しているレンズによって、最適な手ブレ補正を使って撮影できます。

1 MENU →  (撮影設定2) → [手ブレ補正] → [入]を選ぶ。

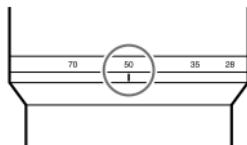
2 [手ブレ補正設定] → [手ブレ補正調整] → 希望の設定を選ぶ。

オート：レンズから取得した情報をもとに自動で手ブレ補正する。

マニュアル：[手ブレ補正焦点距離]で設定した焦点距離で手ブレ補正する。

(8mm ~ 1000mm)

- 撮影時のレンズ焦点距離を設定してください。



ご注意

- ON/OFF（電源）スイッチを「ON」にした直後やカメラを構えた直後、シャッターボタンを半押しせずに一気に押し込んだときは、手ブレ補正の効果が得られにくいことがあります。
- 三脚などを使う場合には、手ブレ補正機能が誤動作するおそれがあるため、[手ブレ補正]を[切]にしてください。
- MENU →  (撮影設定2) → [手ブレ補正]が[切]のとき、[手ブレ補正設定]は使えません。
- レンズから焦点距離などの情報が取得できないときは、手ブレ補正が正しく動作しません。[手ブレ補正調整]を[マニュアル]にして、装着しているレンズに合わせて[手ブレ補正焦点距離]を設定してください。その場合、の横に、設定している手ブレ補正焦点距離の値が表示されます。
- レンズSEL16F28（別売）にコンバーターレンズを装着している場合などには、[手ブレ補正調整]を[マニュアル]にして、焦点距離を設定してください。
- [手ブレ補正]の[入]/[切]により、ボディ内/レンズ内同時に設定が切り替わります。
- 手ブレ補正スイッチ付きレンズを装着している場合、レンズ側のスイッチ操作でのみ変更が可能となるため、本機では設定を切り換えることができません。

ノイズリダクション

[長秒時NR]

長時間露光時に目立つ粒状ノイズを軽減するため、シャッタースピードが1秒または1秒より遅いときにノイズ軽減処理を行います。

MENU → 1 (撮影設定1) → [長秒時NR] → 希望の設定を選ぶ。

入：シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をする。処理中はメッセージが表示され、撮影できない。画質を優先するときに選ぶ。

切：ノイズ軽減処理をしない。撮影タイミングを優先するときに選ぶ。

ご注意

- 以下の場合、[長秒時NR]を[入]にしても、ノイズリダクションは働きません。
- [ドライブモード]が[連続撮影]または[連続プラケット]
- 撮影モードが以下の場合は、[長秒時NR]を[切]にできません。
- [おまかせオート]
- 撮影条件によっては、シャッタースピードが1秒以上でもノイズ軽減処理を行わない場合があります。

▣ 高感度NR

ISO感度を高感度に設定して撮影した場合のノイズ軽減処理を設定します。

MENU →  (撮影設定1) → [▣ 高感度NR] → 希望の設定を選ぶ。

標準：高感度ノイズリダクションの処理を標準的に行う。

弱：高感度ノイズリダクションの処理を弱めに行う。

切：高感度ノイズリダクションの処理を行わない。撮影タイミングを優先するときに選ぶ。

ご注意

- 撮影モードが以下の場合は、[▣ 高感度NR]は設定できません。
- [おまかせオート]
- [▣ ファイル形式]が[RAW]のときは設定できません。
- [▣ ファイル形式]が[RAW+JPEG]のとき、RAW画像には[▣ 高感度NR]は働きません。

より高解像の静止画を撮影する (ピクセルシフトマルチ撮影)

4枚のRAW画像を撮影してパソコンで合成することで、通常の撮影では実現できない高解像の画像を生成できます。美術品や建築物などの静止物を撮影する場合に効果的です。

あらかじめ、MENU →  (ネットワーク) → [スマートフォン操作設定] → [スマートフォン操作]を[切]に設定してください。

1 MENU →  (セットアップ) → [USB接続] → [PCリモート]を選ぶ。

2 本機とパソコンをUSB接続し、パソコンでImaging Edge Desktop (Remote)を起動する。

3 三脚を使用して本機をしっかりと固定し、Imaging Edge Desktop (Remote)を使って[ピクセルシフトマルチ撮影]を行う。

指定した撮影間隔で4枚のRAW画像が撮影され、合成された画像とともにパソコンに保存される。

- カメラや被写体のブレに注意してください。
- 4枚のRAW画像は同じ設定で撮影されます。撮影間隔中に撮影設定を変更することはできません。
- 撮影間隔中にコントロールホイールの中央を押すと、撮影を中断できます。
- フラッシュ(別売)を使用しない場合はImaging Edge Desktop (Remote)で撮影間隔を0.5秒に設定してください。フラッシュ使用時は、お使いのフラッシュの充電時間を考慮して撮影間隔を設定してください。
- フラッシュ同調速度は1/13秒になります。[露出値ステップ幅]を[0.5段]に設定すると、シャッタースピードは1/10秒までしか設定できません。
- [ピクセルシフトマルチ撮影]のテクニックは、以下のサポートページをご覧ください。

<https://www.sony.net/psms/>

ヒント

- Imaging Edge Desktop (Remote) を使わずに [ピクセルシフトマルチ撮影] を行うこともできます。MENU → 1 (撮影設定1) → [ピクセルシフトマルチ撮影] で撮影間隔を設定して撮影してください。撮影された4枚のRAW画像をパソコンに取り込んで、Imaging Edge Desktop (Viewer) を使って合成できます。撮影時に Imaging Edge Desktop (Remote) を使わない場合は、カメラや被写体のブレを防ぐために、ワイヤレスリモートコマンダー (別売) や [セルフタイマー] を使って撮影してください。

ご注意

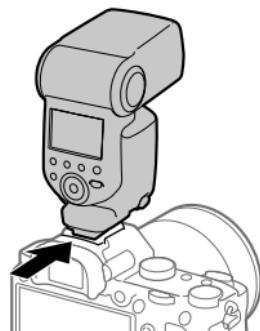
- カメラや被写体のブレが発生すると、[ピクセルシフトマルチ撮影] で撮影した RAW 画像が正しく合成されないことがあります。また、被写体が静止していても、周辺の人物や物が動くと、被写体に当たる光が変化するため、RAW 画像が正しく合成されないことがあります。
- [ピクセルシフトマルチ撮影] で撮影した RAW 画像は本機では合成できません。 Imaging Edge Desktop (Viewer) を使って合成してください。
- [ピクセルシフトマルチ撮影] 時は、下記の設定に固定されます。
 - ファイル形式] : [RAW]
 - RAW 記録方式] : [非圧縮]
 - サイレント撮影] : [入]
- [ピクセルシフトマルチ撮影] 時は、バルブ撮影は行えません。
- 撮影モードが P/A/S/M 以外のときは、ピクセルシフトマルチ撮影は行えません。
- マウントアダプター (LA-EA1/LA-EA2/LA-EA3/LA-EA4) をご使用の場合は、撮影間隔が長くなることがあります。

フラッシュ（別売）を使う

暗い場所での撮影や逆光での撮影では、フラッシュを使うと被写体を明るく写せます。また、手ブレを抑えるのにも役立ちます。

フラッシュの使いかたについて詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

1 フラッシュ（別売）を取り付ける。



2 フラッシュの電源を入れ、フラッシュの充電が完了したら、撮影する。

● 点滅：フラッシュ充電中

● 点灯：フラッシュの充電が完了

- 設定している撮影モードや機能によって、選べるフラッシュモードが異なります。
-

ご注意

- フラッシュ光がレンズでさえぎられて、写真下部に影ができることがあります。レンズフードを取りはずしてください。
- フラッシュ発光時は被写体から1m以上離れて撮影してください。
- 動画撮影時はフラッシュは使用できません。(LEDライトを内蔵しているフラッシュ(別売)をお使いの場合、LEDライトは使用できます。)
- フラッシュなどのアクセサリーをマルチインターフェースシューに取り付け/取りはずしする場合は、電源を「OFF」にしてから行ってください。取り付けの際は、本機にしっかりと固定されていることを確認してください。
- マルチインターフェースシューに、250V以上の電圧がかかる市販フラッシュや、極性が逆の市販フラッシュを使用しないでください。故障の原因になります。
- シンクロ端子は極性が逆のタイプでもご使用になれます。シンクロ電圧が400V以下のフラッシュをご使用ください。
- ズームをW側にしてフラッシュ撮影すると、撮影状況によってはレンズの影が写ることがあります。この場合は被写体から離れて撮影するか、ズームをT側にしてフラッシュ撮影してください。
- レンズによっては、周辺の光量が落ちて撮影されることがあります。
- 外部フラッシュを使用して撮影する場合、シャッタースピードが1/4000秒より速く設定されていると、画像にしま状の明暗が現れる場合があります。マニュアル発光に設定して、1/2以上の発光量で撮影することをおすすめします。
- 対応アクセサリーについて詳しくは、専用サポートサイトでご確認ください。
<https://www.sony.jp/support/ichigan/>

フラッシュモード

フラッシュの発光方法を設定できます。

MENU → 1 (撮影設定1) → [フラッシュモード] → 希望の設定を選ぶ。

⌚ **発光禁止**：フラッシュを発光させない。

 **自動発光**：光量不足や逆光と判断したとき発光する。

⚡ **強制発光**：必ず発光する。

 **スローシンクロ**：必ず発光する。スローシンクロでシャッタースピードを遅くして撮ると、被写体だけでなく、背景も明るく撮れる。

 **後幕シンクロ**：露光が終わる直前のタイミングで必ず発光する。走っている自動車や歩いている人など動いている被写体を撮ると、動きの軌跡が自然な感じに撮れる。

ご注意

- 初期値は撮影モードによって変わります。
- 撮影モードによっては選べない[フラッシュモード]があります。

調光補正

−3.0EVから+3.0EVの範囲で、フラッシュ発光量を調整できます。調光補正を行うと、フラッシュの発光量のみが変化します。露出補正を行うと、シャッタースピードと絞り値とともにフラッシュの発光量も変化します。

MENU → 1 (撮影設定1) → [調光補正] → 希望の設定を選ぶ。

- ・+側にすると発光量が増え、−側にすると発光量が減ります。

撮影

ご注意

- ・撮影モードが以下の場合は、調光補正はできません。
- [おまかせオート]
- ・被写体がフラッシュ光の最大到達距離(調光距離)より遠くにあるときは、オーバー側(+側)の効果が出ないことがあります。また近接撮影では、アンダー側(−側)の効果が出ないことがあります。
- ・レンズにNDフィルターを装着しているときや、フラッシュにディフューザー、カラーフィルターを装着しているとき、適正露出が得られずに画像が暗くなることがあります。その場合は、[調光補正]をお好みの量に設定してください。

FELロック

通常のフラッシュ撮影では被写体が最適露出になるようにフラッシュの発光量が自動的に調整されますが、あらかじめフラッシュの発光量を決めておくことができます。

FEL : Flash Exposure Level (フラッシュ露出レベル) の略

1 MENU →  (撮影設定2) → [カスタムキー] → 希望のボタン → [再押しFELロック]を登録する。

2 FELロックしたい被写体を中心にして、ピントを合わせる。



3 [再押しFELロック]を登録したボタンを押して、発光量を固定する。

- フラッシュがプリ発光する。
-  (FELロックマーク) が点灯する。

4 撮りたい構図にして撮影する。

- FELロックを解除する場合は、もう一度 [再押しFELロック] を登録したボタンを押す。



ヒント

- [押す間FELロック]を設定すると、ボタンを押している間だけ保持できます。また、[押す間FELロック/AEL]、[再押しFELロック/AEL]に設定すると、以下のときはAEをロックして撮影できます。
 - [フラッシュモード]が[発光禁止]または[自動発光]のとき
 - フラッシュが発光できないとき
 - 外部フラッシュのマニュアル発光設定時
- FELロック対応フラッシュは、専用サポートサイトでご確認ください。
<https://www.sony.jp/support/ichigan/>

ご注意

- フラッシュが装着されていないと設定できません。
- FELロックに対応していないフラッシュを装着した場合は、エラー表示が出ます。
- AEとFELを両方固定している場合は、が点灯します。

撮影

ワイヤレスフラッシュ

ワイヤレスフラッシュ撮影には、本機に取り付けたフラッシュの光を信号光として利用する光通信式ワイヤレスフラッシュ撮影と、無線通信を利用する電波式ワイヤレスフラッシュ撮影の2通りの方法があります。電波式ワイヤレスフラッシュ撮影を行うには、対応フラッシュか、電波式ワイヤレスコマンダー（別売）を使用してください。それぞれの詳しい設定方法は、フラッシュまたは電波式ワイヤレスコマンダーの取扱説明書をご覧ください。

1 シューキャップをはずし、フラッシュまたは電波式ワイヤレスコマンダーを取り付ける。

- フラッシュを取り付けてワイヤレスフラッシュ撮影を行う場合は、取り付けたフラッシュをコントローラーに設定してください。

2 MENU → 1 (撮影設定1) → [ワイヤレスフラッシュ] → [入]を選ぶ。

切：ワイヤレスフラッシュ機能を使用しない。

入：ワイヤレスフラッシュ機能を使用して、本機から離れた場所にある外部フラッシュを発光させる。

3 ワイヤレス設定した他のフラッシュまたは電波式ワイヤレスレシーバー（別売）に取り付けたフラッシュを本機から離して設置する。

- テスト発光する場合は、本機のAELボタンを押してください。
-

■ AELボタンの設定について

ワイヤレスフラッシュご使用の際には、MENU → 2 (撮影設定2) → [カスタムキー] → [AELボタン]を、[押す間AEL]に設定しておくことをおすすめします。

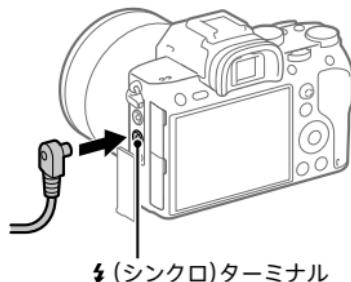
ご注意

- 光通信式ワイヤレスフラッシュで撮影している別のカメラの信号光を、本機で設定したワイヤレスフラッシュが受信してフラッシュが発光してしまう場合は、フラッシュのチャンネルを変更してください。チャンネルの変更について詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。
- ワイヤレスフラッシュ撮影に対応しているフラッシュについては、専用サポートサイトでご確認ください。

<https://www.sony.jp/support/ichigan/>

シンクロターミナルコード付きフラッシュを使う

- ◆(シンクロ)ターミナルのカバーを開け、コードを差し込む。



撮影

ヒント

- 暗くて構図を確認しにくい場合は、「ライブビュー表示」を「設定効果反映Off」に設定することで、フラッシュ撮影時にも構図を確認しやすくなります。
- フラッシュのシンクロ端子の極性が逆のタイプでもご使用になれます。

ご注意

- 露出モードはマニュアル露出モード(ISO AUTO以外を推奨)にして、シャッタースピードは1/200秒またはフラッシュ側の推奨する値のどちらか遅い方、またはそれより低速側に設定してください。
- シンクロ電圧が400V以下のフラッシュをご使用ください。
- シンクロコードを◆(シンクロ)ターミナルに接続するときは、コードと接続したフラッシュの電源をオフにしてください。オンにしていると、コードを接続した瞬間にフラッシュが発光することがあります。
- フラッシュは、常にフル発光になります。「調光補正」はできません。
- オートホワイトバランスはおすすめできません。より正確なホワイトバランスを得るために、カスタムホワイトバランスをお使いください(107ページ)。
- ◆(シンクロ)ターミナルに接続中は、フラッシュ表示が出ません。

動画を撮影する

MOVIE (動画) ボタンを押して動画撮影できます。

1 MOVIEボタンを押して撮影を開始する。

- お買い上げ時の設定では、
[MOVIE (動画) ボタン] が
[常に有効] に設定されているため、
すべての撮影モードから動画撮影
を開始できます。



MOVIEボタン

2 もう一度MOVIEボタンを押して終了する。

ヒント

- 動画撮影開始/停止機能をお好みのキーに割り当てることができます。 MENU → **■2 (撮影設定2)** → **[] カスタムキー** → 希望のキーに動画撮影開始/停止機能を設定してください。
- ピントを合わせるエリアを指定したいときは、[フォーカスエリア]で設定します。
- 顔にピントを合わせ続けたい場合は、フォーカス枠と顔検出枠が重なるように構図を工夫します。または[フォーカスエリア]を[ワイド]に設定します。
- 動画撮影中にシャッターボタンを半押しすると、素早くピントを合わせられます。
(オートフォーカスの作動音が記録される場合があります。)
- シャッタースピードや絞りを希望の値に設定したいときは、撮影モードを **[] (動画)** にして、希望の露出モードを選択してください。

- 以下の設定は、静止画撮影のときの設定値をそのまま使用できます。
 - ホワイトバランス
 - クリエイティブスタイル
 - 測光モード
 - [AF時の顔優先]
 - [マルチ測光時の顔優先]
 - Dレンジオプティマイザー
 - レンズ補正
- ISO感度、露出補正、フォーカスエリアは動画撮影中に設定を変更できます。
- [HDMI情報表示]を[なし]にすると、動画記録中でも撮影情報表示なしで記録画像を出力できます。

ご注意

- 動画記録中はカメラやレンズの作動音、操作音などが記録されてしまうことがあります。MENU →  (撮影設定2) → [音声記録] → [切]で音声を記録しないように設定できます。
- 動画撮影時、ご使用状況によってはショルダーストラップ取り付け部(三角環)の音が記録されることがあります。
- 電動ズームレンズをお使いの場合、動画記録中のズームリングでの作動音が気になるときはズームレバーでの操作をお勧めします。ズームレバーを動かすときは、レバーに軽く指をかけて、レバーをはじかないように操作してください。
- 連続して撮影している場合は、本機の温度が上昇しやすく、温かく感じることがありますかが故障ではありません。
また、[しばらく使用できません カメラの温度が下がるまでお待ちください]という表示が出る場合があります。その場合は、本機の電源を切って、本機の温度が下がるのを待ってから撮影してください。
- []が表示された場合は、本機の温度が上がっています。本機の電源を切り、温度が下がるのを待ってから撮影してください。
- 撮影が終わってしまったら、もう一度MOVIEボタンを押すと撮影を再開できます。本体やバッテリーの温度によっては、機器保護のため停止する場合があります。
- モードダイヤルが~~REC~~ (動画)またはS&Qになっているときや動画撮影中は、[フォーカスエリア]の[ロックオンAF]は選択できません。
- 動画の[プログラムオート]モードでは、絞りとシャッタースピードは自動で設定され変更できません。よって、明るい環境下で高速シャッターとなり、被写体の動きが滑らかに写らない場合があります。他の露出モードにして、絞りやシャッタースピードを調整することで、より滑らかに撮影できる場合があります。

- ・動画撮影時はISO100～ISO32000の範囲で選べます。ISO32000よりも大きい値の状態で動画撮影を始めると、ISO32000に切り替わります。動画撮影を終えると元のISO値に戻ります。
- ・動画撮影時のISO感度は、ISO100～ISO32000まで選べます。ISO100よりも小さい設定値の状態で動画撮影を始めると、ISO100に切り替わります。動画撮影を終えると元の設定値に戻ります。
- ・動画撮影時、以下の[ピクチャーエフェクト]は設定できません。動画撮影が開始されると一時的に[切]になります。
 - リッチトーンモノクロ
- ・低感度の動画撮影時、極端に強い光源にカメラを向けると、画面内の高輝度部分が黒っぽく撮影されることがあります。
- ・モニターの表示が[ファインダー撮影用]の場合、動画撮影を開始すると全情報表示に切り替わります。
- ・XAVC S動画やAVCHD動画をパソコンに取り込むときは、PlayMemories Homeを使用してください。

■シャッターボタンで動画撮影

MOVIE（動画）ボタンの代わりに、より大きく押しやすいシャッターボタンを使って、動画撮影の開始/停止を行うことができます。

MENU → ■2（撮影設定2）→ [シャッターボタンで動画撮影] → 希望の設定を選ぶ。

する：撮影モードが[動画]または[スロー & クイックモーション]のとき、シャッターボタンでも動画撮影を行うことができる。

しない：シャッターボタンで動画撮影を行わない。

ヒント

- ・[シャッターボタンで動画撮影]を[する]に設定していても、MOVIEボタンで撮影開始/停止することもできます。
- ・[シャッターボタンで動画撮影]を[する]に設定すると、[■ レックコントロール]（177ページ）で外部録画再生機器に動画の録画を開始/停止するときも、シャッターボタンで操作できるようになります。

ご注意

- ・[シャッターボタンで動画撮影]が[する]になっている場合、動画撮影中にシャッターボタンを半押ししてもピント合わせはできません。

動画撮影時の設定を変える

■ 記録方式

動画を記録するときの記録方式を設定します。

MENU → 2 (撮影設定2) → [■ 記録方式] → 希望の設定を選ぶ。

■ 記録方式	特徴
XAVC S 4K	4K解像度(3840×2160)で記録できます。 ソフトウェア PlayMemories Homeでパソコンに保存できます。
XAVC S HD	AVCHDと比べると情報量が多くなるため、より鮮明な画像を記録できます。 ソフトウェア PlayMemories Homeでパソコンに保存できます。
AVCHD	パソコン以外の保存機器との互換性に優れています。 ソフトウェア PlayMemories Homeでパソコンに保存または対応メディアを作成できます。

各フォーマットで記録できるメモリーカードについては、233ページをご覧ください。

ご注意

- ・[■ 記録方式]が[AVCHD]の場合は、1つの動画ファイルは約2GBで制限されます。連続記録中のファイルサイズが約2GBになると、自動的に新しいファイルが作成されます。
- ・[■ 記録方式]を[XAVC S 4K]に設定し、本機をHDMI機器に接続しながら動画を撮影すると、モニターには画像が表示されません。
- ・XAVC S 4K動画撮影時に[APS-C/Super 35mm]の[APS-C S35 撮影]が[オート]に設定されていると、レンズ記載の焦点距離の約1.5倍相当の画角になります。

■記録設定

動画撮影時のフレームレートとビットレートを設定します。

MENU → ■2 (撮影設定2) → [■記録設定] → 希望の設定を選択。

- ・ビットレートが高いほど高画質で撮影できます。

[■記録方式]が[XAVC S 4K]のとき

■記録設定	ビットレート	説明
30p 100M	約100 Mbps	3840×2160 (30p)で撮影する。
30p 60M	約60 Mbps	3840×2160 (30p)で撮影する。
24p 100M	約100 Mbps	3840×2160 (24p)で撮影する。
24p 60M	約60 Mbps	3840×2160 (24p)で撮影する。

[■記録方式]が[XAVC S HD]のとき

■記録設定	ビットレート	説明
60p 50M	約50 Mbps	1920×1080 (60p)で撮影する。
60p 25M	約25 Mbps	1920×1080 (60p)で撮影する。
30p 50M	約50 Mbps	1920×1080 (30p)で撮影する。
30p 16M	約16 Mbps	1920×1080 (30p)で撮影する。
24p 50M	約50 Mbps	1920×1080 (24p)で撮影する。
120p 100M	約100 Mbps	1920×1080 (120p)のハイスピード記録を行う。120 fpsの動画を記録できる。 • 対応する編集機器を使って、よりなめらかなスローモーション映像を作ることができます。
120p 60M	約60 Mbps	1920×1080 (120p)のハイスピード記録を行う。120 fpsの動画を記録できる。 • 対応する編集機器を使って、よりなめらかなスローモーション映像を作ることができます。

[記録方式] が [AVCHD] のとき

記録設定	ビットレート	説明
60i 24M (FX)	最大24 Mbps	1920×1080 (60i) で撮影する。
60i 17M (FH)	平均約17 Mbps	1920×1080 (60i) で撮影する。

ご注意

- ・ [記録設定] を [60i 24M (FX)] にして撮影した動画からAVCHD記録ディスクを作成すると、画質が変換されるため、ディスク作成に時間がかかります。画質を変換せずに保存したい場合は、ブルーレイディスクをお使いください。
- ・以下のとき、[120p] は選べません。
 - [おまかせオート]

S&Q スロー & クイック設定

肉眼では捉えられない一瞬を記録したり(スローモーション撮影)、長時間の現象を短い時間に短縮して記録したり(クイックモーション撮影)します。動きの激しいスポーツシーンや鳥が飛び立つ瞬間、花のつぼみの開花の様子、雲や星空が変化する様子などを記録できます。音声は記録されません。

1 モードダイヤルをS&Q (スロー & クイックモーション)にする。

**2 MENU → (撮影設定2) → [S&Q 露出モード] →
スロー & クイックモーションの希望の設定
(S&Q プログラムオート、S&Q 紋り優先、
S&Q シャッタースピード優先、またはS&Q マニュアル露出)を選ぶ。**

3 MENU → (撮影設定2) → [S&Q スロー & クイック設定] を選び、[S&Q 記録設定] と [S&Q フレームレート] を希望の設定にする。

S&Q 記録設定 : 記録する動画のフレームレートを選ぶ。

S&Q フレームレート : 動画撮影時のフレームレートを選ぶ。

4 MOVIE (動画)ボタンを押して、撮影を開始する。

- 撮影を終了するには、MOVIEボタンをもう一度押す。

再生速度について

[S&Q 記録設定]と[S&Q フレームレート]の設定によって、再生速度は以下のようになります。

S&Q フレームレート	S&Q 記録設定		
	24p	30p	60p
120fps	5倍スロー	4倍スロー	—
60fps	2.5倍スロー	2倍スロー	通常の再生速度
30fps	1.25倍スロー	通常の再生速度	2倍クイック
15fps	1.6倍クイック	2倍クイック	4倍クイック
8fps	3倍クイック	3.75倍クイック	7.5倍クイック
4fps	6倍クイック	7.5倍クイック	15倍クイック
2fps	12倍クイック	15倍クイック	30倍クイック
1fps	24倍クイック	30倍クイック	60倍クイック

- [S&Q フレームレート]が[120fps]のときは、[S&Q 記録設定]を[60p]に設定できません。

ご注意

- スローモーション撮影ではシャッター速度が速くなるため、充分な露出が得られない場合があります。その場合は、絞り値を小さく設定するか、ISO感度を手動で高く設定してください。
- 記録される動画のビットレートは、[S&Q フレームレート]と[S&Q 記録設定]の設定によって異なります。
- 記録される動画はXAVC S HDフォーマットになります。
- スロー & クイックモーション撮影時は以下の機能は使用できません。
 - [TC/UB設定]の[TC Run]
 - [HDMI設定]の[TC出力]
 - [4K映像の出力先]

音声記録

動画撮影時に音声を記録するかどうかを設定します。撮影中のレンズやカメラの動作音などが記録されるのを防ぎたい場合は[切]を選びます。

MENU →  (撮影設定2) → [音声記録] → 希望の設定を選ぶ。

入：撮影時に音声を記録する(ステレオ)。

切：撮影時に音声を記録しない。

録音レベル

レベルメーターを見ながら録音レベルを調整できます。

1 MENU →  (撮影設定2) → [録音レベル] を選ぶ。

2 コントロールホイールの左/右で希望のレベルを選ぶ。

+側：録音レベルが上がる。

-側：録音レベルが下がる。

リセット：録音レベルを初期値に戻す。

ヒント

- 大きな音の動画を録画する場合は、[録音レベル]を低めに設定すると臨場感のある音声が記録できます。小さな音の動画を録画する場合は、[録音レベル]を高めに設定することで聞きやすい音声で記録できます。

ご注意

- [録音レベル]の設定値にかかわらず、リミッターは常に作動しています。
- [録音レベル]は撮影モードが動画のときのみ選べます。
- スロー＆クイックモーション撮影時は[録音レベル]は選べません。
- [録音レベル]の調整は、内蔵マイクと (マイク)端子入力に対して有効です。

■ マーカー設定

■ マーカー表示

動画撮影時に、[マーカー設定]で設定したマーカーをモニターまたはファインダーに表示するかを設定します。

MENU → □2 (撮影設定2) → [マーカー表示] → 希望の設定を選ぶ。

入：マーカーを表示する。マーカーは記録されない。

切：マーカーを表示しない。

ご注意

- ・マーカー表示は、モードダイヤルが~~■~~ (動画)のとき、S&Qのとき、または動画記録中に表示されます。
- ・[ピント拡大]中は、マーカーを表示できません。
- ・マーカー表示は、モニターまたはファインダーのみに表示されます。(外部に出力することはできません。)

■ マーカー設定

動画撮影時に表示されるマーカーを設定します。

MENU → □2 (撮影設定2) → [マーカー設定] → 希望の設定を選ぶ。

センター：撮影画面の中心にセンターマーカーを表示するかどうかを設定する。

[切] / [入]

アスペクト：アスペクトマーカー表示の設定をする。

[切] / [4 : 3] / [13 : 9] / [14 : 9] / [15 : 9] / [1.66 : 1] / [1.85 : 1] /
[2.35 : 1]

セーフティゾーン：セーフティゾーン表示の設定をする。一般的な家庭用テレビで受像できる範囲の目安になる。

[切] / [80%] / [90%]

ガイドフレーム：ガイドフレームを表示するかどうかを設定する。被写体が水平/垂直になっているかを確認できる。

[切] / [入]

ヒント

- 複数のマーカーを同時に表示できます。
- [ガイドフレーム]の交点に被写体を置くと、バランスの良い構図になります。

■ 4K映像の出力先

本機を4K対応の外部録画再生機器などと接続するときに、どのように記録、HDMI出力するかを設定します。

1 モードダイヤルを■(動画)にする。

2 本機と接続したい機器をHDMIケーブルで接続する。

3 MENU → ■(セットアップ) → [■ 4K映像の出力先] → 希望の設定を選ぶ。

メモリーカード+HDMI:本機のメモリーカードに記録し、外部録画再生機器にも同時に出力する。

HDMIのみ(30p):本機のメモリーカードには記録せず、外部録画再生機器に4K動画を30pで出力する。

HDMIのみ(24p):本機のメモリーカードには記録せず、外部録画再生機器に4K動画を24pで出力する。

ご注意

- 動画撮影モードで、4K対応機器に接続中のみメニュー設定が可能です。
- [HDMIのみ(30p)]または[HDMIのみ(24p)]に設定したときは、[HDMI情報表示]は一時的に[なし]になります。
- スロー＆クイックモーション撮影時は4K対応機器に接続しても4K映像は出力されません。
- [HDMIのみ(30p)]または[HDMIのみ(24p)]に設定すると、外部録画再生機器に記録中は本機のカウンター（動画の撮影実時間）は進みません。
- [■ 記録方式]が[XAVC S 4K]でHDMI接続しているときは、下記の機能は使用できません。
 - [AF時の顔優先]
 - [マルチ測光時の顔優先]
 - [中央ボタン押しロックオンAF]

プロキシー記録

XAVC S動画を記録するとき、低ビットレートのプロキシー動画を同時に記録するかどうかを設定します。

プロキシー動画はファイルサイズが小さいため、スマートフォンへの転送やWebサイトへのアップロードに適しています。

MENU →  (撮影設定2) → [ プロキシー記録] → 希望の設定を選ぶ。

入：プロキシー動画を同時に記録する。

切：プロキシー動画を同時に記録しない。

ヒント

- プロキシー動画は、XAVC S HDフォーマット(1280×720) 9Mbpsで記録されます。プロキシー動画のフレームレートはオリジナル動画と同じになります。
- 再生画面(1枚再生画面または一覧表示画面)には、プロキシー動画は表示されません。プロキシー動画が同時に記録された動画には、 が表示されます。

ご注意

- プロキシー動画は本機では再生できません。
- 下記の場合はプロキシー記録はできません。
 -  記録方式]が[AVCHD]のとき
 -  記録方式]が[XAVC S HD]で、 記録設定]が[120p]のとき
- プロキシー動画がある動画を削除/プロテクトすると、オリジナル動画とプロキシー動画の両方が削除/プロテクトされます。オリジナル動画だけ、またはプロキシー動画だけを削除/プロテクトすることはできません。
- 使用できるメモリーカードについては、233ページをご覧ください。

画像を見る

静止画を再生する

撮影した静止画を再生します。

1 □(再生)ボタンを押して、再生モードにする。

2 コントロールホイールで画像を選ぶ。

- 連続撮影した画像は1つのグループとして表示されています。グループ内の画像を再生する場合は、コントロールホイールの中央を押してください。
-

ヒント

- 本機はメモリーカードに管理ファイルを作成して、画像を記録し再生します。管理ファイルに未登録の画像は正しく表示されないことがあります。他機で撮影した画像を見るときは、MENU →  (セットアップ) → [管理ファイル修復]で管理ファイルに画像を登録してください。
- 連続撮影後に画像をすぐに再生すると、モニターにデータ書き込み中/書き込み残り枚数を示すアイコンが表示されることがあります(212ページ)。書き込み中は、一部の機能を使用できません。
- モニターをダブルタップすると、画像を拡大できます。また、拡大位置はモニターをドラッグして動かすこともできます。あらかじめ、[タッチ操作]を[入]に設定してください。

再生画像を拡大する(⊕拡大)

再生した画像を拡大します。写真のピントの具合を確認したいときなどに使います。

1 拡大したい画像を表示して、ボタンを押す。

- コントロールホイールを回して倍率を調整してください。前/後ダイヤルを回すと、同じ拡大倍率のまま、前後の画像に切り替えられます。
- 画像は、撮影時にピントを合わせた位置を中心に拡大されます。ピントの位置情報が得られない場合、画像の中心が拡大されます。

2 コントロールホイールの上/下/左/右で表示する場所を移動する。

3 MENUボタンまたは、コントロールホイールの中央を押して、拡大再生を終了する。

ヒント

- メニューから再生ズームを行うこともできます。
- MENU →  (再生) → [⊕拡大の初期倍率] または [⊕拡大の初期位置] で、拡大初期倍率や拡大初期位置を変更できます。
- モニターをダブルタップしても、画像を拡大できます。また、拡大位置はモニターをドラッグして動かすこともできます。あらかじめ、[タッチ操作]を [入] に設定してください。

ご注意

- 動画は拡大できません。

記録画像を自動的に回転させる(記録画像の回転表示)

画像を再生するときの向きを設定できます。

MENU → □ (再生) → [記録画像の回転表示] → 希望の設定を選ぶ。

オート：本機を回転させると、本機の縦横を判断し、再生している画像が自動で回転する。

マニュアル：縦位置で撮影した画像を縦向きに表示する。また回転機能で表示する向きを設定した場合はその向きに表示する。

切：記録画像を常に横向きに表示する。

再生

動画を再生する

撮影した動画を再生します。

1 □ (再生)ボタンを押して、再生モードにする。

2 コントロールホイールで再生したい動画を選び、中央を押して再生する。

■動画再生中にできること

コントロールホイールの下を押すと、スロー再生、音量調整などの操作を行えます。

操作パネル	できること
▶	再生
⏸	一時停止
▶▶	早送り
◀◀	早戻し
▶▶▶	スロー再生
◀◀▶	スロー逆再生
▶▶▶▶	次の動画
◀◀▶▶	前の動画

操作パネル	できること
▶▶▶▶▶	コマ送り
◀◀▶▶▶	コマ戻し
暂停	動画から静止画作成
▶▶▶▶▶▶	音量設定
□	操作パネルを閉じる

ヒント

- ・スロー再生、スロー逆再生、コマ送り、コマ戻しは、一時停止中に選ぶことができます。
- ・本機以外で撮影された動画ファイルは再生できない場合があります。

動画から静止画作成

動画から希望のシーンを切り出して、静止画として保存します。はじめに動画で撮影し、動画再生中に一時停止して、静止画では撮影できない決定的な瞬間を切り出して静止画として保存します。

- 1 静止画を切り出したい動画を表示する。
- 2 MENU → □ (再生) → [動画から静止画作成] を選ぶ。
- 3 動画を再生し、一時停止する。
- 4 スロー再生、スロー逆再生、コマ送り、コマ戻しを使って、希望のシーンで停止する。

5 (動画から静止画作成) を押して、希望のシーンを静止画として切り出す。

静止画として保存される。

一覧表示で再生する(一覧表示)

再生時、複数の画像を同時に表示できます。

1 画像を再生中に、 (一覧表示) ボタンを押す。

2 コントロールホイールの上/下/左/右を押したり、コントロールホイールを回したりして、画像を選ぶ。

■表示する枚数を変更する場合

MENU →  (再生) → [一覧表示] → 希望の設定を選ぶ。

9枚/25枚

■1枚再生画面に戻すには

表示したい画像を選んでいる状態で、コントロールホイールの中央を押す。

■希望の画像をすばやく表示するには

コントロールホイールで左側のバーを選び、コントロールホイールの上/下でページを送ることができます。バーを選んでいる状態で、中央を押すと、カレンダー画面、またはフォルダー選択画面が表示されます。アイコンを選んでビューモードを切り換えることもできます。

静止画と動画を切り換える(ビューモード)

再生する画像の表示方法(ビューモード)を設定します。

MENU → □ (再生) → [ビューモード] → 希望の設定を選ぶ。

■ **日付ビュー**：日付ごとに表示する。

■ **フォルダービュー(静止画)**：静止画のみを表示する。

■ **AVCHD AVCHDビュー**：AVCHD動画のみを表示する。

■ **XAVC S HD XAVC S HDビュー**：XAVC S HD動画のみを表示する。

■ **XAVC S 4K XAVC S 4Kビュー**：XAVC S 4K動画のみを表示する。

再生するメモリーカードを選択(再生メディア選択)

再生するメモリーカードのスロットを選びます。

MENU → □ (再生) → [再生メディア選択] → 希望のスロットを選ぶ。

スロット1：スロット1のメディアを選択する。

スロット2：スロット2のメディアを選択する。

ご注意

- 選択しているスロットにメモリーカードが入っていない場合、何も再生されません。
メモリーカードが入っているスロットを選択してください。
- [ビューモード]で[日付ビュー]を選んでいる場合でも、[再生メディア選択]で選択しているメディアからのみ再生します。

メモリーカード間で画像をコピーする(コピー)

[再生メディア選択]で選ばれているメモリーカードから、もう一方のスロットに入っているメモリーカードに画像をコピーできます。

MENU → ▶ (再生) → [コピー]を選ぶ。

再生中の日付またはフォルダー内のすべてのコンテンツが、もう一方のスロットのメディアへコピーされます。

ヒント

- MENU → ▶ (再生) → [ビューモード]で、表示する画像の種類を選ぶことができます。

ご注意

- 連写グループ表示された画像をコピーすると、コピー先ではグループ表示ができないになります。
- プロテクトした画像をコピーすると、コピー先ではプロテクトが解除されます。
- 画像が多いとコピーに時間がかかる場合があります。充分に充電したバッテリーをお使いください。
- XAVC S動画は対応したメモリーカードにのみコピーできます。コピーできない場合、カメラの画面にメッセージが表示されます。

スライドショーで再生する(スライドショー)

画像を自動的に連続再生します。

1 MENU → □ (再生) → [スライドショー] → 希望の設定を選ぶ。

リピート：繰り返し再生する([入])か、すべての画像を再生したら停止する([切])か選ぶ。

間隔設定：画像が切り替わる間隔を、[1秒] / [3秒] / [5秒] / [10秒] / [30秒]から選ぶ。

2 [実行]を選ぶ。

途中で終了するには

MENUボタンを押して終了します。一時停止はできません。

ヒント

- スライドショー再生中に、コントロールホイールの左/右で、画像を戻す/送ることができます。
- [スライドショー]が実行できるのは、[ビューモード]が[日付ビュー]と[フォルダービュー(静止画)]のときのみです。

プロジェクト(保護)する

撮影した画像を誤って消さないように保護(プロジェクト)します。プロジェクトされた画像には○マークが表示されます。

MENU → □ (再生) → [プロジェクト] → 希望の設定を選ぶ。

画像選択：画像を何枚か選んでプロジェクトする。

このフォルダーの全画像：選択しているフォルダー内すべての画像をまとめてプロジェクトする。

この日付の全画像：選択している日付内すべての画像をまとめてプロジェクトする。

このフォルダーを全て解除：選択しているフォルダー内すべての画像のプロジェクトをまとめて解除する。

この日付を全て解除：選択している日付内すべての画像のプロジェクトをまとめて解除する。

この連写の全画像：選択している連写グループ内すべての画像をまとめてプロジェクトする。

この連写画像全て解除：選択している連写グループ内すべての画像のプロジェクトをまとめて解除する。

ヒント

- お買い上げ時の設定では、C3ボタンに[プロジェクト]が割り当てられています。
- [画像選択]で連写グループを選ぶと、グループ内のすべての画像がプロジェクトされます。グループ内の任意の画像を選んでプロジェクトしたい場合は、グループ内の画像を表示させた状態で[画像選択]を実行してください。

ご注意

- [ビューモード]の設定や選択しているコンテンツによって、選べる項目が異なります。

■ 画像選択

- ① 画像を選び、コントロールホイールの中央を押す。チェックボックスに△マークが付く。解除したいときはもう一度中央を押して△マークを消す。
- ② ほかの画像もプロジェクトするときは、手順①を繰り返す。
- ③ MENU → [確認] を選ぶ。

レーティング(ランク分け)を設定する

レーティング

撮影した画像に★～★★でレーティング(ランク分け)を設定することで、画像を探しやすくなります。

1 MENU → □(再生) → [レーティング] を選ぶ。

レーティング画像選択画面が表示される。

2 コントロールホイールの左/右でレーティングを設定したい画像を表示させ、中央を押す。

3 コントロールホイールの左/右で★(レーティング)の数を選び、中央を押す。

4 コントロールホイールの中央を押して、レーティング設定画面を終了する。

ヒント

- カスタムキーを使って、画像の再生時にレーティングを設定することもできます。あらかじめ、[▶ カスタムキー] で希望のキーに [レーティング] を割り当てておき、レーティングを設定したい画像の再生中にキーを押してください。キーを押すたびに★(レーティング) の数が切り替わります。

ご注意

- レーティングを設定できるのは静止画のみです。

■ レーティング設定(カスタムキー)

【▶ カスタムキー】で[レーティング]を割り当てたキーを使ってレーティングを設定するときに選べる★の数を設定できます。

MENU → □ (再生) → [レーティング設定(カスタムキー)] → 有効にしたい★の数に▽マークを付ける。

▽マークを付けた値が、カスタムキーを使用して[レーティング]を設定するときに選択できるようになる。

画像を削除する

表示中の画像を削除する

表示されている画像を削除します。一度削除した画像は、元に戻せません。削除してよいか、事前に確認してください。

1 削除したい画像を表示する。

2 □(削除)ボタンを押す。

3 コントロールホイールで【削除】を選ぶ。

ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。

不要な画像を選んで削除する(削除)

不要な画像を選んで削除できます。一度削除した画像は、元に戻せません。削除してよいか、事前に確認してください。

MENU → □(再生) → [削除] → 希望の設定を選ぶ。

画像選択：画像を何枚か選んで削除する。

このフォルダーの全画像：選択しているフォルダー内すべての画像をまとめて削除する。

この日付の全画像：選択している日付内すべての画像をまとめて削除する。

この画像以外の全画像：連写グループ内の、選択している画像をのぞくすべての画像をまとめて削除する。

この連写の全画像：選択している連写グループ内すべての画像をまとめて削除する。

ヒント

- プロテクトしてある画像も含めて、すべてのデータを消去するには[フォーマット]を行ってください。
- 希望のフォルダーまたは日付を表示するには、再生時に下記の手順で希望のフォルダーまたは日付を選びます。
 (一覧表示)ボタン → コントロールホイールで左側のバーを選ぶ → コントロールホイールの上/下で希望のフォルダーまたは日付を選ぶ。
- [画像選択]で連写グループを選ぶと、グループ内のすべての画像が削除されます。グループ内の任意の画像を選んで削除したい場合は、グループ内の画像を表示させた状態で[画像選択]を実行してください。

ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。
- [ビューモード]の設定や選択しているコンテンツによって、選べる項目が異なります。

再生

■ 画像選択

- ① 削除したい画像を選び、コントロールホイールの中央を押す。
チェックボックスに△マークが付く。解除したいときはもう一度中央を押して△マークを消す。
- ② ほかの画像も削除するときは、手順①を繰り返す。
- ③ MENU → [確認] を選ぶ。

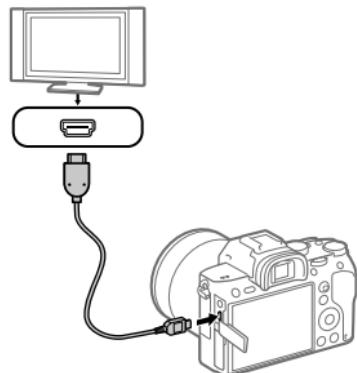
テレビで見る

HDMIケーブルを使ってテレビで見る

本機の画像をテレビで見るには、HDMIケーブル(別売)とHDMI端子のあるハイビジョンテレビが必要です。

1 本機とテレビの電源を切る。

**2 本機のHDMIマイクロ端子と
テレビのHDMI端子をHDMI
ケーブル(別売)で接続する。**



3 テレビの電源を入れ、入力切り換えをする。

4 本機の電源を入れる。

撮影した画像がテレビに表示されます。

5 コントロールホイールの左/右で画像を選ぶ。

- 再生画面では本機のモニターは点灯しません。
- 再生画面になっていないときは、▶(再生)ボタンを押してください。

■ ブラビアリンク

ブラビアリンク(リンクメニュー対応)のテレビをご利用の場合、HDMIケーブル(別売)で接続すると、テレビに付属のリモコンで再生操作ができます。

① 上記の手順で本機とテレビを接続し、MENU →  (セットアップ) → [HDMI設定] → [HDMI機器制御] → [入]を選ぶ。

② テレビのリモコンのリンクメニューボタンを押し、好みのモードを選ぶ。

- HDMIケーブルで本機とテレビを接続する場合、操作できる項目が制限されます。
- 2008年以降に発売されたブラビアリンク対応テレビで使用できます。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 他社のテレビとHDMI接続する際、テレビのリモコン操作でカメラが不要な動きをする場合は、MENU →  (セットアップ) → [HDMI設定] → [HDMI機器制御]を[切]にしてください。

ヒント

- 本機はブラビア プレミアムフォトに対応しています。ブラビア プレミアムフォトに対応したソニー製テレビにHDMIケーブル(別売)で接続すると、写真を今までになかった感動の高画質で快適にお楽しみいただけます。
- ブラビア プレミアムフォト対応のUSB端子つきソニー製テレビでは、付属のUSBケーブルでも接続できます。
- ブラビア プレミアムフォトとは、写真らしい高精細で微妙な質感や色合いの表現を可能にする機能です。
- 詳しくは、対応テレビの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機と接続機器の出力端子同士での接続はしないでください。故障の原因となります。
- 一部の機器では、映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。
- HDMIロゴの付いたもの、またはソニー製のケーブルを推奨します。
- 本機側はHDMIマイクロ端子、テレビ側はテレビの端子に合ったタイプのHDMIケーブルをお使いください。
- [REC TC出力]が[入]のときに、テレビや録画機器に正常に映像が出力されない場合があります。その場合は、[REC TC出力]を[切]にしてください(177ページ)。
- テレビに正しく画面が表示されない場合は、MENU →  (セットアップ) → [HDMI設定] → [HDMI解像度]を接続するテレビに合わせて、[2160p/1080p]、[1080p]または[1080i]にしてください。
- HDMI出力中に4K動画とハイビジョン画質(HD)の動画を切り換えたり、異なるフレームレートの動画に切り換えたりすると、一時的に画面が暗くなることがあります、故障ではありません。
- [REC 記録方式]を[XAVC S 4K]に設定し、本機をHDMI機器に接続しながら動画を撮影すると、モニターには画像が表示されません。

よく使う設定を登録する

MR 1/2の登録

よく使うモードやカメラの設定を、本機に3つまで、メモリーカードには4つ(M1～M4)まで登録でき、モードダイヤルで簡単に呼び出せます。

1 本機を登録したい設定にする。

2 MENU → 1(撮影設定1) → [MR 1/2の登録] → 登録先の番号を選ぶ。

3 コントロールホイールの中央で決定する。

登録できる項目

- 撮影に関する様々な機能を登録できます。実際の登録可能な項目は、本機のメニューで確認してください。
- 絞り(F値)
- シャッタースピード

登録した内容を変更するには

希望する設定に変更し、同じ番号に再登録してください。

ご注意

- M1～M4は本機にメモリーカードが挿入されている場合のみ選択できます。
- メモリーカードに登録する場合、「[MR]メディア選択」で選択されているメモリーカードスロットのメモリーカードに登録されます。
- プログラムシフトは登録できません(86ページ)。

カスタム撮影設定登録

撮影時の設定(露出、フォーカス設定、ライブモードなど)をあらかじめカスタムキーに登録しておき、キーを押している間だけ一時的に呼び出して使うことができます。カスタムキーを押すだけで瞬時に設定を切り替えられ、キーを離すと元の設定値に戻るため、状況が変化しやすいスポーツシーンなどの撮影に便利です。

-
- 1 MENU →  [撮影設定1] → [カスタム撮影設定登録] →
[押す間カスタム設定呼出1] ~ [押す間カスタム設定呼出3] から
登録先の番号を選ぶ。

選択した番号の設定画面が表示される。

-
- 2 コントロールホイールの上/下/左/右で
[押す間カスタム設定呼出1] ~ [押す間カスタム設定呼出3] で
呼び出したい機能のチェックボックスを選び、中央を押す。

機能のチェックボックスに  マークがつく。
• 解除したい場合は、もう一度中央を押します。

-
- 3 コントロールホイールの上/下/左/右で設定したい機能を選
び、中央を押して各機能を希望の設定にする。
- [現在の設定を取り込む] を選ぶと、現在のカメラの設定を、指定した
[押す間カスタム設定呼出1] ~ [押す間カスタム設定呼出3] の番号に取り
込むことができます。

-
- 4 [登録] を選ぶ。

登録できる項目

- 撮影に関する様々な機能を登録できます。実際の登録可能な項目は、本機のメニューで確認してください。
- 露出
- フォーカス設定
- ライブモード(セルフタイマー以外)

■登録した設定を呼び出すには

- ① MENU →  → [カスタムキー] → 希望のキーを選び、[押す間カスタム設定呼出1]～[押す間カスタム設定呼出3]の番号を選ぶ。
- ② 撮影画面で[押す間カスタム設定呼出1]～[押す間カスタム設定呼出3]の機能を割り当てたボタンを押しながら、シャッターボタンを押して撮影する。

カスタムキーを押している間、登録した撮影設定が呼び出される。

ヒント

- [カスタムキー]でカスタムキーに[押す間カスタム設定呼出1]～[押す間カスタム設定呼出3]を割り当てたあと、「カスタム撮影設定登録」の設定を変更することもできます。

ご注意

- [押す間カスタム設定呼出1]～[押す間カスタム設定呼出3]は、撮影モードがP/A/S/Mのときのみ有効です。
- [押す間カスタム設定呼出1]～[押す間カスタム設定呼出3]の実行時に装着しているレンズやカメラの状態によっては、登録した設定にならない場合があります。

ボタンにお好みの機能を割り当てる

▣ カスタムキー / ■ カスタムキー / □ カスタムキー

希望のボタンにお好みの機能を割り当てることができます。

また、カスタムキーでのみ使える機能もあります。たとえば、

[▣ カスタムキー]で[中央ボタン]に[瞳AF]を割り当てておくと、撮影時にコントロールホイールの中央を押すだけで[瞳AF]機能を呼び出すことができて便利です。

1 MENU → □2 (撮影設定2) → [▣ カスタムキー]、

[■ カスタムキー]または[□ カスタムキー]を選ぶ。

▣ カスタムキー：静止画撮影時のカスタムキーの機能を設定する。

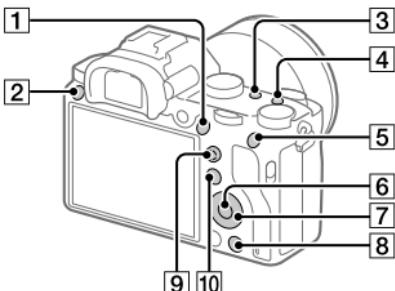
■ カスタムキー：動画撮影時のカスタムキーの機能を設定する。静止画撮影時とは別の機能を設定することができる。

□ カスタムキー：再生時のカスタムキーの機能を設定する。

2 選択画面で機能を割り当てるボタンを選び、コントロールホイールの中央を押す。

- ・[▣ カスタムキー]、[■ カスタムキー]または[□ カスタムキー]で機能を割り当てられるボタンが異なります。
- ・以下のボタンに希望の機能を割り当てられます。

- ① AF-ONボタン
- ② カスタムボタン3
- ③ カスタムボタン2
- ④ カスタムボタン1
- ⑤ AELボタン
- ⑥ 中央ボタン
- ⑦ コントロールホイール / 下ボタン / 左ボタン / 右ボタン
- ⑧ カスタムボタン4
- ⑨ マルチセレクターの中央ボタン
- ⑩ Fn/□ボタン



- レンズのフォーカスホールドボタンにも撮影時の機能を割り当てることができます。ただし、お使いのレンズによっては、フォーカスホールドボタンがない場合があります。

3 割り当たい機能を選ぶ。

- ボタンによって割り当てる機能が異なります。

ファンクションメニュー設定

Fn (ファンクション)ボタンを押したときに設定できる機能を選びます。

**MENU →  (撮影設定2) → [ファンクションメニュー設定]
→ 希望の場所に機能を設定する。**

- 設定できる機能は、本機の設定項目選択画面でご確認ください。

MENUをカスタマイズする (マイメニュー)

項目の追加

MENUの★(マイメニュー)に、お好みのメニュー項目を登録することができます。

- 1 MENU → ★(マイメニュー) → [項目の追加]を選ぶ。
- 2 コントロールホイールの上/下/左/右で、★(マイメニュー)に追加したい項目を選ぶ。
- 3 コントロールホイールの上/下/左/右で、追加する位置を選ぶ。

ヒント

- ★(マイメニュー)には最大30個の項目を追加することができます。

ご注意

- ★(マイメニュー)には、以下の項目は追加できません。
 - MENU → ▶(再生)内のすべての項目
 - [テレビ鑑賞]

項目の並べ替え

MENUの★(マイメニュー)に登録したメニュー項目を並べ替えます。

- 1 MENU → ★(マイメニュー) → [項目の並べ替え]を選ぶ。
- 2 コントロールホイールの上/下/左/右で、並べ替えたい項目を選ぶ。

3 コントロールホイールの上/下/左/右で、並べ替え先を選ぶ。

項目の削除

MENUの★(マイメニュー)に登録したメニュー項目を削除します。

1 MENU → ★(マイメニュー) → [項目の削除] を選ぶ。

2 コントロールホイールの上/下/左/右で削除したい項目を選び、コントロールホイールの中央を押して削除する。

ヒント

- ページ内のすべての項目を一括で削除するには、MENU → ★(マイメニュー) → [ページの削除] を選びます。
- MENU → ★(マイメニュー) → [全て削除] を選ぶと、登録したすべてのマイメニュー設定が削除されます。

撮影前/撮影後に画像を確認する

オートレビュー

撮影直後に、撮影した画像を確認することができます。オートレビューの表示時間を設定します。

MENU →  (撮影設定2) → [オートレビュー] → 希望の設定を選ぶ。

10秒/5秒/2秒：設定した秒数だけ表示する。オートレビュー中に拡大操作をすると、撮影した画像を拡大再生して確認することができる。

切：オートレビューしない。

ご注意

- 画像処理をする機能を使用している場合、画像処理をする前の画像を一時的に表示してから、画像処理が適用された画像を表示することがあります。
- オートレビューは、DISP（画面表示切換）で設定したモードで表示されます（29ページ）。

絞りプレビュー

[絞りプレビュー]の機能を割り当てたキーを押している間、設定した絞り値まで絞り込まれ、撮影前にぼけ具合を確認できます。

1 MENU →  (撮影設定2) → [カスタムキー]より、希望のキーに[絞りプレビュー]の機能を設定する。

2 [絞りプレビュー]の機能を割り当てたキーを押して、画像を確認する。

ヒント

- プレビュー中に絞りを変更できますが、絞りを開放側に変更した場合は、フォーカスがずれる可能性がありますので、再度フォーカスを合わせ直すことをおすすめします。

撮影結果プレビュー

[撮影結果プレビュー]の機能を割り当てたキーを押している間、設定したDRO、シャッタースピード、絞り値、感度が反映され撮影前に撮影結果を確認できます。

- 1 MENU →  (撮影設定2) → [カスタムキー]より、希望のキーに[撮影結果プレビュー]の機能を設定する。
- 2 [撮影結果プレビュー]の機能を割り当てたキーを押して、画像を確認する。

ヒント

- [撮影結果プレビュー]では、DROの結果とシャッタースピードの値と絞りの値と感度がプレビューに反映されますが、撮影設定上、プレビューに反映できない場合もあります。その場合でも、撮影すると、撮影設定通り反映されます。

モニター / ファインダーの設定

FINDER/MONITOR

電子ビューファインダーとモニターの表示切り替え方法を設定します。

MENU → 2 (撮影設定2) → [FINDER/MONITOR] → 希望の設定を選ぶ。

オート：電子ビューファインダーをのぞくと、アイセンサーが働き、自動的に電子ビューファインダー画面に切り替わる。

ファインダー（マニュアル）：モニターは消灯し、電子ビューファインダーのみに画像を表示する。

モニター（マニュアル）：電子ビューファインダーは消灯し、常にモニターのみに画像を表示する。

ヒント

- ファインダー / モニター表示切り替え機能をお好みのキーに割り当てることができます。MENU → 2 (撮影設定2) → [カスタムキー]、[カスタムキー]または[カスタムキー] → 希望のキーに[FINDER/MONITOR切換]を設定してください。
- アイセンサーによる自動切り替えを無効にしたい場合は、[FINDER/MONITOR]を[ファインダー（マニュアル）]または[モニター（マニュアル）]に設定しておいてください。

ご注意

- モニターを引き出しているときは、[FINDER/MONITOR]が[オート]に設定されてもアイセンサーは接眼を検知しません。画像はモニターに表示されます。

▣ ファインダーフレームレート

静止画撮影時のファインダーのフレームレートを変更することで、被写体の動きをよりなめらかに表示することができます。動きの速い被写体を撮影するときに便利です。

MENU → □2 (撮影設定2) → [▣ ファインダーフレームレート]

→ 希望の設定を選ぶ。

- ・[▣ カスタムキー]で希望のキーにこの機能を割り当てることもできます。

高速：被写体の動きをよりなめらかにファインダーに表示する。

標準：被写体を通常のフレームレートでファインダーに表示する。

ご注意

- ・[▣ ファインダーフレームレート]を[高速]に設定すると、ファインダーの解像度が低くなります。
- ・[▣ ファインダーフレームレート]を[高速]に設定していても、撮影環境の温度や撮影状況によって、自動的に[標準]に切り替わることがあります。
- ・以下のときは、[▣ ファインダーフレームレート]は[標準]に固定されます。
 - 再生時
 - HDMI接続時
 - カメラ内部の温度が高くなっているとき

ライトモニタリング

周囲が暗い状況下での撮影で、構図合わせができるようにします。夜空などの暗い場所でも、露光時間を延ばすことにより、ビューファインダー / モニターで構図の確認ができます。

1 MENU →  (撮影設定2) → [カスタムキー] → 希望のキーに[ライトモニタリング]の機能を設定する。

2 [ライトモニタリング]の機能を割り当てたキーを押してから、撮影する。

- 撮影後も[ライトモニタリング]による明るさは継続します。
- 画面の明るさを通常に戻すときは、[ライトモニタリング]の機能を割り当てたキーをもう一度押します。

ご注意

- [ライトモニタリング]実行中は、[ライブビュー表示]は自動的に[設定効果反映Off]となり、ライブビュー表示には露出補正などの設定値は反映されません。暗い場所でのみのご使用をおすすめします。
- 以下のとき、[ライトモニタリング]は自動的に解除されます。
 - 本機の電源を切ったとき
 - 撮影モードを、P/A/S/MからP/A/S/M以外に変更したとき
 - マニュアルフォーカス以外に設定したとき
 - [MFアシスト]を実行したとき
 - [ピント拡大]を実行したとき
 - [フォーカスセット]を実行したとき
- [ライトモニタリング]実行中は、暗い場所でシャッタースピードが通常よりも低速になることがあります。また、測光される明るさの範囲が拡大するため、露出が変化することがあります。

メモリーカードの設定

フォーマット

メモリーカードの動作を安定させるために、メモリーカードを本機ではじめてお使いになる場合には、まず、本機でフォーマット(初期化)することをおすすめします。フォーマットすると、メモリーカードに記録されているすべてのデータは消去され、元に戻すことはできません。大切なデータはパソコンなどに保存しておいてください。

MENU →  (セットアップ) → [フォーマット] → 希望のメモリーカードスロットを選ぶ。

ご注意

- フォーマットすると、プロテクトしてある画像や登録情報(M1~M4)(157ページ)も含めて、すべてのデータが消去され、元に戻せません。
- フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はメモリーカードを抜かないでください。
- メモリーカードのフォーマットは、本機で行ってください。パソコンでメモリーカードのフォーマットを行うと、フォーマットの形式によってはメモリーカードが使えなくなることがあります。
- メモリーカードによっては、フォーマットに数分かかる場合があります。
- バッテリー残量が1%未満のときは、フォーマットできません。

ファイル番号

静止画のファイル番号の付けかたを設定します。

MENU →  (セットアップ) → [ファイル番号] → 希望の設定を選ぶ。

連番：ファイル番号をリセットせず、9999まで続けてファイル番号を付ける。

リセット：フォルダーごとにファイル番号を0001から付ける。

(記録フォルダー内にファイルがある場合は、既存の最大番号+1のファイル番号を付ける。)

ヒント

- ・[ファイル番号]の設定はスロット1/スロット2の両方に適用されます。
- ・[ファイル番号]を[連番]に設定していると、[優先記録メディア]の設定を変更しても、スロット間をまたいで連続したファイル番号が割り振られます。

ファイル名設定

撮影する静止画のファイル名の先頭3文字を変更します。

1 MENU →  (セットアップ) → [ファイル名設定]を選ぶ。

2 ファイル名の入力欄を選択すると、画面にキーボードが表示されるので、希望の3文字を入力する。

・[ファイル名設定]の設定はスロット1/スロット2の両方に適用されます。

ご注意

- ・入力できるのは、大文字のアルファベット、数字、アンダーバーのみです。ただし、1文字目にアンダーバーは使用できません。
- ・[ファイル名設定]で設定したファイル名3文字は、設定後に撮影した画像にのみ適用されます。

記録メディア設定

■優先記録メディア

記録するメモリーカードのスロットを選びます。

お買い上げ時は[スロット1]に設定されています。設定を変えずに1枚だけ使用する場合は、スロット1を使用してください。

MENU →  (セットアップ) → [記録メディア設定] → [優先記録メディア] → 希望の設定を選ぶ。

スロット1：スロット1のメディアを選択する。

スロット2：スロット2のメディアを選択する。

ヒント

- 同じ画像を同時に2つのメモリーカードに記録したり、静止画/動画の種類によって記録先を変えたい場合は、[記録モード]で設定できます。

ご注意

- スロット2はメモリースティック PRO デュオとSDカードのどちらでも使用でき、スロット1はSDカードのみ使用できます。

■記録モード

2つのメモリーカードに、同時記録や振り分け記録などの記録方法を設定することができます。

MENU →  (セットアップ) → [記録メディア設定] → [記録モード] → 希望の設定を選ぶ。

標準：[優先記録メディア]で選択されているメモリーカードスロットに入っているメモリーカードに画像を記録します。

同時記録(両のみ)：静止画は両方のメモリーカードに、動画は [優先記録メディア]で選択されているメモリーカードスロットに入っているメモリーカードにのみ記録します。

同時記録(左/右)：静止画は[優先記録メディア]で選択されているメモリーカードスロットに入っているメモリーカードにのみ、動画は両方のメモリーカードに記録します。

同時記録(両/左)：静止画、動画ともに両方のメモリーカードに記録します。

振り分け(RAW/JPEG)：RAW形式の画像は[優先記録メディア]で選択されているメモリーカードスロットに入っているメモリーカードに、JPEG形式の画像はもう一方のメモリーカードに記録します。動画は[優先記録メディア]で選択されているメモリーカードスロットに入っているメモリーカードに記録します。

振り分け(JPEG/RAW)：JPEG形式の画像は[優先記録メディア]で選択されているメモリーカードスロットに入っているメモリーカードに、RAW形式の画像はもう一方のメモリーカードに記録します。動画は[優先記録メディア]で選択されているメモリーカードスロットに入っているメモリーカードに記録します。

振り分け(両/左)：[優先記録メディア]で選択されているメモリーカードスロットに入っているメモリーカードに静止画を、もう一方のメモリーカードに動画を記録します。

記録フォルダー選択

[フォルダー形式]が[標準形式]に設定されていてフォルダーが2つ以上存在する場合、撮影した画像を保存するフォルダー（記録フォルダー）を選べます。

MENU →  (セットアップ) → [記録フォルダー選択] → 希望のフォルダーを選ぶ。

ご注意

- [フォルダー形式]が[日付形式]に設定されているときは、記録フォルダーの選択はできません。
- [記録モード] (172ページ) が[標準]以外に設定されているときは、両方のメモリーカードの共通フォルダーしか選べないことがあります。共通フォルダーがない場合は、[フォルダー新規作成] (211ページ) で作成できます。

本体の設定

パワーセーブ開始時間

操作していないときにパワーセーブ(省電力)モードになるまでの時間を設定してバッテリーの消耗を防ぎます。シャッターボタン半押しなどの操作をすれば、撮影を再開できます。

MENU →  (セットアップ) → [パワーセーブ開始時間] → 希望の設定を選ぶ。

30分/5分/2分/1分/10秒

ご注意

- ・長時間使わないときは、電源を「OFF」にしてください。
- ・USB給電時、スライドショー中、動画撮影中、パソコンやテレビと接続しているなどは、パワーセーブ機能は働きません。

赤外線リモコン

ワイヤレスリモートコマンダー RMT-DSLR1 (別売)、RMT-DSLR2 (別売)のSHUTTERボタン、2SECボタン(2秒後にシャッターを切る)、START/STOPボタン(動画ボタン：RMT-DSLR2のみ)を使って撮影します。リモコンの取扱説明書もあわせてご覧ください。

MENU →  (セットアップ) → [赤外線リモコン] → 希望の設定を選ぶ。

入：リモコン操作を受け付ける。

切：リモコン操作を受け付けない。

ご注意

- レンズやフードがリモコン受光部をさえぎり、受光を妨げることがあります。受光部をさえぎらない位置から操作してください。
- [赤外線リモコン]が[入]になっているときは、パワーセーブ機能が働きません。リモコン使用後は[切]にしてください。

HDMI設定

HDMI解像度

本機とHDMI端子のあるハイビジョンテレビをHDMIケーブル(別売)で接続して見る場合に、HDMI端子からテレビに出力する解像度を選びます。

MENU →  (セットアップ) → [HDMI設定] → [HDMI解像度] → 希望の設定を選ぶ。

オート：本機がハイビジョンテレビを自動認識し、出力する解像度を決定する。

2160p/1080p：2160p/1080pで出力する。

1080p：HD画質(1080p)で出力する。

1080i：HD画質(1080i)で出力する。

ご注意

- [オート]で正しく画面が表示されない場合は、接続するテレビに合わせて、[1080i]、[1080p]または[2160p/1080p]を選んでください。

■ **24p/60p出力切換**

[記録設定]で[24p 50M]、[24p 60M]または[24p 100M]を選んでいるときにHDMIで1080/24p、1080/60pのどちらで出力するかを設定します。

① MENU → (セットアップ) → [HDMI設定] → [HDMI解像度] → [1080p]を選ぶ。

② MENU → (セットアップ) → [HDMI設定] → [24p/60p出力切換] → 希望の設定を選ぶ。

60p : 60pで出力する。

24p : 24pで出力する。

ご注意

- 手順①、②は順不同で設定可能です。

■ HDMI情報表示

HDMIケーブル(別売)で本機とテレビを接続したとき、画像情報をテレビに表示するかどうかを切り替えます。

MENU → (セットアップ) → [HDMI設定] → [HDMI情報表示] → 希望の設定を選ぶ。

あり : テレビに画像情報が表示される。

テレビにはカメラ映像および画像情報が表示されるが、本体のモニターには何も表示されない。

なし : テレビに画像情報が表示されない。

テレビにはカメラ映像のみ表示され、本体のモニターにはカメラ映像および画像情報が表示される。

ご注意

- 4K対応テレビに接続時は、[なし]になります。
- [記録方式]を[XAVC S 4K]に設定し、本機をHDMI機器に接続しながら動画を撮影すると、モニターには画像が表示されません。

■ TC出力

HDMIを利用して、他の業務用機器にタイムコードを出力するかどうかを設定します。

タイムコード情報をHDMI出力信号に乗せます。画面に出す映像としてではなく、デジタルデータとして伝送し、接続先の機器がそのデータを参照することでタイムデータを知ることができます。

MENU →  (セットアップ) → [HDMI設定] → [TC出力] → 希望の設定を選ぶ。

入：タイムコード情報を他の機器に出力する。

切：タイムコード情報を他の機器に出力しない。

ご注意

- ・[TC出力]が[入]のときに、テレビや録画機器に正常に映像が出力されない場合があります。その場合は、[TC出力]を[切]にしてご使用ください。

■ レックコントロール

本機と外部録画再生機器をつなぐと、本機の操作で外部録画再生機器へ録画の開始/停止を行えます。

MENU →  (セットアップ) → [HDMI設定] → [レックコントロール] → 希望の設定を選ぶ。

入： STBY 外部録画再生機器へ記録指示を出せる状態

 REC 外部録画再生機器へ記録指示を出している状態

切：本機の操作で外部録画再生機器の録画開始/停止を行わない。

ご注意

- ・[レックコントロール]機能に対応している外部録画再生機器で使用できます。
- ・[レックコントロール]使用時は、撮影モードを (動画)にしてください。
- ・[TC出力]が[切]のときは、[レックコントロール]は設定できません。
- ・ RECが表示されている場合でも、外部録画再生機器の設定・状態により、外部録画再生機器が正しく動作しない場合がありますので、事前に動作確認をしてご使用ください。

■ HDMI機器制御

HDMIケーブル(別売)を使ってブラビアリンク対応テレビをつないだ場合に、テレビのリモコンをテレビに向けて、本機を操作できます。

- ① MENU →  (セットアップ) → [HDMI設定] → [HDMI機器制御] → 希望の設定を選ぶ。

入：テレビのリモコンで操作する。

切：テレビのリモコンで操作しない。

- ② ブラビアリンクに対応したテレビと本機を接続する。

テレビの入力が自動で切り替わり、本機の画像が表示される。

- ③ リモコンの「リンクメニュー」ボタンを押す。

- ④ リモコンのボタンで操作する。

ご注意

- HDMIケーブルで本機とテレビを接続する場合、操作できる項目が制限されます。
- 2008年以降に発売された「ブラビアリンク(リンクメニュー対応)」に対応したテレビで使用できます。また、リンクメニュー操作はお使いのテレビによって異なります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 他社のテレビとHDMI接続する場合、テレビのリモコン操作で本機が不要な動きをする場合は、MENU →  (セットアップ) → [HDMI設定] → [HDMI機器制御] を[切]にしてください。

USB給電

本機とパソコン、またはUSB機器を接続するとき、USB給電するかどうかを設定します。

MENU →  (セットアップ) → [USB給電] → 希望の設定を選ぶ。

入：パソコンなどとUSB接続したときに給電する。

切：パソコンなどとUSB接続したときに給電しない。ACアダプターをお使いの場合、[切]にしていても給電されます。

ご注意

- USB給電を行うには、バッテリーを本機に挿入してください。

PCリモート設定

■ 静止画の保存先

PCリモート撮影中にカメラ本体側にも静止画を保存するかどうか設定します。カメラから離れることなく、カメラ本体で画像を確認したい場合に便利です。

* PCリモートとは：専用ソフトウェア(195ページ)を使って、パソコンから撮影指示を出したり、撮影した画像をパソコン内に保存したりする機能。

MENU →  (セットアップ) → [PCリモート設定] → [静止画の保存先] → 希望の設定を選ぶ。

PCのみ：パソコンのみに静止画を保存する。

PC+カメラ本体：パソコンとカメラの両方に静止画を保存する。

ご注意

- PCリモート撮影中は、[静止画の保存先]の設定値変更はできません。撮影開始前に設定を行ってください。
- 記録できないメモリーカードをカメラに挿入しているときは、[PC+カメラ本体]を選んでも静止画を撮影できません。
- [PC+カメラ本体]選択時、カメラにメモリーカードが挿入されていない場合は、[メモリーカードなしリリーズ]が[許可]になっていてもシャッターは切れません。
- PCリモート撮影中は、[記録モード]が[標準]に固定され、変更することはできません。
- カメラ側で静止画を再生している間は、PCリモートによる撮影はできません。

■RAW+J時のPC保存画像

PCリモート撮影中に、パソコンに転送する画像ファイルを設定します。PCリモートで静止画を撮影したとき、パソコン側のアプリケーションは、撮影した画像の転送が終了するまで画像を表示しません。RAW+JPEG撮影を行うとき、RAWとJPEG両方をパソコンへ転送するのではなく、JPEGのみを転送することでパソコン側での表示スピードを上げることができます。

* PCリモートとは：専用ソフトウェア(195ページ)を使って、パソコンから撮影指示を出したり、撮影した画像をパソコン内に保存したりする機能。

MENU →  (セットアップ) → [PCリモート設定] → [RAW+J時のPC保存画像] → 希望の設定を選ぶ。

RAW+JPEG : RAWとJPEGをパソコンに転送する。

JPEGのみ : JPEGのみパソコンに転送する。

RAWのみ : RAWのみパソコンに転送する。

ご注意

- [RAW+J時のPC保存画像]は[ ファイル形式]の設定が[RAW+JPEG]のときのみ設定できます。
- PCリモート撮影中は、[記録モード]が[標準]に固定され、変更することはできません。

カメラを初期設定に戻す

設定リセット

お買い上げ時の設定に戻します。[設定リセット]を実行しても、画像は削除されません。

MENU →  (セットアップ) → [設定リセット] → 希望の設定を選ぶ。

撮影設定リセット：主な撮影モードの設定のみを初期値に戻す。

初期化：カメラのすべての設定を初期化する。

ご注意

- 設定リセット中はバッテリーを抜かないでください。
- [AF微調整]で設定した値は、[撮影設定リセット]、[初期化]のいずれを行った場合もリセットされません。
- [ピクチャープロファイル]で設定した値は、[撮影設定リセット]、[初期化]のいずれを行った場合もリセットされません。

ネットワーク機能を使う

Wi-Fi/NFCワンタッチ/Bluetooth機能を使う

本機のWi-Fi/NFCワンタッチ/Bluetooth機能を使って、以下のようなことができます。

- パソコンに画像を保存する
- スマートフォンに画像を転送する
- スマートフォンをカメラのリモコンとして使う
- テレビで静止画を鑑賞する
- スマートフォンの位置情報を画像に記録する
- FTPサーバーに画像を転送する

詳しい操作方法は、ヘルプガイド(3ページ)をご覧ください。

Imaging Edge Mobileをインストールする

本機とスマートフォンを接続するには、Imaging Edge Mobileが必要です。すでにインストール済みの場合は、最新版にアップデートしてください。

Imaging Edge Mobileの詳細は、Imaging Edge Mobileのサポートページ(<https://www.sony.net/iem/>)をご覧ください。



ご注意

- ・本機のNFCワンタッチ機能をご使用いただくには、NFCに対応したスマートフォンまたはタブレットが必要です。
- ・本書で説明しているWi-Fi機能について、すべてのスマートフォンまたはタブレットで動作を保証するものではありません。
- ・アプリケーションの操作方法や画面表示は、将来のバージョンアップにより予告なく変更することがあります。

FTPサーバーに画像を転送する

本機のWi-Fi機能を使って、撮影した画像をFTPサーバーに転送することができます。

詳しくは、FTPヘルプガイドをご覧ください。

https://rd1.sony.net/help/di/ftp/h_zz/



- ・FTPサーバーに関する基本的な知識が必要です。

カメラとスマートフォンを接続する

スマートフォンをリモコンとして使う

Imaging Edge Mobileを使うと、カメラの撮影範囲をスマートフォンの画面で確認しながら画像を撮影できます。

1 MENU →  (ネットワーク) → [スマートフォン操作設定] → [スマートフォン操作] → [入]を選ぶ。

2 本機とスマートフォンを、下記の手順で設定する。

NFC対応のスマートフォンでワンタッチ接続する場合

① スマートフォンのNFC機能を有効にする。

- iPhoneをお使いの場合は、Imaging Edge Mobileを起動し、[新しいカメラと接続する]から[カメラとワンタッチ接続する(NFC)]を選んでください。

② カメラを撮影画面にする。

③ カメラのマークとスマートフォンをタッチし続ける(1秒~2秒)。

- Androidをお使いの場合は、スマートフォンのマークまたはマークをタッチしてください。

ご注意

- NFCでうまく接続できない場合は、「QRコードを使ってWi-Fi接続する場合」の方法で接続してください。

■ QRコードを使ってWi-Fi接続する場合

- ① MENU →  (ネットワーク) →
[スマートフォン操作設定] →
[接続]を選び、カメラの画面上にQR
コードを表示させる。



- ② スマートフォンでImaging Edge Mobileを起動して、
[新しいカメラと接続する]を選ぶ。
- ③ スマートフォンの[カメラのQRコードで接続する]画面で、カメラ
に表示されているQRコードを読み取る。

ヒント

- QRコードを読み込むと、本機のSSID (DIRECT-xxxx) とパスワードがスマートフォンに登録され、2回目以降のWi-Fi接続時にSSIDを選ぶだけで本機とスマートフォンを接続できるようになります。

ご注意

- NFCやQRコードを使ってもスマートフォンと本機を接続できない場合は、SSIDとパスワードを使って接続してください。詳しい操作は、ヘルプガイドをご覧ください。

スマートフォンにカメラの画像を転送する

静止画やXAVC S動画をスマートフォンに転送できます。カメラのメモリーカードに保存されていない画像は、スマートフォンに転送できません。

1 スマートフォンに転送したい画像を本機で1枚再生する。

2 本機とスマートフォンを接続する。

本機の画像がスマートフォンに転送される。

- NFC対応のスマートフォンでワンタッチ接続する場合は、カメラのNマークとスマートフォンをタッチして接続できます(184ページ)。Androidをお使いの場合は、スマートフォンのNマークまたはAマークをタッチしてください。
- QRコードを使って接続する場合は、MENU → (ネットワーク) → [スマートフォン転送機能] → [スマートフォン転送]を選んでカメラの画面にQRコードを表示させて、スマートフォンのImaging Edge Mobileを使ってQRコードを読み取ってください。
- 転送された画像は、Androidのギャラリーまたはアルバム、iPhone/iPadのアルバムに保存されます。

ご注意

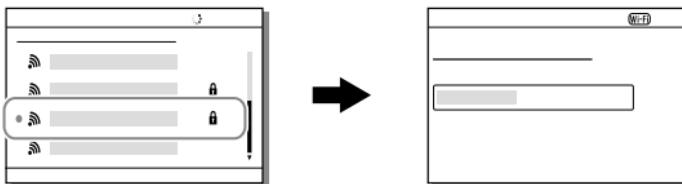
- QRコードを使って接続するときに、MENU → (ネットワーク) → [スマートフォン操作設定] → [□接続]を選んで表示されたQRコードを読み取ると、スマートフォンをカメラのリモコンとして使う機能が起動します(185ページ)。画像を転送したいときは、「[スマートフォン転送]を選んでQRコードを表示させてください。
- 転送できる静止画、動画の記録方式については、ヘルプガイド(3ページ)をご覧ください。

カメラを無線アクセスポイントに接続する

お使いの無線アクセスポイントに本機を接続します。お使いの無線アクセスポイントのSSID（アクセスポイントの名称）とパスワードをお手元に準備して操作してください。

1 MENU →  (ネットワーク) → [Wi-Fi設定] → [アクセスポイント手動登録] を選ぶ。

2 コントロールホイールの上/下で、接続したい無線アクセスポイントを選び、中央を押して無線アクセスポイントのパスワードを入力 → [OK] を選ぶ。



ご注意

- 接続できない場合は、無線アクセスポイントの説明書を参照いただくか、管理されている方にお問い合わせください。
パソコンに画像を保存する場合は、お使いのパソコンにPlayMemories Homeをインストールしてください。

PlayMemories Home

<https://www.sony.net/pm/>

画像に位置情報を記録する

Imaging Edge Mobileを使って、Bluetooth通信で接続しているスマートフォンから位置情報を取得して、画像撮影時に位置情報を記録します。

事前準備

カメラの位置情報連動機能を使用するためには、Imaging Edge Mobileが必要です。

Imaging Edge Mobileのトップ画面に「位置情報連動」が表示されていない場合は、下記の事前準備が必要となります。

1 お使いのスマートフォンにImaging Edge Mobileをインストールする。

- Imaging Edge Mobileは、お使いのスマートフォンのアプリケーションストアからインストールしてください。すでにインストール済みの場合は、最新版にアップデートしてください。

2 カメラの[スマートフォン転送]を使って、あらかじめ撮影した画像をスマートフォンに転送する。

- 詳しい操作は、ヘルプガイドをご覧ください。
- カメラで撮影した画像をスマートフォンに転送すると、Imaging Edge Mobileのトップ画面に「位置情報連動」が表示されるようになります。

実際の操作

□：スマートフォンでの操作

○：カメラでの操作

1 □：スマートフォンのBluetooth機能が有効になっていることを確認する。

- ・このとき、スマートフォンの設定画面ではBluetooth機能のペアリング操作を行わないでください。手順2～7で、カメラとImaging Edge Mobileを使ってペアリング操作を行います。
- ・手順1でペアリングを行ってしまった場合は、スマートフォンの設定画面でペアリングを一度解除し、カメラとImaging Edge Mobileを使ってペアリング操作を行ってください(手順2～7)。

2 ○：カメラで、MENU → (ネットワーク) → [Bluetooth設定] → [Bluetooth機能] → [入]を選ぶ。

3 ○：カメラで、MENU → (ネットワーク) → [Bluetooth設定] → [ペアリング]を選ぶ。

4 □：スマートフォンでImaging Edge Mobileを起動して、「位置情報連動」をタップする。

- ・「位置情報連動」が表示されていない場合は、事前準備を参照してください。

5 □：Imaging Edge Mobileの[位置情報連動]の設定画面で[位置情報連動]を有効にする。

6 □：Imaging Edge Mobileの[位置情報連動]の設定画面で指示に従って操作し、一覧からカメラを選ぶ。

7 : カメラの画面にメッセージが表示されるので、[確認]を選択する。

- カメラとImaging Edge Mobileのペアリングが完了します。

8 : カメラで、MENU → (ネットワーク) → [□ 位置情報運動設定] → [位置情報運動]を[入]にする。

- カメラに (位置情報取得アイコン)が表示され、スマートフォンがGPSなどで取得した位置情報が撮影時に記録されます。

■位置情報取得時のアイコンについて

 (位置情報取得) : 位置情報を取得できています。

 (位置情報取得無効) : 位置情報を取得できません。

 (Bluetooth接続中) : スマートフォンとBluetooth接続されています。

 (Bluetooth未接続) : スマートフォンとBluetooth接続されていません。

ヒント

- スマートフォンの画面がOFFの場合でも、Imaging Edge Mobileが起動していれば位置情報運動します。ただし、本機の電源がしばらく切れていた場合、電源を入れても位置情報がすぐには運動しないことがあります。このようなときは、スマートフォンでImaging Edge Mobileの画面を表示させるとすぐに位置情報が運動します。
- スマートフォンの再起動後などImaging Edge Mobileが動作していない場合は、Imaging Edge Mobileを起動すると位置情報運動が再開します。
- 位置情報運動機能が正しく動作しないときは以下に従い、再度ペアリング操作を行ってください。
 - スマートフォンのBluetooth機能が有効になっていることを確認する。
 - カメラが他の機器とBluetooth接続中でないことを確認する。
 - カメラの[飛行機モード]が[切]になっていることを確認する(206ページ)。
 - Imaging Edge Mobileに登録されているカメラのペアリング情報を削除する。
 - カメラの[ネットワーク設定リセット]を実行する。
- さらに詳しい説明は、以下のサポートページをご覧ください。
<https://www.sony.net/iem/btg/>

ご注意

- カメラを初期化するとペアリング情報も削除されます。再度ペアリングするには、 Imaging Edge Mobileに登録されているカメラのペアリング情報を削除してから、もう一度ペアリングしてください。
- Bluetooth接続が切断されたときなど位置情報が取得できない場合、位置情報が記録されないことがあります。
- カメラはBluetooth機器を15台までペアリングできますが、同時に位置情報連動できるスマートフォンは1台のみです。ほかのスマートフォンと位置情報連動をする場合は、連動中のスマートフォンのImaging Edge Mobileの[位置情報連動]をオフにしてください。
- Bluetooth通信が不安定な場合は、カメラとスマートフォンの間に人体や金属などの障害物がない状態で使用してください。
- カメラとスマートフォンのペアリングは、必ずImaging Edge Mobileの[位置情報連動]メニューから行ってください。
- 位置情報連動機能を使用する場合は、[Bluetoothリモコン]を[切]にしてください。
- 使用する環境によっては、Bluetooth機能とWi-Fi機能の通信距離が異なることがあります。

■対応するスマートフォン

最新の情報はサポートページでご確認ください。

<https://www.sony.net/iem/>

- お使いのスマートフォンが対応しているBluetooth規格のバージョンは、スマートフォンの製品サイトでご確認ください。

パソコンでできること

本機とパソコンを接続する

USB接続方法を設定する

USB接続の方法を接続するパソコンやUSB機器に合わせて設定します。

MENU →  (セットアップ) → [USB接続] → 希望の設定を選ぶ。

オート：接続するパソコンやその他USB機器に応じて、マスストレージとMTPを自動で切り換える。Windows 7、Windows 8.1またはWindows 10の場合にはMTPで接続され、特有の機能が使用できる。

マスストレージ：本機とパソコン、その他USB機器と接続するときに使う。

MTP：本機とパソコン、その他USB機器をMTP接続する。Windows 7、Windows 8.1またはWindows 10の場合にはMTPで接続され、特有の機能が使用できる。

- スロット1内のメモリーカードが対象になります。

PCリモート：専用ソフトウェア(195ページ)を使って、パソコンから撮影したり、撮影した画像をパソコン内に保存したりする。

ご注意

- [USB接続]を[オート]に設定しているときは、接続に時間がかかる場合があります。

パソコンと接続する

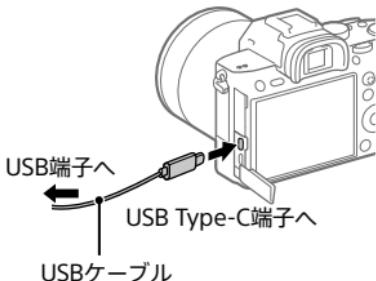
1 充分に充電したバッテリーを本機に入れる。

2 本機とパソコンの電源を入れる。

3  (セットアップ) の [USB接続] が [マストレージ] になっていることを確認する。

4 本機とパソコンをUSBケーブルで接続する。

- 初回接続時のみ、パソコンが本機を認識するための作業を自動的に行います。作業が終わるまでお待ちください。
- [USB給電] が [入] になっているとき、パソコンと本機をUSBケーブルでつなぐとパソコンから給電が始まります。(初期設定は [入] です。)
- USBケーブルは、付属のUSB Type-Cケーブル、またはUSB規格に準拠したケーブルをお使いください。
- USB3.1に対応したパソコンと付属のUSB Type-Cケーブルをお使いいただくことで、より高速な通信を行うことができます。



パソコンとの接続を切断する

以下の操作を行いたいときは、1～2の手順をあらかじめ行ってください。

- USBケーブルを抜く。
- メモリーカードを取り出す。
- 本機の電源を切る。

1 タスクトレイの (ハードウェアを取り外してメディアを取り出す) をクリックする。

2 表示されたメッセージをクリックする。

ご注意

- Mac使用時は、あらかじめメモリーカード、またはドライブのアイコンをゴミ箱にドラッグ＆ドロップしてください。パソコンとの接続が切断されます。
- Windows 7、Windows 8使用時は、切断アイコンが出ない場合があります。その場合は前記の手順を行わずに切断できます。
- アクセスランプが点灯しているときは、USBケーブルを抜かないでください。データが壊れことがあります。

パソコン用ソフトウェアの紹介

写真や動画をより楽しむために、以下のパソコン用ソフトウェアを提供しています。パソコンのインターネットブラウザで下記のURLにアクセスし、画面の指示に従ってダウンロードしてからご利用ください。すでにインストール済みの場合も、最新版にアップデートしてご利用ください。

パソコン用ソフトウェアについて詳しくは、以下のURLをご覧ください。
<https://www.sony.net/disoft/>

それぞれのソフトウェアの推奨パソコン環境は、以下のURLよりご確認いただけます。
<https://www.sony.net/pcenv/>

Imaging Edge Desktop

Imaging Edge Desktopは、パソコンからカメラを操作するリモート撮影や、カメラで撮影したRAW画像の調整・現像などの機能を含む、ソフトウェアシリーズです。

Imaging Edge Desktopについて詳しくは、以下のURLをご覧ください。
<https://www.sony.net/iex/>

PlayMemories Home

撮影した静止画、動画を、パソコンに取り込んで閲覧や活用ができます。XAVC S動画やAVCHD動画をパソコンに取り込む場合は、PlayMemories Homeが必要です。

以下のURLからダウンロードページに直接アクセスできます。

<https://www.sony.net/pm/>

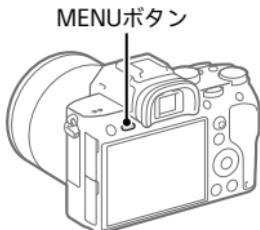
- 本機とパソコンを接続すると、PlayMemories Homeに機能が追加される場合があります。すでにPlayMemories Homeがインストールされている場合でも、本機とパソコンを一度接続することをおすすめします。

MENU一覧／画面表示一覧

MENUの使いかた

撮影、再生、操作方法など、カメラ全体に関する設定を変更したり、カメラの機能を実行します。

-
- 1 MENUボタンを押して、メニュー画面を表示する。



- 2 コントロールホイールの上/下/左/右を押す、またはコントロールホイールを回して設定したい項目を選び、中央を押す。



-
- 3 設定値を選択して、中央を押して決定する。

MENU一覧

各MENU項目についての詳細は、一番右の列に書かれているページまたはヘルプガイドをご覧ください。

1(撮影設定1)

赤色タブ

画質/画像サイズ		
ファイル形式	静止画のファイル形式を設定する。 ([RAW] / [JPEG]など)	81
RAW記録方式	RAW画像の記録方式を選択する。	ヘルプ ガイド
JPEG画質	[ファイル形式]で[RAW+JPEG]または[JPEG]を選んだときの、JPEG画像の画質を設定する。	81
JPEG画像サイズ	静止画のサイズを選択する。(L/M/S)	80
横縦比	静止画の横縦比を選択する。	81
APS-C/Super 35mm	静止画撮影時はAPS-Cサイズ相当、動画撮影時はSuper 35mm相当のサイズで記録するかどうかを設定する。	83
長秒時NR	シャッタースピードを1秒以上にした場合のノイズ軽減処理を設定する。	118
高感度NR	高感度撮影した場合のノイズ軽減処理を設定する。	119
色空間	再現できる色の範囲を変更する。	111
レンズ補正	レンズ補正の種類を選ぶ。	ヘルプ ガイド
撮影モード/ドライブ		
ドライブモード	連続撮影などの撮影方法を設定する。 ([セルフタイマー] / [連続ブラケット]など)	67

プラケット設定	プラケットモード時のセルフタイマー撮影や、露出プラケット/ホワイトバランスプラケットの撮影順序を設定する。	76
ピクセルシフトマルチ撮影	パソコンを使ってより高解像の画像を生成できるピクセルシフトマルチ撮影を行う。	120
[MR] 1/ 2の呼び出し	[MR] 1/ 2の登録] であらかじめ登録した設定を呼び出す。	91
[MR] 1/ 2の登録	好みのモード、カメラの設定を登録する。	157
[MB] メディア選択	M1～M4の設定の登録や呼び出しを行うメモリーカードのスロットを選ぶ。	ヘルプガイド
カスタム撮影設定登録	撮影時に呼び出したい機能をカスタムキーに登録する。	158
インターバル撮影機能	インターバル撮影の設定を行う。	ヘルプガイド
AF		
フォーカスマード	ピント合わせの方法を選ぶ。([シングルAF] / [コンティニュアスAF]など)	44
AF-S時の優先設定	[フォーカスマード]が[シングルAF]、[DMF]または[AF制御自動切り換え]で被写体が静止しているときに、シャッターが切れるタイミングを設定する。	ヘルプガイド
AF-C時の優先設定	[フォーカスマード]が[コンティニュアスAF]または[AF制御自動切り換え]で被写体が動いているときに、シャッターが切れるタイミングを設定する。	ヘルプガイド
フォーカスエリア	ピント合わせの位置を選ぶ。([ワイド] / [フレキシブルスポット]など)	46
フォーカスセット	前ダイヤル、後ダイヤル、コントロールホイールを使ってピント合わせを行う。	ヘルプガイド

 縦横フォーカスエリア切換	カメラのポジション(横位置/縦位置)ごとに、[フォーカスエリア]とフォーカス枠の位置を使い分けるかどうかを設定する。	50
 AF補助光	暗所でピントを合わせるための補助光を発光する。	59
中央ボタン押しロックON AF	撮影画面でコントロールホイールの中央を押したとき、被写体を追尾してピントを合わせ続ける機能を設定する。	56
顔/瞳AF設定	顔や瞳を優先してピントを合わせるかどうかなどを設定する。	52
 AF被写体追従感度	静止画撮影時、オートフォーカスの追従感度を選ぶことができる。	ヘルプガイド
 AFシステム	マウントアダプター LA-EA1、LA-EA3(別売)を装着時のオートフォーカス方式を設定する。	61
 シャッター半押しAF	シャッターボタンを半押ししたときに、オートフォーカスによるピント合わせを行なうかどうかを設定する。ピント合わせと露出決定を別々に行ないたいときに有効。	ヘルプガイド
 プリAF	シャッターボタンを半押しする前から、自動でオートフォーカスするかしないかを設定する。	ヘルプガイド
 アイスタートAF	マウントアダプター LA-EA2、LA-EA4(別売)を装着時、電子ビューファインダーをのぞくとオートフォーカスするかどうかを設定する。	ヘルプガイド
 フォーカスエリア登録機能	静止画撮影時に、フォーカス枠をあらかじめ登録した位置に一時的に移動させる機能を設定する。	58
 登録フォーカスエリア消去	[ フォーカスエリア登録機能]で登録したフォーカス枠の位置情報を消去する。	ヘルプガイド

フォーカスエリア自動消灯	フォーカスエリア表示を常に表示するか、ピントが合ったあと一定時間経過後に非表示にするかを設定する。	ヘルプガイド
コンティニュアスAFエリア表示	[コンティニュアスAF]時にフォーカスエリアを表示するかどうかを設定する。	ヘルプガイド
位相差AFエリア表示	位相差AFのエリア表示を設定する。	ヘルプガイド
AF微調整	マウントアダプター LA-EA2、LA-EA4(別売)を装着時、オートフォーカスでのピント位置を微調整する。	60
 AF時の絞り駆動	レンズの絞り駆動方式を変更して、オートフォーカスの追従性能を優先した設定や、静音を優先した設定にする。	ヘルプガイド
露出		
露出補正	画像全体の明るさを補正する。	94
露出補正值のリセット	露出補正ダイヤルが「0」の状態で電源を切ったとき、[露出補正]で設定した値を保持するかどうかを設定する。	ヘルプガイド
ISO感度	ISO感度を設定する。([ISO AUTO]など)	101
ISO AUTO低速限界	ISO AUTO時に、ISO感度が変わり始める低速側のシャッタースピードを設定する。	102
測光モード	明るさを測る方法を選ぶ。([マルチ] / [スポット]など)	95
マルチ測光時の顔優先	[測光モード]を[マルチ]に設定しているときに、カメラが検出した人物の顔を基準に測光するかどうかを設定する。	96
スポット測光位置	[フォーカスエリア]が[フレキシブルスポット]または[拡張フレキシブルスポット]のときに、スポット測光位置をフォーカスエリアに連動させるかどうかを設定する。	97
露出値ステップ幅	シャッタースピード、絞り値、露出補正值の設定幅を設定する。	ヘルプガイド

 シャッター半押しAEL	シャッターボタンを半押ししたときに、露出決定を行うかどうかを設定する。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに便利。	ヘルプガイド
露出基準調整	カメラの適正露出値の基準を、測光モードごとに調整することができる。	ヘルプガイド
フラッシュ		
フラッシュモード	フラッシュの発光方式を設定する。	124
調光補正	フラッシュの発光量を調整する。	125
露出補正の影響	露出補正值をフラッシュの調光に反映するかどうかを設定する。	ヘルプガイド
ワイヤレスフラッシュ	ワイヤレスフラッシュ撮影を行うかどうかを設定する。	127
赤目軽減発光	フラッシュ撮影時、目が赤くなるのを軽減する。	ヘルプガイド
外部フラッシュ設定	カメラの画面とコントロールホイールを使って、カメラに取り付けたフラッシュ(別売)の設定を行う。	ヘルプガイド
色/WB/画像処理		
ホワイトバランス	撮影場所の光の状況に合わせて、白いものの白に近い色に調整する。([オート] / [太陽光]など)	106
AWB時の優先設定	[ホワイトバランス]が[オート]のとき、白熱電球などの光源下で優先する色味を設定する。	ヘルプガイド
DRO/オートHDR	被写体や背景の明暗の差を細かな領域に分けて分析し、最適な明るさと階調の画像にする。	99
クリエイティブスタイル	好みの画像の仕上がりを選ぶ。コントラスト、彩度、シャープネスの調整もできる。([ビビッド] / [ポートレート]など)	109

ピクチャーエフェクト	好みの効果を使って、より印象的でアーティスティックな表現の画像を撮影できる。([トイカメラ] / [リッチトーンモノクロ]など)	ヘルプガイド
ピクチャープロファイル	撮影する画像の発色、階調などの設定を細かく変更できる。 * 映像クリエイター向けの機能です。	ヘルプガイド
ピント補助		
ピント拡大	撮影前の画像を拡大してピントの確認ができる。	64
ピント拡大時間	拡大表示する時間を設定する。	ヘルプガイド
☒ ピント拡大初期倍率	[ピント拡大]を使って画像を拡大するときに、最初に表示する倍率を設定する。	ヘルプガイド
☒ ピント拡大中のAF	拡大表示中に、オートフォーカスするかどうかを設定する。拡大表示中は、フレキシブルスポットより狭いエリアでピントを合わせることができる。	55
☒ MFアシスト	手動ピント合わせ時に画像を拡大表示する。	65
ピーキング設定	マニュアルフォーカス撮影のときにピントが合った部分の輪郭を強調表示するピーキングの設定を行う。	ヘルプガイド
撮影補助		
☒ フリッカーレス撮影	蛍光灯などの人工光源の点滅によるちらつき(フリッカー)を検知し、フリッカーによる影響が少ないタイミングで静止画を撮影する。	112
個人顔登録	優先してピントを合わせる人物の登録・編集を行う。	ヘルプガイド
登録顔優先	[個人顔登録]で登録した顔を優先して顔検出を行う。	ヘルプガイド

動画		
露出モード	動画撮影時の露出モードを設定する。	92
S&Q 露出モード	スロー＆クイックモーション撮影時の露出モードを設定する。	93
記録方式	動画を記録するときの記録方式を設定する。([XAVC S 4K] / [AVCHD]など)	133
記録設定	動画のフレームレートとビットレートを選択する。	134
S&Q スロー＆クイック設定	スロー & クイックモーション撮影の設定をする。	135
Px プロキシー記録	XAVC S動画を記録するとき、低ビットレートのプロキシー動画を同時に記録する。	ヘルプガイド
AF駆動速度	動画撮影時、オートフォーカスのピント合わせ速度を切り換える。	ヘルプガイド
AF被写体追従感度	動画撮影時、オートフォーカスの追従感度を設定する。	ヘルプガイド
オートストローシャッター	動画撮影時、被写体が暗いときに自動でシャッタースピードを遅くするかどうかを設定する。	ヘルプガイド
音声記録	動画撮影時、音声記録を行うかどうかを設定する。	137
録音レベル	録音レベルを調整する。	137
音声レベル表示	音声レベルを画面に表示するかどうかを選ぶ。	ヘルプガイド
音声出力タイミング	動画撮影時の音声出力のタイミングを設定する。	ヘルプガイド
風音低減	動画撮影時、風音を低減する。	ヘルプガイド
マーカー表示	動画撮影時に、モニターにマーカーを表示するかを設定する。	138

■マーカー設定	動画撮影時に表示されるマーカーを設定する。	138
ビデオライトモード	LEDライトHVL-LBPC (別売)の点灯方式を設定する。	ヘルプガイド
シャッター ボタンで動画撮影	シャッターボタンを使って動画を撮影する。	132
シャッター / 手ブレ補正		
■サイレント撮影	シャッター音を消して撮影する。	113
電子先幕シャッター	電子先幕シャッター機能を使用するかどうかを設定する。	114
レンズなしリリーズ	レンズが装着されていない状態でシャッターが切れるかどうかを設定する。	ヘルプガイド
メモリーカードなしリリーズ	メモリーカードが入っていない状態でシャッターが切れるかどうかを設定する。	ヘルプガイド
手ブレ補正	撮影時の手ブレ補正を設定する。	116
手ブレ補正設定	手ブレ補正の設定をする。	116
ズーム		
ズーム	光学ズーム以外のズームの倍率を設定する。	104
ズーム設定	全画素超解像ズーム、デジタルズームを使用するかどうか設定する。	104
ズームリング操作方向	ズームリングの回転方向に対して、W/Tの割り当てを設定する。電動ズームレンズで本機能に対応したレンズのみ使用できます。	ヘルプガイド
表示/オートレビュー		
DISPボタン	DISPボタンを押してモニターやファインダーに表示する情報の種別を設定する。	31
FINDER/MONITOR	電子ビューファインダーとモニターの表示切り換え方法を設定する。	166
■ファインダーフレームレート	静止画撮影時のファインダーのフレームレートを設定する。	167

ゼebra設定	明るさ調整の目安になるしま表示を設定する。	ヘルプガイド
グリッドライン	構図を合わせるための線を表示する。	ヘルプガイド
露出設定ガイド	撮影画面で露出設定を変更したときに表示するガイドの設定をする。	ヘルプガイド
ライブビュー表示	モニターの表示に、露出補正などの設定値を反映するかどうかを設定する。	ヘルプガイド
連写残量表示	連続撮影時に、連写速度が保持される枚数の目安を表示させるかどうかを設定する。	69
オートレビュー	撮影したあと、撮った画像を表示するオートレビューの設定をする。	164
操作カスタム		
↖ カスタムキー	あらかじめキーに機能を設定しておくと、静止画撮影時にキーを押すだけで設定しておいた機能を実行できる。	160
↙ カスタムキー	あらかじめキーに機能を設定しておくと、動画撮影時にキーを押すだけで設定しておいた機能を実行できる。	160
▶ カスタムキー	あらかじめキーに機能を設定しておくと、再生時にキーを押すだけで設定しておいた機能を実行できる。	160
ファンクションメニュー設定	Fn (ファンクション)ボタンで表示する機能をカスタマイズする。	161
ダイヤルの設定	撮影モードがMのとき、前ダイヤルと後ダイヤルに、シャッタースピードと絞り値のどちらを割り当てるか設定する。	ヘルプガイド
Av/Tvの回転方向	前ダイヤル、後ダイヤルまたはコントロールホイールで絞り値やシャッタースピードを変更するときの回転方向を設定する。	ヘルプガイド

ダイヤル露出補正	前ダイヤルまたは後ダイヤルで露出補正ができるように設定する。	ヘルプガイド
MOVIE(動画)ボタン	MOVIEボタンの有効/無効を設定する。	ヘルプガイド
操作部のロック	Fnボタンを長押しして、マルチセレクター、コントロールホイール、前ダイヤル/後ダイヤルを一時的に無効にする機能を設定する。	ヘルプガイド
電子音	ピントが合ったときや、セルフタイマー操作時の電子音の有無を設定する。	ヘルプガイド
ファンクションリング(レンズ)	レンズのファンクションリングを操作したときの機能を設定する。	ヘルプガイド

⑩(ネットワーク)

緑色タブ

スマートフォン転送機能	スマートフォンに転送する動画の設定やスマートフォン転送を実行する。	ヘルプガイド
パソコン保存	本機の画像をネットワークにつながれたパソコンに転送し、バックアップをとる。	ヘルプガイド
FTP転送機能	FTPを使った画像転送の設定を行い、実行する。 * FTPサーバーに関する基本的な知識が必要です。	183
テレビ鑑賞	ネットワークにつながれたテレビで画像を見る。	ヘルプガイド
スマートフォン操作設定	スマートフォンの接続条件を設定する。	ヘルプガイド
飛行機モード	飛行機などに搭乗するとき、Wi-Fi/NFC/Bluetooth機能を使用する設定を一時的にすべて無効にする。	ヘルプガイド
Wi-Fi設定	Wi-Fiアクセスポイントの登録や、接続情報の確認と変更を行う。	ヘルプガイド
Bluetooth設定	本機とスマートフォンをBluetooth接続するための設定をする。	189

<input type="checkbox"/> 位置情報連動設定	ペアリングしたスマートフォンの位置情報を取得して、画像に位置情報を記録する。	189
機器名称変更	Wi-Fi Directなどの機器名称を変更する。	ヘルプガイド
ルート証明書の読み込み	本機にルート証明書を読み込む。	ヘルプガイド
ネットワーク設定リセット	すべてのネットワーク設定をリセットする。	ヘルプガイド
Bluetoothリモコン	Bluetoothリモコンを使用する/しないを設定する。	ヘルプガイド

□ (再生)

青色タブ

プロジェクト	画像を誤って消さないように保護(プロジェクト)する。	149
回転	画像を回転する。	ヘルプガイド
削除	画像を削除する。	152
レーティング	撮影した画像に★～★★のレーティング(ランク分け)を設定する。	150
レーティング設定(カスタムキー)	[カスタムキー]で[レーティング]を割り当てたキーを使ってレーティングを設定するときに選べる★の数を設定する。	151
プリント指定	メモリーカードの画像にプリント予約マークを付ける。	ヘルプガイド
コピー	[再生メディア選択]で選ばれているメモリーカードから、もう一方のスロットに入っているメモリーカードに画像をコピーする。	147
動画から静止画作成	動画から希望のシーンを切り出して、静止画として保存する。	144
④ 拡大	再生画像を拡大表示する。	142

⊕ 拡大の初期倍率	画像を再生し拡大表示する(再生ズーム)ときの、拡大の初期倍率を選ぶ。	ヘルプガイド
⊕ 拡大の初期位置	画像を再生し拡大表示する(再生ズーム)ときの、拡大の初期位置を選ぶ。	ヘルプガイド
スライドショー	画像を連続再生する。	148
再生メディア選択	再生するメモリーカードのスロットを選ぶ。	146
ビューモード	画像を日付ごとや静止画/動画のフォルダごとに再生する。	146
一覧表示	画像を一覧表示する。	145
連写グループ表示	連続撮影した画像をグループ化して表示するかどうかを設定する。	ヘルプガイド
記録画像の回転表示	縦向きで記録した静止画の再生方法を設定する。	143
画像送り設定	画像再生時のジャンプ移動に使用するダイヤルや、ジャンプ移動する方法を設定する。	ヘルプガイド
⌚ インターバル連続再生	インターバル撮影で撮影した画像を連続再生する。	ヘルプガイド
⌚ インターバル再生速度	[⌚ インターバル連続再生]で静止画を連続再生するときの速度を設定する。	ヘルプガイド

（セットアップ）

黄色タブ

モニター明るさ	モニターの明るさを設定する。	ヘルプガイド
ファインダー明るさ	電子ビューファインダー使用時、電子ビューファインダーの明るさを設定する。	ヘルプガイド
ファインダー色温度	ファインダーの色温度を設定する。	ヘルプガイド
ガンマ表示アシスト	S-Log/HLGを適用した動画を表示するときに、モニタリングをしやすくするために画面を変換して表示する。	ヘルプガイド

音量設定	動画再生時の音量を設定する。	ヘルプガイド
削除確認画面	削除の確認画面で、[削除]と [キャンセル]のどちらを選択された状態にするかを設定する。	ヘルプガイド
表示画質	表示画質を設定する。 * [高画質]に設定すると、バッテリーの消費が早くなります。 * カメラの温度が高くなると、[標準]に固定されることがあります。	ヘルプガイド
パワーセーブ開始時間	省電力モード(パワーセーブ)になるまでの時間を設定する。	174
自動電源OFF温度	撮影時に本機の電源が自動で切れる温度を設定します。手持ちで撮影する際は [標準]に設定します。	ヘルプガイド
クリーニングモード	イメージセンサーをクリーニングする。	230
タッチ操作	モニターのタッチ操作を有効にするかどうかを設定する。	77
タッチパネル/タッチパッド	モニター撮影時のタッチパネル操作、ファインダー撮影時のタッチパッド操作のどちらを有効にするかを設定する。	77
タッチパッド設定	タッチパッドの設定をする。	ヘルプガイド
デモモード	動画のデモンストレーションの入/切を設定する。	ヘルプガイド
TC/UB設定	タイムコード(TC)とユーザービット(UB)の設定をする。 * 映像クリエイター向けの機能です。	ヘルプガイド
赤外線リモコン	赤外線リモコンを使用する/しないを設定する。	174

HDMI設定	HDMIに関する設定を行う。 * [記録方式]を[XAVC S 4K]に設定し、本機をHDMI機器に接続しながら動画を撮影すると、モニターには画像が表示されません。	175
4K映像の出力先	本機を4K対応の外部録画再生機器などと接続するときに、どのように記録、HDMI出力するかを設定する。	139
USB接続	接続するパソコンやUSB機器に合わせて設定する。	192
USB LUN設定	USB接続の機能を制限して互換性を高める。通常は[マルチ]のまま使い、どうしても接続できない場合のみ、[シングル]に設定する。	ヘルプガイド
USB給電	本機とパソコン、またはUSB機器を接続するとき、USB給電するかどうかを設定する。	179
PCリモート設定	PCリモート撮影の設定をする。	179
日時設定	時計、日付の設定をする。	39
エリア設定	本機を使用する場所に適した時刻に設定する。	ヘルプガイド
著作権情報	撮影する静止画の著作権情報を設定する。	ヘルプガイド
フォーマット	メモリーカードをフォーマット(初期化)する。	169
ファイル番号	ファイル番号の付けかたを設定する。	170
ファイル名設定	撮影する静止画のファイル名の先頭3文字を変更する。	170
記録メディア設定	2つのメモリーカードスロットに対して、どのように画像を記録するかを設定する。	171、ヘルプガイド
記録フォルダー選択	静止画を記録するフォルダーを設定する。	173

フォルダー新規作成	静止画を記録する新しいフォルダーを作成する。	ヘルプガイド
フォルダー形式	静止画を記録するフォルダーの形式を設定する。	ヘルプガイド
管理ファイル修復	画像の管理ファイル修復を行い、記録・再生できるようにする。	ヘルプガイド
メディア残量表示	現在撮影可能な動画の時間と静止画の枚数を表示する。	ヘルプガイド
バージョン表示	本機のソフトウェアのバージョンを表示する。	ヘルプガイド
認証マーク表示	本機が対応している認証情報を表示する(表示されるのは認証情報の一部のみになります)。	ヘルプガイド
設定リセット	設定をお買い上げ時の設定に戻す。すべての設定を初期値に戻す場合は、「初期化」を選ぶ。	181

★(マイメニュー)

灰色タブ

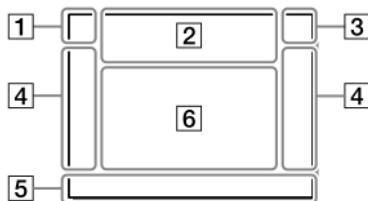
項目の追加	★(マイメニュー)に好みのメニュー項目を追加する。	162
項目の並べ替え	★(マイメニュー)に追加したメニュー項目を並べ替える。	162
項目の削除	★(マイメニュー)に追加したメニュー項目を削除する。	163
ページの削除	★(マイメニュー)に追加したメニュー項目をページごとに削除する。	ヘルプガイド
全て削除	★(マイメニュー)に追加したメニュー項目をすべて削除する。	ヘルプガイド

モニターに表示されるアイコン一覧

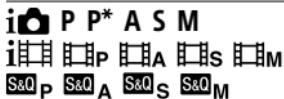
表示内容や表示位置は目安であり、実際とは異なる場合があります。

撮影画面のアイコン

モニター撮影用



1 撮影モード/シーン認識マーク



撮影モード(84)

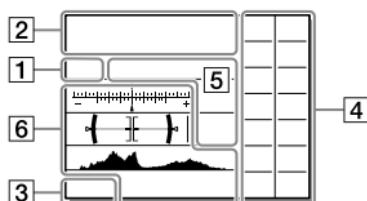


登録番号(157)

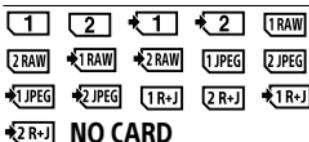


シーン認識マーク(85)

ファインダー撮影用



2 カメラの設定



メモリーカード(35、233)

100

摄影可能枚数

3

データ書き込み中/書き込み残り枚数(141)

3:2 16:9

静止画の画像横縦比(81)

**42M 36M 18M 15M 11M 8.9M
4.5M 3.8M**

静止画の画像サイズ(80)

RAW RAW

RAW記録(圧縮/非圧縮)

X.FINE FINE STD

JPEG画質(81)

XAVC S 4K XAVC S HD AVCHD

動画の記録方式(133)

100 ■ 60 ■ 50 ■ 25 ■ 16 ■**FX FH**

動画の記録設定(134)

120p 60p 60i 30p 24p

動画のフレームレート(134)

100_{Px} ■ 60_{Px} ■ 50_{Px} ■ 25_{Px}**16_{Px}**

プロキシー記録(140)

120fps 60fps 30fps 15fps 8fps**4fps 2fps 1fps**スロー / クイックモーション撮影
時のフレームレート(135)

APS-C/Super 35mm (83)



フラッシュ充電表示(122)

VIEW

設定効果反映Off (205)



AF補助光(59)

Flicker

フリッカー(ちらつき)検知(112)

手ブレ補正オフ/オン、手ブレ警告
(116)手ブレ補正焦点距離/手ブレ警告
(116)スマートズーム/
全画素超解像ズーム/デジタル
ズーム(103)

PCリモート(179)



ブライトモニタリング(168)



サイレント撮影(113)



赤外線リモコン(174)



動画音声記録オフ(137)



風音低減オン(203)



著作権情報書き込みオン(210)

Assist S-Log2 Assist S-Log3 Assist HLG 709 Assist HLG 2020

ガンマ表示アシスト(208)



フォーカス解除(78)



ロックオンAF解除

スポットフォーカス

スポットフォーカス中(79)



NFC有効(182)



Bluetooth接続中/未接続(190)



スマートフォン接続中/未接続



位置情報取得中/位置情報取得無効(188)



飛行機モード(206)



温度上昇警告(228)



管理ファイルフル警告(228) /
管理ファイルエラー警告(228)

③ バッテリー



バッテリー容量(33)



バッテリー残量警告



USB給電中(179)

④ 撮影設定



ドライブモード(67)



フラッシュモード(124) / ウイヤレスフラッシュ(127) / 赤目軽減(201)



調光補正(125)



フォーカスモード(44)



フォーカスエリア(46)



測光モード(95)

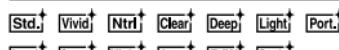


7500K A5 G5

ホワイトバランス(オート、プリセット、水中オート、カスタム、色温度、カラーフィルター)(106)



Dレンジオプティマイザー(99)
/オートHDR(99)



+3 +3 +3

クリエイティブスタイル(109) /
コントラスト、彩度、シャープネス



レックコントロール(177)

00:00:00:00

タイムコード(時：分：秒：フレーム)(209)

00 00 00 00

ユーザービット(209)



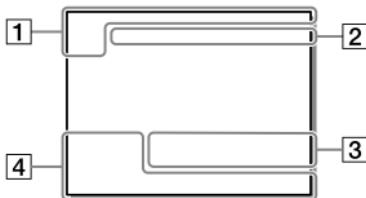
1° 15° 30°

2/4

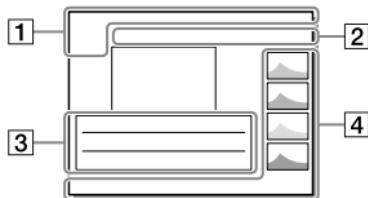
ピクセルシフトマルチ撮影(120)

再生画面のアイコン

1枚再生画面



ヒストグラム画面



① 基本情報



再生メディア(146)



ビューモード(146)



レーティング(150)



プロジェクト(149)

DPOF

DPOF(プリント)指定(207)

3/7

画像番号/ビューモード内画像枚数



NFC有効(182)



バッテリー容量(33)



連写グループ(208)



プロキシー動画あり(140)



ピクセルシフトマルチ撮影(120)

[2] カメラの設定

「撮影画面のアイコン」(212ページ)をご覧ください。

[3] 撮影時の設定

ピクチャーエフェクトエラー



オートHDRエラー (99)

35mm

レンズ焦点距離

HLG

HDR記録(Hybrid Log-Gamma)

その他のアイコンについては、「撮影画面のアイコン」(212ページ)をご覧ください。

[4] 画像の情報

緯度・経度情報(188)

2017-1-1 10:37AM

撮影日時(39)

100-0003

フォルダー番号—ファイル番号
(170)



ヒストグラム(輝度/R/G/B)
(30)

困ったときは

困ったときのこと

困ったときは、下記の流れに従ってください。

❶ 219～225ページの項目をチェックし、本機を点検する。

❷ バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを入れ、本機の電源を入れる。

❸ ヘルプガイド(3ページ)を確認する。

❹ 設定リセットをする(181ページ)。

❺ **α**専用サポートサイトで確認する。

<https://www.sony.jp/support/ichigan/index.html>



❻ 相談窓口に電話で問い合わせる。

バッテリー・電源

バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。電源が入らない。

- 温度が極端に高い、または低いところで使用しているときの現象です。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付けてください。
- バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。
- バッテリーが正しく取り付けられているか確認してください(34ページ)。
- ソニー製のバッテリーをお使いください。

電源が切れる。

- 本機やバッテリーの温度によっては、カメラを保護するために、自動的に電源が切れることがあります。この場合は、電源が切れる前にモニターにメッセージが表示されます。

電池の消耗が早い。

- [赤外線リモコン]が[入]になっているときは、パワーセーブ機能が働きません。リモコン使用後は[切]にしてください(174ページ)。

充電できない。

- 本機の電源を切った状態で充電してください。

バッテリー充電中、充電ランプが点滅する。

- バッテリーはNP-FZ100のみ使用できます。NP-FZ100かどうか確認してください。
- バッテリーを取りはずし、もう一度同じバッテリーを取り付けてください(35ページ)。
- 1年以上使用していないバッテリーは劣化の可能性があります。
- 充電に適した範囲外にあるため、充電の一時待機状態になっています。バッテリーの充電は周囲温度が10°C ~30°Cの環境で行うことをおすすめします。

撮影する

ファインダーに画像が映らない。

- [FINDER/MONITOR]が[モニター (マニュアル)]になっています。
[FINDER/MONITOR]を[オート]または、[ファインダー (マニュアル)]にしてください(166ページ)。
- ファインダーに接眼してください。
- モニターを引き出しているときは、[FINDER/MONITOR]が[オート]に設定されていてもアイセンサーは接眼を検知しません。画像はモニターに表示されます。

シャッターが切れない。

- 書き込み禁止スイッチまたは誤消去防止スイッチのあるメモリーカードを使用し、スイッチが「LOCK」になっています。解除してください。
- メモリーカードの空き容量を確認してください。
- レンズが正しく取り付けられていません。正しく取り付けてください(37ページ)。
- 本機を天体望遠鏡などに取り付けた場合は、[レンズなしレリーズ]を[許可]にして撮影してください(204ページ)。
- [メモリーカードなしレリーズ]を[許可]してください(204ページ)。ただし、本機にメモリーカードを入れていない状態では、画像は記録されません。
- セルフタイマーになっている。

撮影に時間がかかる。

- ノイズ軽減処理機能が働いています。故障ではありません。
- RAWモードで撮影しています。RAWモードでの撮影はデータ量が大きいため、撮影に多少時間がかかる場合があります。
- オートHDR処理中です。

同じ画像が数枚撮影される。

- ドライブモードが連続撮影、またはブラケット撮影になっています。
[1枚撮影]にしてください(67ページ)。

ピント(フォーカス)が合わない。

- 被写体が近すぎます。レンズの最短撮影距離を確認してください。
- マニュアルフォーカスになっている。[フォーカスマード]を[マニュアルフォーカス]以外にしてください(44ページ)。
- 光量が不足している。

画像が白っぽくなる(フレア)。

光のにじみが現れる(ゴースト)。

- 強い光源にカメラを向けるとレンズに余分な光が入ることで画像が白っぽくなったり(フレア)、光のにじみが現れたり(ゴースト)することがあります。故障ではありません。
- ズームレンズ使用時は、レンズフードを取り付けてください。また強い光源に向けないように構図を工夫して撮影してください。

画像の隅が暗くなる。

- フィルターやフードをご使用の場合は、いったん取りはずしてお試しください。フィルターの厚みやフードの不適切な取り付けにより、画像にフィルターやフードが写り込むことがあります。また、レンズの光学的な特性により、画像周辺部が暗く写る場合(光量低下)があります。この場合は[レンズ補正](197ページ)の[周辺光量補正]で補正することができます。

被写体の目が赤く写る。

- [赤目軽減発光]を[入]にしてください(201ページ)。
- 被写体に近づいてフラッシュ調光距離内で撮影してください。

画像がブレる。

- 暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こしています。暗いところでの撮影はシャッタースピードが遅くなるので、三脚またはフラッシュの使用をおすすめします(122ページ)。
- [手ブレ補正]が[入]になっているか、確認してください(116ページ)。
- [手ブレ補正調整]を[マニュアル]でご使用している場合、正しい焦点距離が設定されているか確認してください(116ページ)。

音声が正しく記録されない。

- 録音レベルを調節して音量を最低に絞ると、音声は記録されません。
 - 録音レベルを調節して音量を最大にすると、音声が割れやすくなります。
-

電源オン状態で、本体が振動する。

- 本体内手ブレ補正機構のため、イメージセンサーが上下左右に動きます。故障ではありません。
-

電源オフ状態で、本体を振ると音や振動を感じる。

- 手ブレ補正のイメージセンサーシフト機構が動くためです。故障ではありません。
-

画像を見る

再生できない。

- パソコンでフォルダー / ファイルの名前を変更したためです。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生は保証いたしません。
- パソコン内の画像を本機で再生するにはPlayMemories Homeを使って画像をコピーしてください。
- USBモードになっています。USB接続を終了してください(193ページ)。

画像を削除する

削除できない。

- 画像のプロテクトを解除してください。
-

誤って消してしまった。

- 一度削除した画像は元に戻せません。誤消去を防止したい画像には、あらかじめプロテクトをかけてください(149ページ)。

パソコン

最新サポート情報は、**α**専用サポートサイトをご覧ください。

<https://www.sony.jp/support/ichigan/>

対応しているOSがわからない。

- ソフトウェアのパソコン環境は以下のURLよりご確認いただけます。
<https://www.sony.net/pcenv/>

本機がパソコンに認識されない。

- 本機の電源が入っているか確認してください。
- バッテリー残量が少ないとときは、充電されたバッテリーを取り付けてください。
- 接続には、付属のUSB Type-Cケーブル、またはUSB規格に準拠したケーブルをお使いください。
- 一度パソコンと本機からUSBケーブルを抜いて再びしっかりと差し込んでください。
- パソコンのUSB端子に、本機/キーボード/マウス以外の機器が接続されているときは、取りはずしてください。
- USBハブ経由などでなく、本機とパソコンを直接接続してください。

画像をコピーできない。

- 本機とパソコンを正しくUSB接続してください(192ページ)。
- OSに対応した手順でコピーしてください。
- パソコンでフォーマットしたメモリーカードで撮影した場合、画像をパソコンへコピーできないことがあります。本機でフォーマットしたメモリーカードで撮影してください(169ページ)。

画像を再生できない。

- PlayMemories Homeをお使いの場合はPlayMemories Homeのヘルプをご覧ください。
- パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

USB接続をしたときにPlayMemories Homeが自動起動しない。

- パソコンの電源を入れた状態でUSB接続をしてください。

プリントする

プリントできない。

- RAW画像はプリントできません。RAW画像をプリントするには、専用ソフトウェア(195ページ)でJPEG画像に変換してください。

画像の色合いがおかしい。

- AdobeRGBで撮影した画像を、AdobeRGBに対応していないsRGB環境下のプリンターで印刷すると、低彩度な画像になります(111ページ)。

両端が切れてプリントされる。

- プリンターによっては、画像の上下左右が切れることができます。特に横縦比が[16 : 9]のときは、左右が大きく切れることができます。
- お手持ちのプリンターでプリントする場合は、あらかじめトリミングやふちなしまプリント機能を解除しておいてください。機能の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- お店でプリントする場合は、画像の両端が切れないようにプリントできるかどうか、あらかじめお店にお問い合わせください。

その他

電源を入れると、[エリア/日付/時刻を設定してください]というメッセージが表示される。

- バッテリーが消耗したまま、または本機のバッテリーを取り出したまま放置したため、日時の設定が失われました。バッテリーを充電して、日時を再設定してください(39ページ)。バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があるため、相談窓口にお問い合わせください。

撮影残り画像数が減らなかったり、一度に2枚減ったりする。

- JPEG画像の場合、画像によって圧縮率や圧縮後のファイルサイズが変わることです。

リセット操作をしていないのに、設定内容がリセットされる。

- ON/OFF (電源)スイッチが「ON」のままバッテリーを取り出すと、設定内容がリセットされることがあります。バッテリーを取り出すときは、ON/OFF (電源)スイッチを「OFF」にして、アクセスランプが点灯していないのを確かめてから取り出してください(19、35ページ)。
-

本機が正常に作動しない。

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直してください。温度が上がっているときには、いったんバッテリーを取りはずし、本機の温度が下がってからこれらの処置を行ってください。
-

画面に「--E-」が表示される。

- メモリーカードを一度取り出し、入れ直してください(36ページ)。それでも直らない場合は、メモリーカードをフォーマットしてください(169ページ)。

警告表示

エリア/日付/時刻を設定してください

- エリアと日付、時刻を設定してください。長時間使用していない場合は内蔵の充電式バックアップ電池を充電してください。

電池が少ないので実行できません

- 画像のコピーまたはイメージセンサーのクリーニングを実行しようとしたが、バッテリー残量が少ないので実行できません。バッテリーを充電するか、パソコンなどと接続して給電してください。

このメモリーカードは使えません フォーマットしますか？

- パソコンでフォーマットを行ったため、ファイルシステムが変更されています。[実行]を選んでフォーマットを行ってください。本機で使用できるようになりますが、カード内のデータはすべて削除されます。また、フォーマットに多少時間がかかることがあります。

それでもメッセージが出る場合は、カードを交換してください。

メモリーカードエラー

- 本機では使えないカードが入っています。
- フォーマットに失敗しています。再度フォーマットを実行してください（169ページ）。

メモリーカードが正しく読めません メモリーカードを入れ直してください

- 本機では使えないメモリーカードが入っています。
- メモリーカードが壊れています。
- メモリーカードの端子が汚れています。

メモリーカードがロックされています

- 書き込み禁止スイッチまたは誤消去防止スイッチのあるメモリーカードを使用し、スイッチが「LOCK」になっています。解除してください。

メモリーカードが入っていないのでシャッターが切れません

- ・[優先記録メディア] (171ページ)で選択されたスロットにメモリーカードが入っていません。
 - ・本機にメモリーカードを入れずにシャッターを切る場合は、[メモリーカードなしレリーズ]を[許可]にしてください(204ページ)。その際、画像は保存されません。
-

このメモリーカードは正常に記録・再生できない可能性があります

- ・本機では使えないメモリーカードが入っています。
-

ノイズリダクション実行中

- ・ノイズリダクションが機能した場合、ノイズ軽減処理を行います。この間は次の撮影はできません。
-

表示できない画像です

- ・他のカメラで撮影した画像や、パソコンで画像を加工した場合は表示できないことがあります。
 - ・パソコンで画像の削除などを行うと、管理ファイルに不整合が発生する場合があります。管理ファイルの修復を行ってください(211ページ)。
-

レンズの装着状態を確認してください

非対応レンズの場合は、メニューの「レンズなしレリーズ」を「許可」に設定してください

- ・レンズが取り付けられていない、または正しく装着されていません。レンズが付いているのにメッセージが表示される場合は、一度レンズをはずし、再度取り付けてください(38ページ)。また頻繁にメッセージが表示される場合は、レンズとカメラの接点端子に汚れがないかご確認ください。
 - ・非対応レンズを使用する場合や天体望遠鏡などにカメラを取り付ける場合は、[レンズなしレリーズ]を[許可]にしてください(204ページ)。
-

DPOF指定できません

- ・RAW画像をDPOF指定しようとしています。

しばらく使用できません カメラの温度が下がるまでお待ちください

- 連続撮影したため、本機の温度が上がっています。
本機の電源を切って、本機の温度が下がり再び撮影可能になるのを待ってから撮影してください。

[日]

- 長時間撮影したため、本機の温度が上がっています。



- 本機で日付を管理できる枚数を越えています。



- 本機の管理ファイルへの記録ができません。PlayMemories Homeで、すべての画像をパソコンに取り込み、メモリーカードを修復してください。

管理ファイルエラー

- 管理ファイルに何らかの異常が発生しています。[セットアップ]から [管理ファイル修復]を行ってください(211ページ)。

システムエラー

カメラエラー 電源を入れなおしてください

- バッテリーを一度取り出し、入れ直してください。何度も繰り返す場合は相談窓口にお問い合わせください。

管理ファイルに不整合が見つかりました 修復しますか？

- 管理ファイルが破損しているため、AVCHD動画の撮影、再生ができません。画面の指示に従い修復してください。

拡大できません

回転できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像は、拡大/回転できることがあります。

これ以上フォルダー作成できません

- 上3桁の番号が「999」のフォルダーがメモリーカード内にあります。本機でこれ以上のフォルダーを作成できません。

イメージセンサーをクリーニングする

本機内にゴミやほこりが入ってイメージセンサー（光を電気信号に変える部分）に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやほこりが画像に写り込むことがあります。付着した場合は、以下の手順でイメージセンサーの清掃を行ってください。

1 バッテリー容量が充分にあることを確認する。

2 MENU →  (セットアップ) → [クリーニングモード] → [実行]を選ぶ。

イメージセンサーが短時間振動して、ゴミをふるい落とします。

3 画面の指示に従い、本機の電源を切る。

4 レンズをはずす。

**5 ブロアーでイメージセンサー
表面と、その周辺のほこりを
吹き飛ばす。**



6 レンズを取り付ける。

ヒント

- イメージセンサーの汚れ具合のチェック方法と、さらに詳しいクリーニング方法は、以下のURLをご覧ください。

<https://support.d-imaging.sony.co.jp/www/support/ilc/sensor/>

ご注意

- 清掃はすみやかに行ってください。
- プロアーは、付属していません。市販のプロアーを使用してください。
- バッテリー残量が  (残量が3個) 以上であることを確認してクリーニングモードを起動してください。
- スプレー式のプロアーは、水滴が本機内部に飛び散るので使用しないでください。
- プロアーの先端がイメージセンサーに当たらないように、マウントより中に入れないでください。
- ほこりが下に落ちやすいよう、本機をやや下向きにしてください。
- クリーニング中にカメラに衝撃を与えないでください。
- 適度な風量でクリーニングしてください。風量が強すぎると内部を傷めことがあります。
- この手順でクリーニングを行ってもほこりが取れない場合は、相談窓口にお問い合わせください。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、カメラやメモリーカードなどの不具合などにより記録や再生されなかつた場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容を確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

“困ったときは”の項を参考にして故障かどうかお調べください。それでも具合の悪いときは相談窓口にご相談ください(裏表紙)。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

部品の保有期間について

当社はカメラの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後7年間保有しています。ただし、故障の状況、その他の事情により、修理に代えて製品を交換する場合がありますので、ご了承ください。

主な仕様

使用できるメモリーカード

microSDメモリーカード、メモリースティックマイクロを本機でお使いの場合は、必ず専用のアダプターに入れてお使いください。

SDメモリーカード

記録方式	対応メモリーカード
静止画	SD、SDHC、SDXCカード
AVCHD	SD、SDHC、SDXCカード (Class4以上またはU1以上)
XAVC S	4K 60Mbps* HD 50Mbps以下* HD 60Mbps
	4K 100Mbps* HD 100Mbps

* プロキシー記録時を含む

メモリースティック

記録方式	対応メモリーカード
静止画	メモリースティック PRO デュオ、 メモリースティック PRO-HG デュオ
AVCHD	メモリースティック PRO デュオ (Mark2)、 メモリースティック PRO-HG デュオ
XAVC S	4K 60Mbps* HD 50Mbps以下* HD 60Mbps
	4K 100Mbps* HD 100Mbps

* プロキシー記録時を含む

ご注意

- UHS-II規格対応のメモリーカードを使用するときは、スロット1をご使用ください。
また、MENU →  (セットアップ) → [記録メディア設定] → [優先記録メディア]を[スロット1]にしてください。
- メモリースティック PRO デュオは、スロット1では使用できません。
- SDHCメモリーカードにXAVC Sで長時間撮影した場合は、4GBのファイルに分割されます。PlayMemories Homeでパソコンに取り込むことで、1つのファイルとして扱うことができます。
- 以下の設定でスロット1とスロット2の両方のメモリーカードに動画を記録するときは、ファイルシステムが同じメモリーカードを両スロットに挿入してください。
XAVC S動画の同時記録時は、ファイルシステムexFATとFAT32の組み合わせで記録することはできません。
 - [記録方式]が[XAVC S 4K]または[XAVC S HD]
 - [記録メディア設定]の[記録モード]が[同時記録(両方のみ)]または[同時記録(両方)]

メモリーカード	ファイルシステム
SDXCメモリーカード	exFAT
メモリースティック PRO デュオ(Mark2)、 メモリースティック PRO-HG デュオ、 SDHCメモリーカード	FAT32

- メモリーカード上の管理ファイルを修復する場合は、バッテリーを充分に充電をしてから実行してください。

主な仕様

本体

[形式]

カメラタイプ：

レンズ交換式デジタルカメラ

使用レンズ：ソニー Eマウントレンズ

[撮像部]

撮像素子：

35 mmフルサイズ(35.9 mm ×

24.0 mm)、CMOSイメージセンサー

カメラ有効画素数：約42 400 000画素

総画素数：約43 600 000画素

[手ブレ補正]

イメージセンサーシフト方式(内蔵)

[オートフォーカス]

検出方式：位相差検出方式/コントラス

ト検出方式

検出輝度範囲：

EV-3 ~ EV+20 (ISO100相当、

F2.0)

[ファインダー]

総ドット数：3 686 400ドット

倍率：約0.78倍(50 mmレンズ、無限遠、

視度 -1 m^{-1} 時)

アイポイント：最終光学面から

約23 mm、接眼枠から約18.5 mm

(視度 -1 m^{-1} 時)

視度調整： -4.0 m^{-1} ~ $+3.0\text{ m}^{-1}$

[モニター]

7.5 cm (3.0型) TFT駆動、タッチパネル

ドット数：2 359 296ドット

[露出制御]

測光方式：

1200分割ライブビュー分析測光

測光範囲：EV-3 ~ EV+20 (ISO100

相当、F2.0レンズ使用)

ISO感度(推奨露光指数)：

静止画撮影時：ISO100 ~ ISO32000

(拡張：下限ISO50、上限ISO102400)

動画撮影時：ISO100 ~ ISO32000

相当

[シャッター]

形式：電子制御式縦走りFFオーバルプ

レーンシャッター

シャッタースピード範囲：

静止画撮影時：1/8000秒 ~ 30秒、

バルブ

動画撮影時：1/8000秒 ~ 1/4秒、

AUTO時は1/60秒まで(オートスロー

シャッター 1/30秒まで)

フラッシュ同調速度：1/250秒(ソニー

製フラッシュ装着時)

[記録方式]

静止画記録方式：JPEG (DCF Ver.2.0、

Exif Ver.2.31、MPF Baseline)準拠、

RAW(ソニー ARW 2.3フォーマット)

動画記録方式(XAVC S方式)：MPEG-4

AVC/H.264 XAVC S ver.1.0規格準拠

映像：MPEG-4 AVC/H.264

音声：LPCM 2ch (48kHz 16bit)

動画記録方式(AVCHD方式)：AVCHD

規格 Ver2.0準拠

映像：MPEG-4 AVC/H.264

音声：Dolby Digital 2ch

ドルビーデジタルステレオクリエー

ター搭載

• ドルビーラボラトリーズからの実施

権に基づき製造されています。

[記録メディア]

SLOT 1 : SD (UHS-I、UHS-II対応) カード用スロット
SLOT 2 : メモリースティック PRO デュオ、SD (UHS-I対応) カード用マルチスロット

[入/出力端子]

USB Type-C端子 :
USB通信 SuperSpeed USB 5Gbps (USB 3.2)
マルチ/マイクロUSB端子* :
USB通信 Hi-Speed USB (USB 2.0)
* この端子にはマイクロUSB規格に対応した機器をつなぐことができます。
HDMI端子 :
HDMIタイプD マイクロ端子
• (マイク)端子 :
Ø 3.5 mmステレオミニジャック
Ω (ヘッドホン)端子 :
Ø 3.5 mmステレオミニジャック
⚡(シンクロ)ターミナル

[電源・その他]

定格 : 7.2 V ■■■, 3.7 W
動作温度 : 0 ~ 40°C
保存温度 : -20 ~ 55°C
外形寸法(幅×高さ×奥行き) (約) :
126.9×95.6×73.7 mm
126.9×95.6×62.7 mm
(グリップからモニターまで)
質量 : 約657 g
(バッテリー、SDカードを含む)

[ワイヤレスLAN]

対応規格 : IEEE 802.11 b/g/n
使用周波数帯 : 2.4 GHz帯
セキュリティ :
WEP/WPA-PSK/WPA2-PSK
接続方式 : Wi-Fi Protected Setup™
(WPS) / マニュアル
アクセス方式 :
インフラストラクチャーモード

[NFC]

タグタイプ :
NFCフォーラム Type 3 Tag準拠

[Bluetooth通信]

Bluetooth標準規格Ver. 4.1
使用周波数帯 : 2.4 GHz帯

バッテリーチャージャー

BC-QZ1

定格入力 : 100 - 240 V ~,
50/60 Hz, 0.38 A
定格出力 : 8.4 V ■■■, 1.6 A

リチャージャブルバッテ

リーパック NP-FZ100

定格 : 7.2 V ■■■

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります、ご了承ください。

画像の互換性について

- 本機は、(社)電子情報技術産業協会 (JEITA) にて制定された統一規格 "Design rule for Camera File system" (DCF) に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影/修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

■商標について

- メモリースティックおよび  はソニー株式会社の商標または登録商標です。
- XAVC Sおよび  はソニー株式会社の登録商標です。
- AVCHDおよびAVCHDロゴは、パナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。
- Macは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- IOSは、シスコの登録商標または商標です。
- iPadは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- iPhoneは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
「iPhone」の商標は、アイホン株式会社からライセンスを受け使用しています。
- Blu-ray Disc™およびBlu-ray™はブルーレイディスクアソシエーションの商標です。
- AOSSは、株式会社バッファローの商標です。
- DLNAおよびDLNA CERTIFIEDはDigital Living Network Allianceの商標です。
- USB Type-C®およびUSB-C®はUSB Implementers Forumの登録商標です。
- USB-IF SuperSpeed USB TridentロゴはUSB Implementers Forum, Inc.の登録商標です。 ®
- Dolby、Dolby Audio、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

- HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。
- Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における登録商標または商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLCの商標です。
- FeliCaプラットフォームマークは、フェリカネットワークス株式会社の登録商標です。
- Android、Google PlayはGoogle Inc.の登録商標または商標です。
- Wi-Fi、Wi-Fiロゴ、Wi-Fi Protected SetupはWi-Fi Allianceの登録商標または商標です。
- NマークはNFC Forum, Inc.の米国およびその他の国における商標あるいは登録商標です。
- Bluetooth®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ソニー株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- 「おサイフケータイ」は、株式会社NTTドコモの登録商標です。
- QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していない場合があります。



安全のために

→ 2ページもあわせてお読みください。



漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大けがややけど、火災などを避けるため、下記の注意事項をよくお読みください。

バッテリー

バッテリーを誤って取り扱うと、バッテリーが破裂して火災や化学的な火傷が発生することがあります。以下の注意を守ってください。



禁止

- ・分解や改造をしない。
- ・ハンマーなどで叩いたり、踏みつけたり、落下させるなどの衝撃や力を加えない。
- ・ショートさせたり、クリップなどの金属をバッテリー端子に接触させない。
- ・直射日光下の車中など、60°C以上の高温の場所にさらさない。
- ・焼却したり、火の中に入れたりしない。
- ・液漏れや、破損したリチウムイオン電池を取り扱わない。
- ・バッテリーは指定された方法以外で充電しない。
- ・乳幼児、子供の手の届く場所に置かない。
- ・ぬらさない。
- ・バッテリーはソニー純正品を使う。
- ・使用済みのバッテリーはリサイクルする。
- ・-20°C以下の過度の低温や11.6kPa以下の極端な低圧にさらさない。



下記の注意事項を守らないと、火災、大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。



分解禁止

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。内部点検や修理は相談窓口にご依頼ください。

内部に水や異物(金属類や燃えやすい物など)を入れない

火災、感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電池を取り出してください。ACアダプターやバッテリーチャージャーなどもコンセントから抜いて、相談窓口にご相談ください。



禁止

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら、撮影、再生をしたり、モニターを見るすることは絶対おやめください。交通事故の原因となります。

撮影時は周囲の状況に注意をはらう

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。事故やけがなどの原因となります。

通電中のACアダプター、バッテリーチャージャー、充電中の電池や製品に長時間ふれない

使用中に本機や付属品が熱いと感じなくとも皮膚の同じ場所が長時間触れたままの状態でいると、赤くなったり水ぶくれができたりなど低温やけどの原因となる場合があります。

ケーブル類を傷つけない

熱器具に近づけたり、加熱したり、加工したりすると火災や感電の原因となります。また、ケーブル類を抜くときは、コードに損傷を与えないように必ずプラグを持って抜いてください。



禁止

フラッシュ、AF補助光などの撮影補助光を至近距離で人に向けない

- 至近距離で使用すると視力障害を起こす可能性があります。特に乳幼児を撮影するときは、1m以上はなれてください。
- 運転者に向かって使用すると、目がくらみ、事故を起こす原因となります。

カメラのファインダーや取りはずしたレンズを通して、太陽や強い光を見ない

視力障害や失明の原因となります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で使用しない

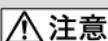
感電の原因になることがあります。



指示

電池やショルダーベルト、ストラップを正しく取り付ける

正しく取り付けないと、落下によりけがの原因となることがあります。また、ベルトやストラップに傷がないか使用前に確認してください。



下記の注意事項を守らないと、けがや財産に損害を与えることがあります。

水滴のかかる場所など湿気の多い場所やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない

火災や感電の原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所に置いたり、不安定な状態で三脚を設置すると、製品が落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。



禁止

使用中は機器を布で覆ったりしない

熱がこもってケースが変形したり、火災、感電の原因となることがあります。

レンズやモニターに衝撃を与えない

レンズやモニターはガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。

ヘッドホンを使用するような場合、大音量で長時間つづけて聞くと、耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。



禁止

レンズが直射日光にあたる場所に放置しない

光がレンズを通して焦点を結び、火災の原因となります。

プラケット等を介し、他のアクセサリーも取り付けた状態で使用する場合、取扱いに注意する

落下等により、不慮の事故の原因となります。



スラグをコンセントから抜く

長期間使用しないときは、電源を外す

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから外したり、電池を本体から外して保管してください。

**Li-ion**

リチウムイオン電池は、リサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部をビニールテープなどで絶縁してリサイクル協力店へお持ちください。

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については一般社団法人JBRCホームページ

<http://www.jbrc.com/> を参照してください。

索引

ア行

アイコン一覧	212
アイスタートAF	199
アイセンサー	18
赤目軽減発光	201
アクセスポイント手動登録	187
アスペクト	138
後幕シンクロ	124
位相差AF	48
位相差AFエリア表示	200
位置情報	188
位置情報取得	188
位置情報連動設定	188
一覧表示	145
イメージセンサー	230
色温度・カラーフィルター	106
色空間	111
印刷	207
インデックス	145
エリア設定	210
オートHDR	99
オートスローシャッター	203
オートフォーカス	46
オートモード	40
オートレビュー	164
おまかせオート	40, 85
主な仕様	235
音声記録	137
音声出力タイミング	203
音声レベル表示	203
音量設定	144, 209

カ行

回転	207
ガイドフレーム	138
顔検出	52, 96
顔/瞳AF設定	52
拡大	142
拡大の初期位置	208
拡大の初期倍率	208
拡張フレキシブルスポット	46
カスタムキー	160
カスタム撮影設定登録	158
カスタムセット	107
カスタムホワイトバランス	107
カメラ内ガイド	3
画面全体平均	95
画面表示	29, 212
感度	101
ガンマ表示アシスト	208
管理ファイル修復	211
機器名称変更	207
強制発光	124
記録画像の回転表示	143
記録設定	134
記録フォルダー選択	173
記録方式	133
記録メディア設定	171
記録モード	172
クイックナビ	27
クリア	109
クリーニングモード	230
クリエイティブスタイル	109

グリッドライン	205	絞りレビュー	164
蛍光灯：昼光色	106	絞り優先	87
蛍光灯：昼白色	106	シャープネス	110
蛍光灯：白色	106	シャッタースピード優先	88
警告表示	226	シャッター半押しAEL	201
言語	12	シャッター半押しAF	199
高感度NR	119	シャッターボタンで動画撮影	132
項目の削除	163	充電	33
項目の追加	162	初期値	181
項目の並べ替え	162	白黒	110
紅葉	110	シングルAF	44
個人顔登録	202	シンクロターミナル	129
コピー	147	水中オート	106
コンティニュアスAF	44	ズーム	103
コンティニュアスAFエリア表示	200	ズーム設定	204
コントラスト	110	ズーム倍率	105
コントロールホイール	25	ズームリング操作方向	204
サ行		スタイルボックス	110
再生	141, 207	スポット	95
再生ズーム	142	スポット測光位置	97
再生速度	136	スポットフォーカス	79
再生メディア選択	146	スマートズーム	103
彩度	110	スマートフォン操作設定	206
サイレント撮影	113	スマートフォン転送機能	206
削除	152	スライドショー	148
削除確認画面	209	スロー＆クイック設定	135
撮影結果レビュー	165	スロー＆クイックモーション	93
撮影設定1	197	スローシンクロ	124
撮影設定2	203	静止画撮影	42
シーン認識	85	静止画のファイル形式	81
自動電源OFF温度	209	静止画の保存先	179
自動発光	124	セーフティゾーン	138
視度調整	19	赤外線リモコン	174
		設定リセット	181

セットアップ	208	著作権情報	210
セピア	110	ディープ	109
ゼブラ設定	205	デジタルズーム	103, 104
セルフタイマー	70	手ブレ補正	116
セルフタイマー（連続）	71	手ブレ補正設定	116
全画素超解像ズーム	103, 104	デモモード	209
センター	138	テレビ鑑賞（Wi-Fi）	206
操作音	206	テレビで見る	154
操作部のロック	206	電球	106
ゾーン	46	電子音	206
測光モード	95	電子先幕シャッター	114
ソフトウェア	195	動画	92, 130
タ行			
対応メモリーカード	233	動画音声記録	137
対応レンズ	38	動画から静止画作成	144
ダイヤルの設定	205	動画記録設定	134
ダイヤル露出補正	206	動画記録方式	133
太陽光	106	動画の再生	143
ダイレクトマニュアルフォーカス		動画の露出モード	92
	44, 63	登録	157
タッチ操作	77	登録優先	202
タッチパッド設定	209	登録フォーカスエリア消去	199
タッチパネル/タッチパッド	77	登録呼び出し	91
タッチフォーカス	78	時計合わせ	39
縦記録画像の再生	143	ライブモード	67
縦横比	81	曇天	106
縦横フォーカスエリア切換	50	ナ行	
中央	46, 97	日時設定	39
中央重点	95	ニュートラル	109
中央ボタン押しロックオンAF	56	認証マーク表示	211
超解像ズーム	104	ネットワーク	206
調光補正	125	ネットワーク設定リセット	207
長秒時NR	118	ノイズリダクション	118

八行

バージョン表示	211
ハイライト重点	95
パソコン	192, 195
パソコン保存(Wi-Fi)	206
発光禁止	124
バルブ撮影	90
パワーセーブ開始時間	174
ピーキング設定	202
日陰	106
ピクセルシフトマルチ撮影	120
ピクチャーエフェクト	202
ピクチャープロファイル	202
飛行機モード	206
ヒストグラム	30
日付プリント	40
ビデオライトモード	204
瞳AF	52, 53
ビビッド	109
ビューモード	146
表示画質	209
ピント	44
ピント拡大	64
ピント拡大時間	202
ピント拡大初期倍率	202
ピント拡大中のAF	55
ファイル形式	81
ファイル番号	170
ファイル名設定	170
ファインダー	29
ファインダー明るさ	208
ファインダー色温度	208
ファインダーフレームレート	167
ファンクションボタン	19, 26
ファンクションメニュー設定	161

風音低減	203
風景	109
フォーカス	44
フォーカス位置連動	97
フォーカスエリア	46
フォーカスエリア自動消灯	200
フォーカスエリア登録機能	58
フォーカススタンダード	49
フォーカスセット	198
フォーカス表示	45
フォーカスマード	44
フォーカスロック	43
フォーマット	169
フォルダー形式	211
フォルダー新規作成	211
ライトモニタリング	168
ブラケット設定	76
フラッシュ	122
フラッシュブラケット	72
フラッシュモード	124
ブラビアリンク	155
プリAF	199
フリッカーレス撮影	112
プリント指定	207
フレキシブルスポット	46
プロキシー記録	140
プログラムオート	86
プログラムシフト	86
プロテクト	149
ペアリング	189
ヘルプガイド	3
ポートレート	109
ボリューム	144, 209
ホワイトバランス	106
ホワイトバランスブラケット	74

マ行

マークー設定	138
マークー表示	138
マイメニュー	162, 211
マウントアダプター	38
マスストレージ	192
マニュアル時のAPS-C S35撮影	83
マニュアルフォーカス	44, 62
マニュアル露出	89
マルチ	95
マルチインターフェースキー	21
マルチセレクター	25
マルチ測光時の顔優先	96
メディア残量表示	211
メディア選択	198
メニュー	196
メニュー一覧	197
メモリーカード	35, 169, 233
メモリーカード+HDMI	139
メモリーカードなしリリーズ	204
モードダイヤル	84
モニター	29
モニター明るさ	208
モニター表示	212

ヤ行

夜景	109
夕景	109
優先記録メディア	35, 171
横縦比	81

ラ行

ライト	109
ライブビュー表示	205
ルート証明書の読み込み	207

レーティング	150
レーティング設定(カスタムキー)	151
レックコントロール	177
連写	68
連写グループ表示	208
連写残量表示	69
レンズ	37
レンズなしリリーズ	204
レンズ補正	197
連続撮影	68
連続プラケット	72
ロー画像	81, 82
録音レベル	137
露出基準調整	201
露出設定ガイド	205
露出値ステップ幅	200
露出補正	94
露出補正值のリセット	200
露出補正の影響	201
ロックオンAF	46

ワ行

ワイド	46
ワイヤレスフラッシュ	127, 201
ワンタッチ(NFC)	182

数字/アルファベット順

1枚撮影	67
1枚プラケット	73
4K映像の出力先	139
24p/60p出力切換	176
A	87
AdobeRGB	111
AEL	98
AELボタン	128

AEロック	98	HDMI機器制御	178
AF	46	HDMI情報表示	176
AF-A	44	HDMI設定	175
AF-C	44	HDMIのみ(24p)	139
AF-C時の優先設定	198	HDMIのみ(30p)	139
AF/MFコントロール	51	HDR	99
AF-S	44	Imaging Edge Desktop	195
AF-S時の優先設定	198	Imaging Edge Mobile	182
AFオン	52	ISO AUTO	101
AF駆動速度	203	ISO AUTO低速限界	102
AFシステム	61	ISO感度	101
AF制御自動切り替え	44	JPEG	81
AF被写体追従感度	199, 203	JPEG画質	81
AF微調整	60	JPEG画像サイズ	80
AF補助光	59	M	89
APS-C/Super 35mm	83	MENU	196
AVCHD	133	MENUボタン	18, 196
Av/Tvの回転方向	205	MF	44, 62
AWB	106	MFアシスト	65
AWB時の優先設定	201	MOVIE (動画)ボタン	19, 130, 206
Bluetooth機能	182, 189	MTP	192
Bluetooth設定	189	NFC	182
BULB	90	NR	118
DISP	29	P	86
DISPボタン	31	PCリモート	192
DMF	44, 63	PCリモート設定	179
DRO	99	PlayMemories Home	195
DRO/オートHDR	99	RAW	81, 82
DROブラケット	75	RAW+JPEG	81
Dレンジオプティマイザー	99	RAW+J時のPC保存画像	180
FELロック	126	RAW記録方式	197
FINDER/MONITOR	166	S	88
Fn	26	S&Q	135
FTP転送機能	183, 206	sRGB	111
HDMI解像度	175	TC/UB設定	209

TC出力.....	177
USB.....	192
USB LUN設定	210
USB給電.....	179
USB接続.....	192
WB.....	106
Wi-Fi.....	182
Wi-Fi設定	206
XAVC S.....	133
XAVC S 4K	133
XAVC S HD.....	133

索引

索引